

令和 8 年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画 目次

高等学校通信教育規程第 4 条の 3 ・ 第14条第 1 項第 6 号及び第 2 項に基づき公表する

教科	科目	単位	報告	面接時数	頁
—	共通事項（全科目共通）	—	—	—	2
国語	現代の国語	2	6 回	2	3
国語	言語文化	2	6 回	2	4
国語	論理国語	4	12回	4	5
国語	文学国語	4	12回	4	6
国語	国語表現	4	12回	4	7
国語	古典探究	4	12回	4	8
地理歴史	地理総合	2	6 回	2	9
地理歴史	地理探究	3	9 回	3	10
地理歴史	歴史総合	2	6 回	2	11
地理歴史	日本史探究	3	9 回	3	12
地理歴史	世界史探究	3	9 回	3	13
公民	公共	2	6 回	2	14
公民	倫理	2	6 回	2	15
公民	政治・経済	2	6 回	2	16
数学	数学Ⅰ	3	9 回	3	17
数学	数学A	2	6 回	2	18
数学	数学Ⅱ	4	12回	4	19
数学	数学B	2	6 回	2	20
数学	数学Ⅲ	3	9 回	3	21
数学	数学C	2	6 回	2	22
理科	科学と人間生活	2	6 回	8	23
理科	物理基礎	2	6 回	8	24
理科	化学基礎	2	6 回	8	25
理科	化学	4	12回	16	26
理科	生物基礎	2	6 回	8	27
理科	生物	4	12回	16	28
理科	地学基礎	2	6 回	8	29
保健体育	体育	7	9回	35	30
保健体育	保健	2	6 回	2	31
学校設定	健康科学	3	3回	15	32
情報	情報Ⅰ	2	4 回	4	33
情報	情報Ⅱ	2	4 回	4	34
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	9 回	12	35
外国語	英語コミュニケーションⅡ	4	12回	16	36
外国語	英語コミュニケーションⅢ	4	12回	16	37
外国語	論理・表現Ⅰ	2	6 回	8	38
外国語	論理・表現Ⅱ	2	6 回	8	39
外国語	論理・表現Ⅲ	2	6 回	8	40
芸術	音楽Ⅰ	2	6 回	8	41
芸術	音楽Ⅱ	2	6 回	8	42
芸術	美術Ⅰ	2	6 回	8	43
芸術	美術Ⅱ	2	6 回	8	44
芸術	書道Ⅰ	2	6 回	8	45
芸術	書道Ⅱ	2	6 回	8	46
家庭	家庭基礎	2	4 回	4	47
家庭	家庭総合	4	8 回	8	48
特別活動	特別活動	—	—	30+	49
総合探究	総合的な探究の時間	3～6	6回	6	50

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画 【共通事項】

本紙は全科目に共通して適用される事項を定めるものであり、各科目の実施計画と一体として公表する。

■ 多様なメディアを利用した指導

登校が困難である生徒に対しては、学習指導要領に規定する放送視聴（ラジオ・テレビ放送およびインターネット放送）による面接指導の振替（免除）を実施することができる。教務担当者が該当番組等を選定し、当該生徒は放送視聴報告課題を作成して所属学習センターに提出する。
年間で計画的に行う必要があるため、申し出は年度初めの4月または10月とする。

■ 学習の成果に係る評価及び単位修得の認定に当たっての基準

報告課題・定期試験・面接指導を基に3観点で総合評価（配分は教科に応じ調整）。加えて、偏差値では測れない一人ひとりの「変化値（成長）」と心の育ちを、振り返りや面接指導で見取る。他者と比べない。

添削指導	所定の報告課題（レポート）をすべて提出し、添削指導を受けていること。
面接指導	所定の面接指導時数に出席していること。出席時数が授業時間数の1/2以上2/3未満の生徒に対しては、単位修得条件の補充を目的として補充指導を実施することができる（補充授業は教科単位で実施）。
試験	前期・後期の定期試験を受験し、所定の基準を満たしていること。
評価	上記に加え、知識・技能／思考・判断・表現／主体的に学習に取り組む態度の3観点で総合的に評価し、校長が単位の修得を認定する。

■ 学びに向かう姿勢の評価 ～星槎の三つの約束によるルーブリック～

「主体的に学習に取り組む態度」の評価にあたっては、学習への取り組み状況（授業態度、報告課題への取り組み、発言・発表への積極性）に加えて、星槎の三つの約束が授業の中で実際に行動として表れているかを、下記ルーブリックにより評価する。

三つの約束は星槎ETM拡充モデルのType1～3に対応する育ちの段階であり、生徒一人ひとりの歩みに応じて往還する。到達段階で他者と比べるのではなく、その生徒自身の「変化値（成長）」と心の育ちを見取る。

三つの約束（育ちの段階）	A 十分達成	B おおむね達成	C 努力を要する
Type1 人を認める ～まずは人（自分）を好きになる～	成功体験の積み重ねから自分を肯定でき、その上で仲間のよさを具体的に受けとめ、言葉にして伝えている。 異なる考えを自分の学びに取り入れている。	自分のできたことを認められるようになり、仲間の意見を最後まで聞いて受けとめようとしている。	自分や仲間のよさに目を向ける場面で、受けとめる姿勢が十分でない。
Type2 人を排除しない ～つぎは世界を広げる～	学年・年齢・立場を超えて多様な人と関わり、誰かのために働き、どんな時でも相手を想って参加しにくい仲間を学びの場に迎え入れている。	誰に対しても分け隔てなく接し、自分と異なる立場の人とも活動をともにしている。	特定の仲間との関わりに偏り、多様な人と関わろうとする姿勢が十分でない。
Type3 仲間をつくる ～さいごは協働してみる～	仲間とともに何かを作り上げる経験を重ね、人との適切な距離感を保ちながら、「弱い絆」も含めた新たな関わりを生み出している。	グループでの活動に参加し、仲間と協力しながら自分の役割を果たそうとしている。	協働する場面での参加や役割の遂行が十分でない。

■ 本計画の位置づけと根拠法令

※本計画は、学校教育法等の関係法令に基づき本校が高等学校の通信制の課程として実施する高等学校通信教育の計画である。正規の教育課程ではない教育活動（いわゆる通学コース等）とは明確に区別される。（根拠：高等学校通信教育規程第4条の3、第14条第1項第6号・第2項／高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン）

※実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。各科目の実施計画と併せて参照すること。

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：国語 / 科目：現代の国語 / 単位数：2 / 教科書：新編現代の国語（東京書籍） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：2単位時間（国語＝1単位あたり1時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なもののから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にします。

体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲 / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（試験範囲はレポート提出回数と同じ。規定回数を超える教材は「発展（試験範囲外）」）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回数	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 自己を見つめる						
こそめスープ	筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界にはせ。	身近なものから学ぶ	【知・技】言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解している。語句・語彙を豊かにしている。 【思・判・表】文章の種類を踏まえ、内容・構成・論理の展開を叙述に捉え、要旨を把握している。 【主】進んで筆者の気持ちの変化や考えを理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめ、話し合おうとしている。	1	1	1
ルリボシカミキリの青	筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。	身近なものから学ぶ	【知・技】常用漢字に慣れ、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方を理解している。 【思・判・表】場の状況に応じて資料や機器を効果的に用い、相手の理解が得られるよう表現を工夫している。 【主】粘り強く要旨を捉え、今までの学習を生かして自分の興味・関心を確認し、伝えようとしている。	1		
■前期 他者に出会う						
未来をつくる想像力	情報と想像力の関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。	仲間とともに学ぶ	【知・技】情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 【思・判・表】論点を共有し、考えを広げ深めながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。 【主】実際の生活を見直し、情報社会における自己の在り方について考えを深め、話し合おうとしている。	2		1
水の東西	「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通して、日本文化の特質について理解を深める。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】比喩・例示・言い換えなどの修辞、主張と論拠など情報と情報との関係を理解している。 【思・判・表】自分の立場や考えを明確にし、相手の反応を予想して話の構成や展開を工夫している。 【主】「東西」の文化の差異への理解を深め、日本の文化とその魅力について話し合おうとしている。	2		
■前期 視野を広げる						
スキマが育む都市の緑と生命のつながり	身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】語句や語彙の構造・特色・用法を理解し、話や文章の中で使っている。 【思・判・表】図表などの情報を相互に関連付け、書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めている。 【主】都市部の緑の在り方を述べた筆者の主張を理解し、自分の考える「都市の緑」を深めようとしている。	3		1
無数の色	色について論じた文章を、具体例の役割を押さながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。	身近なものから学ぶ	【知・技】文・話・文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思・判・表】論理の展開を予想しながら聞き、聞き取った情報を整理して考えを広げ深めている。 【主】進んで筆者の価値観や主張を理解し、色彩に対する自分の考えを深め、発表しようとしている。	3		
ハサミ 左利きだからこそ見えた世間	ハサミに関する筆者の体験について書かれた文章を読み、自分のものの見方を検討する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】実社会で必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】実社会の中から適切な題材を決め、情報の妥当性を吟味して伝えたいことを明確にしている。 【主】粘り強く筆者の体験と学びへの理解を深め、今までの学習を生かして考えを広げようとしている。	3		
■後期 社会と関わる						
綺麗日の日々	自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。	身近なものから学ぶ	【知・技】常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を文や文章の中で使っている。 【思・判・表】話し言葉の特徴を踏まえて話し、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 【主】進んで筆者の仕事に対する思いを理解し、自分が努力してきたことを発表しようとしている。	4	1	1
森で染める人	自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思・判・表】書き手の意図を解釈し、構成や論理の展開を評価するとともに自分の考えを深めている。 【主】粘り強く自然と融合した生き方への思いを理解し、仕事や生活について考えを深めようとしている。	4		
動きを引き出す言葉の力	コーチングにおける言葉の役割を踏まえ、仕事と言葉の関わりについて考える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴・役割・表現の特色を踏まえ、言葉遣いを理解し使っている。 【思・判・表】論点を共有し、考えを広げ深めながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。 【主】読書を通してさまざまな職種に関心を持ち、学習課題に沿って考えを深めようとしている。	4		
■後期 世界とつながる						
美しさの発見	「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解している。 【思・判・表】目的や意図に応じて書かれているかを確かめ、文章全体を整えたり捉え直したりしている。 【主】自分が「美しさ」を発見したのについて、聞き手を想定して伝えようとしている。	5		1
りんごのほっぺ	出来事の流れに着目しながら、数時々の人々の状況と、作品に一貫する筆者の思いを読み取る。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思・判・表】自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えている。 【主】粘り強く筆者の思いを理解し、戦争体験を語り継ぐ意義を考え、話し合おうとしている。	5		
人生という旅の豊かな人間関係	具体例から筆者の主張やタンザニアの人々の価値観を読み取り、自分の体験や考えと比較する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増している。 【思・判・表】実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集・整理し検討している。 【主】筆者の体験や考えから異なる価値観への理解を深め、異文化に興味をもとうとしている。	5		
■後期 未来に目を向ける						
天動説はなぜ「正しかった」か？	タイトルや具体例に注意して、科学についての筆者の考えを読み取る。	身近なものから学ぶ	【知・技】主張と論拠など情報と情報との関係を理解し、推論の仕方を理解し使っている。 【思・判・表】文章の種類を踏まえ、内容や構成、論理の展開を捉え、要旨や要点を把握している。 【主】進んで科学についての筆者の考えの理解を深め、自らの考えを広げようとしている。	6		1
真の自立とは	「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】語感を磨き語彙を豊かにし、文章の組み立て方や接続の仕方を理解している。 【思・判・表】根拠の示し方や説明の仕方を考え、文体・語句などの表現の仕方を工夫している。 【主】積極的に現代の状況に関心を持ち、「自立」の観点から自分の考えをまとめようとしている。	6		
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登録日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定2	追加6
記入欄	学習センター名： / 登録形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）へ学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。
これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定2単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	追加登校面接時数は各学習センターの登録日数に応じて上乗せする。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和 8 年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：国語 / 科目：言語文化 / 単位数：2 / 教科書：新編言語文化（東京書籍） / 報告課題：6 回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：2 単位時間（国語＝1単位あたり1時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なもののから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第 1 ～ 3 回の範囲 / 後期＝報告課題第 4 ～ 6 回の範囲（試験範囲はレポート提出回数と同じ。規定回数を超える教材は「発展（試験範囲外）」）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 現代文編（随筆・小説）						
さくらさくら さくら	引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】言葉には文化の継承・発展・創造を支える働きがあることを理解している。 【思・判・表】作品に表れているものの見方・感じ方・考え方を捉え、内容を解釈している。 【主】進んで桜への感性を理解し、本文や引用歌の考察を踏まえて筆者の思いを整理しようとしている。	1	1	1
とんかつ	会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。	仲間とともに学ぶ	【知・技】言語文化に特徴的な語句の量を増し、文化的背景への理解を深めている。 【思・判・表】文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 【主】描写から登場人物の心情の変化を読み取り、主題について考えようとしている。	1		
■前期 現代文編（詩歌）						
柳あをめる	短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉にこめられた情景や心情を読み取る。	身近なもののから学ぶ	【知・技】言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 【思・判・表】文章の種類を踏まえ、内容・構成・展開を叙述を基に的確に捉えている。 【主】進んで短歌の特徴と表現効果を理解し、歌にこめられた情景や心情を読み取ろうとしている。	2		1
雪の深さを	俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。	身近なもののから学ぶ	【知・技】言語文化に特徴的な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】作品に表れているものの見方・感じ方・考え方を捉え、内容を解釈している。 【主】進んで俳句の特徴と表現効果を理解し、句の主題を読み取ろうとしている。	2		
冬が来た	比喩とリレーマンの効果を理解して詩を読み味わい、作者のものの感じ方について考える。	身近なもののから学ぶ	【知・技】言葉には文化の継承・発展・創造を支える働きがあることを理解している。 【思・判・表】文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 【主】進んで表現の効果を理解し、作者のものの感じ方について考えようとしている。	2		
■前期 現代文編（小説）						
羅生門	極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】文章の意味は文脈の中で形成されることを理解している。 【思・判・表】作品の内容や解釈を踏まえ、自分の見方・感じ方・考え方を深めている。 【主】見解をまとめ、発表や討論を通じて得た他の意見も踏まえながら考えを深めようとしている。	3		1
夢十夜	表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わう。	身近なもののから学ぶ	【知・技】我が国の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解している。 【思・判・表】作品の成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 【主】文章の構成や表現の特色を捉え、小説の独自の世界を味わおうとしている。	3		
■後期 古文編（随筆・詩歌）						
徒然草	随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。	身近なもののから学ぶ	【知・技】古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現を理解している。 【思・判・表】作品の成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 【主】進んで文語のきまりを理解し、作者の考えを的確に捉えようとしている。	4	1	1
折々のうた	詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を学ぶ。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】本歌取りや見立てなど言語文化に特徴的な表現の技法と効果を理解している。 【思・判・表】作品の内容や解釈を踏まえ、言語文化について自分の考えをもっている。 【主】和歌における表現の特色を理解し、ものの見方・感じ方・考え方を読み取ろうとしている。	4		
枕草子	作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。	身近なもののから学ぶ	【知・技】古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 【思・判・表】作品に表れているものの見方・感じ方・考え方を捉え、内容を解釈している。 【主】作者のものの見方や考え方を捉え、自分と関係づけて考えようとしている。	4		
■後期 古文編（物語・紀行）						
伊勢物語	歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 【思・判・表】文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 【主】歌物語の特徴や表現の仕方を理解し、各章段の内容を的確に捉えようとしている。	5		1
平家物語	軍記物語特有の表現に注目しながら、登場人物の言動や心情を読み取る。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現を理解している。 【思・判・表】作品の内容や解釈を踏まえ、言語文化について自分の考えをもっている。 【主】軍記物語特有の表現を理解し、登場人物の言動や心情を読み取ろうとしている。	5		
奥の細道	構成に注目しながら、作品にこめられた思いを読み取る。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】我が国の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解している。 【思・判・表】作品の成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 【主】文章の構成や展開を理解し、作品に込められた作者の思いを読み取ろうとしている。	5		
■後期 漢文編						
訓読の基本	漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。	身近なもののから学ぶ	【知・技】古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 【思・判・表】文章の種類を踏まえ、内容・構成・展開を叙述を基に的確に捉えている。 【主】漢文の特色や訓読のきまりを理解し、古典を学ぶ意味について考えを持とうとしている。	6		1
論語一八章	孔子の学問・人間・政治に対する考え方を豊かに、ものの見方や考え方を豊かにする。	仲間とともに学ぶ	【知・技】古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 【思・判・表】作品に表れているものの見方・感じ方・考え方を捉え、内容を解釈している。 【主】『論語』のものの見方や考え方を理解し、自分の見方や考え方を豊かにしようとしている。	6		
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全 6 回	法定 2	追加 6
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週 5 ・週 3 ・週 1 等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につながる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全 6 回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定 2 単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおりに	追加登校面接時数は各学習センターの登校日数に応じて上乗せする。
試験	前期試験（報告課題第 1 ～ 3 回の範囲）	1 回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	
試験	後期試験（報告課題第 4 ～ 6 回の範囲）	1 回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科: 国語 / 科目: 論理国語 / 単位数: 4 / 教科書: 新編論理国語 (東京書籍) / 報告課題: 12回 / 定期試験: 前期・後期各1回 / 面接指導: 4 単位時間 (国語＝1単位あたり1時数×4単位)

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものをから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～6回の範囲 / 後期＝報告課題第7～12回の範囲（試験範囲はレポート提出回数と同じ。規定回数を超える教材は「発展（試験範囲外）」）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のためて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 広がる風景／考える手がかり						
対話とは何か	対話についての筆者の考えを捉え、日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。	仲間とともに学ぶ	【知・技】言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりする働きがあることを理解している。 【思・判・表】内容・構成・論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 【主】「おしゃべり」と「対話」の違いを捉え、自分のコミュニケーションを振り返り話し合おうとしている。	1	1	
少女たちの「ひろしま」	戦時下になした人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える態度を養う。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 【思・判・表】人間・社会・自然について、内容や解釈を多様な論点や価値観と結び付け考えを深めている。 【主】筆者独自の「視点」を理解し、戦時下の人々の日常と自分との接点について考えを深めようとしている。	2		1
■前期 人間と知性／現実の中で						
ラップトップ抱えた「石器人」	事実と主張の関係を注意して文章を読み、人間の脳の働きについて考える。複数の文章を比較して考えを深める。	身近なものから学ぶ	【知・技】推論の仕方について理解を深め使っている。 【思・判・表】複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて考えを広げたり深めたりしている。 【主】主張を事実との関係に注意して読み取り、複数の文章を読み比べて考えを深めようとしている。	3	1	
思考の弾力性	比喻表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。	身近なものから学ぶ	【知・技】論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増している。 【思・判・表】構成や論理の展開、表現の仕方を、書き手の意図との関係で多面的・多角的に評価している。 【主】比喻によって表現された主張を読み取り、「思考」のあるべき姿の理解を深めようとしている。	4		
■前期 ものの見方／働くよこび						
複数の「わたし」	文章に示された考え方が手掛かりに、「わたし」の捉え方について理解を深める。	仲間とともに学ぶ	【知・技】新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めている。 【思・判・表】主張を支える根拠や論拠を批判的に検討し、妥当性や信頼性を吟味して解釈している。 【主】筆者の言う「わたし」の捉え方を理解し、「わたし」に対する見方を広げようとしている。	5		1
素に働くこと、素しく働くこと	素しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解し、働くことについて理解を深める。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 【思・判・表】関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深めている。 【主】それぞれの筆者の立場に基づく考えを理解し、「働くよこび」について考えをまとめ話し合おうとしている。	6		
■後期 時代をひらく／新しい視点から						
豊かさや生物多様性	論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】論証するために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】主張を支える根拠や論拠を批判的に検討し、妥当性や信頼性を吟味して解釈している。 【主】叙述に基づいて主張を的確に捉え、生物多様性の重要性と課題の理解を深めようとしている。	7	1	
カフェの開店準備	日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手掛かりにして、自分の日常を見つめ直す。	身近なものから学ぶ	【知・技】文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 【思・判・表】文章の種類を踏まえて資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。 【主】具体例を通して筆者の思考をたどり、自分の経験を振り返って日常生活の在り方をまとめようとしている。	8		1
■後期 科学と人間／豊かな認識						
ロボットが隣人になるとき	哲学的な思考に沿って書かれた評論を読んで、人間の意志や自由について理解を深める。	仲間とともに学ぶ	【知・技】言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりする働きがあることを理解している。 【思・判・表】人間・社会・自然について、内容や解釈を多様な論点や価値観と結び付け考えを深めている。 【主】筆者の哲学的な思考を理解し、人間の意志や自由について考えを深め意見を述べようとしている。	9	1	
言葉は「ものの名前」ではない	言語と認識の関係について具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。	身近なものから学ぶ	【知・技】論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増している。 【思・判・表】主張を支える根拠や論拠を批判的に検討し、妥当性や信頼性を吟味して解釈している。 【主】具体例をもとに言語と認識の関係を読み取り、言葉の働きについてまとめ話し合おうとしている。	10		1
■後期 知のゆくえ／明日をみつめて						
知識における作者性と構造化	インターネットと本を比較しながら書かれた評論を読み、情報と知識について理解を深める。	身近なものから学ぶ	【知・技】文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 【思・判・表】人間・社会・自然について、内容や解釈を多様な論点や価値観と結び付け考えを深めている。 【主】「情報」と「知識」の理解を深め、自身のネット情報の扱い方を振り返り話し合おうとしている。	11		
ホンモノのおカネの作り方	二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。	仲間とともに学ぶ	【知・技】論証するために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深めている。 【主】問題提起と結論を具体例から読み取り、「貨幣」の本質を経済の仕組みとともに理解しようとしている。	12		
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全12回	法定 4	追加 4
記入欄	学習センター名: / 登校形態（週5・週3・週1等）: / 合計面接指導時数:					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れて教科の学びと生き方につながる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。					
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日		備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全12回	別掲「年間行事予定表」のとおり		
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定 4 単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり		追加登校面接時数は各学習センターの登校日数に応じて上乗せする。
試験	前期試験（報告課題第1～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり		
試験	後期試験（報告課題第7～12回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり		

令和 8 年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：国語 / 科目：文学国語 / 単位数：4 / 教科書：文学国語（東京書籍） / 報告課題：12回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：4 単位時間（国語＝1単位あたり1時数×4単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共通理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にすること。
体験（スクーリング） → 共通理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～6回の範囲 / 後期＝報告課題第7～12回の範囲（試験範囲はレポート提出回数と同じ。規定回数を超える教材は「発展（試験範囲外）」）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共通理解の視点	評価の観点（知・技・思・判・表・主）	報告課題数	面接指導時数（法定）	追加登校面接回数
■前期 随筆						
光の窓	筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考える。	身近なものから学ぶ	【知・技】言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 【思・判・表】内容・構成・展開・描写の仕方などを的確に捉えている。 【主】言葉と感覚との関係について筆者の捉え方を理解し、自分の経験を振り返って発表しようとしている。	1	1	
雨月物語	筆者の考え方の変化を捉え、「雨月物語」が筆者にとどのような影響を与えたかを考える。	身近なものから学ぶ	【知・技】文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 【思・判・表】作品の内容や解釈を踏まえ、人間・社会・自然に対する見方や考え方を深めている。 【主】作品が筆者に与えた影響を読み取り、「物語」についての自分の考えをまとめようとしている。	1		
■前期 小説						
山月記	登場人物の心情を表現に即して捉え、主人公の内面と苦悩について考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】文学的な文章における文体的特徴や修辭などの表現の技法を体系的に理解している。 【思・判・表】語り手の視点や場面の設定、表現の特色を評価することを通して内容を解釈している。 【主】主人公の内面と苦悩を理解して、その生き方について考え話し合おうとしている。	2	1	
山椒魚	登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、感情を敏感に感覚を豊かにしている。 【思・判・表】文章の構成や展開、表現の仕方などを踏まえ、解釈の多様性について考察している。 【主】作品に込められた寓意について、自分自身の生き方や考え方に触れながらまとめようとしている。	3		
■前期 詩歌						
竹	特徴的なリズムや表現に気づき、それがどのような効果をもたらしているかを読み取る。	身近なものから学ぶ	【知・技】言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 【思・判・表】語り手の視点や場面の設定、表現の特色を評価することを通して内容を解釈している。 【主】作品の表現の特徴とその効果を把握し、作者の心情を読み取ろうとしている。	4		
永訣の朝	描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、感情を敏感に感覚を豊かにしている。 【思・判・表】内容・構成・展開・描写の仕方などを的確に捉えている。 【主】作品の主題と、それを変える変えた表現を見つこうとしている。	4		
硝子の駒―短歌抄	短歌独自の表現と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。	身近なものから学ぶ	【知・技】文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 【思・判・表】他の作品と比較するなどして、文体的特徴や効果について考察している。 【主】短歌独自の表現と表現効果を理解し、印象に残った歌の理由を考えまとめようとしている。	4		
モードの変遷	具体例として挙げられた短歌の表現の特徴を理解し、時代の変化との関わりを考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 【思・判・表】作品が成立した背景や他の作品との関係を読み、作品の解釈を深めている。 【主】短歌の表現の特質を理解し、選んだ短歌の「時代性」の反映についてまとめようとしている。	4		1
■前期 評論・小説						
文学のふもと	具体例と筆者の主張との関係に注意して評論を読み、文学のよるところについて理解を深める。	身近なものから学ぶ	【知・技】情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、感情を敏感に感覚を豊かにしている。 【思・判・表】作品の内容や解釈を踏まえ、人間・社会・自然に対する見方や考え方を深めている。 【主】文学のふもとについて筆者の考えを理解しまとめようとしている。	5		
栞	寓意に注意しながら小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。	仲間とともに学ぶ	【知・技】文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 【思・判・表】文章の構成や展開、表現の仕方などを踏まえ、解釈の多様性について考察している。 【主】寓意が表しているものを読み取り、作者が描こうとした意図について考えようとしている。	6		1
あの朝	場面ごとの設定を押さえて、その転換に伴う登場人物の状況や心情の変化を読み取る。	身近なものから学ぶ	【知・技】情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、感情を敏感に感覚を豊かにしている。 【思・判・表】語り手の視点や場面の設定、表現の特色を評価することを通して内容を解釈している。 【主】心情の変化を読み取り、自分の「なくすことで好きになったもの」と比較して話し合おうとしている。	6		
■後期 随筆						
国語が立派って	筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。	仲間とともに学ぶ	【知・技】人間・社会・自然に対する見方を豊かにする読書の意義と効用を理解している。 【思・判・表】作品の内容や解釈を踏まえ、人間・社会・自然に対する見方や考え方を深めている。 【主】筆者の言語体験に基づいた考えを読み取り、言葉と自分との関係を深めようとしている。	7	1	
書かれた風景の中へ	筆者の読書体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。	身近なものから学ぶ	【知・技】文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 【思・判・表】成立した題材に関連する複数の作品を読み、自分の中の見方や考え方を深めている。 【主】二つの随筆を比べ、日本語の特色について考え話し合おうとしている。	7		
■後期 詩歌						
夏の宴	象徴的な表現が示している内容を理解し、描かれた情景や心情を読み取る。	身近なものから学ぶ	【知・技】言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 【思・判・表】語り手の視点や場面の設定、表現の特色を評価することを通して内容を解釈している。 【主】象徴的な表現が示す内容を理解し、詩に描かれた情景や作者の心情を読み取ろうとしている。	8		1
金剛の露――俳句抄	俳句独自の表現と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。	身近なものから学ぶ	【知・技】情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、感情を敏感に感覚を豊かにしている。 【思・判・表】他の作品と比較するなどして、文体的特徴や効果について考察している。 【主】想像力を働かせながら句の主題を読み取り、印象に残った句について考えようとしている。	8		
平気――正岡国規	韻文とその解釈によって描き出される人物像を的確に捉え、人間と文学の関係について考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 【思・判・表】作品の内容や解釈を踏まえ、人間・社会・自然に対する見方や考え方を深めている。 【主】描き出される人物像の違いを捉え、筆者の主張を読み取り自分の考えをまとめようとしている。	8		
■後期 戯曲						
父と暮せば	対話の軸にした構成に注意しながら戯曲を読み、登場人物の心情と人間の幸福について考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】人間・社会・自然に対する見方を豊かにする読書の意義と効用を理解している。 【思・判・表】作品の内容や解釈を踏まえ、人間・社会・自然に対する見方や考え方を深めている。 【主】対話の中から登場人物の状況や心情を読み取り、「平和」や「生きること」を考えようとしている。	9		
【言語活動】小説を脚本に書き換える	小説の一場面を脚本に書き換える小説と脚本それぞれの特徴について理解を深める。	仲間とともに学ぶ	【知・技】文学的な文章やそれに関する文章の理解や特徴などについて理解を深めている。 【思・判・表】他の作品と比較するなどして、文体的特徴や効果について考察している。 【主】小説と脚本を比較し、違いについて話し合いそれぞれの表現をまとめようとしている。	9		
■後期 小説・評論						
短促	構成と時代背景に注意しながら主人公の成長を読み取り、人生の選択について考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】文学的な文章における文体的特徴や修辭などの表現の技法を体系的に理解している。 【思・判・表】作品の内容や解釈を踏まえ、人間・社会・自然に対する見方や考え方を深めている。 【主】主人公の考え方や行動を時代背景を踏まえて読み取り、自分の考えをまとめ話し合おうとしている。	10		1
演技する「私」	筆者の主張の展開を押さえて、小説における作者と小説内の「私」との関係について考える。	身近なものから学ぶ	【知・技】文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 【思・判・表】内容・構成・展開・描写の仕方などを的確に捉えている。 【主】作者と小説内の「私」との関係について理解し、考えをまとめようとしている。	11		
映画の可能性のために	映画と小説を題材にした評論を読み、作品を成立させる視点のあり方について理解を深める。	仲間とともに学ぶ	【知・技】人間・社会・自然に対する見方を豊かにする読書の意義と効用を理解している。 【思・判・表】作品の内容や解釈を踏まえ、人間・社会・自然に対する見方や考え方を深めている。 【主】視点の違いを理解し、選んだ作品がどちらの視点であるかを考えまとめ話し合おうとしている。	11		
蜆	視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、作品の主題について複数の観点から考え話し合おうとしている。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、感情を敏感に感覚を豊かにしている。 【思・判・表】作品が成立した背景や他の作品との関係を読み、作品の解釈を深めている。 【主】描かれた場面や状況を読み取り、作品の主題について複数の観点から考え話し合おうとしている。	12	1	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登録日数に応じた上乗せを各校舎が記入する。			全12回	法定4	追加4
記入欄	学習センター名:	/	登校形態（週5・週3・週1等）:	/	合計面接指導時数:	

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学ぶ通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は各校と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全12回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定4 単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	追加登校面接時数は各学習センターの登録日数に応じた上乗せする。
試験	前期試験（報告課題第1～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第7～12回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：国語 / 科目：国語表現 / 単位数：4 / 教科書：国語表現（東京書籍） / 報告課題：12回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：4単位時間（国語＝1単位あたり1時数×4単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。個差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～6回の範囲 / 後期＝報告課題第7～12回の範囲（試験範囲はレポート提出回数と同じ。規定回数を超える教材は「発展（試験範囲外）」）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のため	共理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 情報の整理・伝達／インタビュー						
分かりやすく説明しよう	情報を整理し、「相手」「内容」「目的」「状況」に応じて、分かりやすく伝える方法を身につける。	仲間とともに学ぶ	【知・技】言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。 【思・判・表】相手の反応に応じて言葉を選び、同意や共感が得られるように表現を工夫している。 【主】言葉遊びや情報の整理などの観点から、説明の仕方を改善しようとしている。	1	1	
「問い」を考えよう（インタビュー）	問う力・質問力が他者の表現および思考の質に大きく関わることを認識し、その活用法を習得する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを使い分けている。 【思・判・表】視点を明確にして聞き、相手の思いや考えを引き出す工夫をして考えを深めている。 【主】「問う力」の重要性を理解し、企画・準備・実施・記事の執筆に見通しをもって臨もうとしている。	2		1
■前期 面接・自己PR／小論文						
「自分」を表現しよう（面接・自己PR）	自己分析を行い、第三者の意見も踏まえて客観的に「自分」を把握し、相手に伝わるように表現する。	身近なものから学ぶ	【知・技】自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増している。 【思・判・表】情報の組み合わせを工夫して、伝えたいことを明確にしている。 【主】共感をもって聞いた人読んだりしてもらうために必要なことを理解し、表現を改善しようとしている。	3	1	
論理的な文章を書こう（小論文）基礎	小論文の型・タイプを理解し、主張と根拠の関係をつかむ。	身近なものから学ぶ	【知・技】実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 【思・判・表】適切な根拠を効果的に用い、反論を想定して論理の展開を考えている。 【主】説明に応じて主張を組み立て、根拠を明確にしながら論じることを理解しようとしている。	4		
テーマ型小論文	与えられたテーマについて自問自答しながら、自分の考えを明確にして論じる。	身近なものから学ぶ	【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深めている。 【思・判・表】自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど表現を工夫している。 【主】学習の見通しをもって自らの文章を改善しようとしている。	5		
テーマ型小論文（執筆・推敲）	構成メモを作成して実際に執筆し、推敲のチェック項目に沿って自分の文章を整える。	身近なものから学ぶ	【知・技】自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増している。 【思・判・表】効果的に伝わるように書かれているかを吟味して、文章全体を整えている。 【主】助言を踏まえ、自分の文章の特長や課題を捉え直そうとしている。	6		1
■後期 小論文の各タイプ						
課題文型小論文	課題文の主旨を踏まえて要旨をまとめ、論点を挙げて自分の考えを述べる。	身近なものから学ぶ	【知・技】実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 【思・判・表】読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いて論理の展開を考えている。 【主】課題文型小論文作成の流れを振り返り、自らの文章を改善しようとしている。	7	1	
データ分析型小論文	グラフや表を読み取り、複数の図表を合わせて論点を見だし、自分の考えを述べる。	身近なものから学ぶ	【知・技】自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増している。 【思・判・表】情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。 【主】図表の読み取りを粘り強く行い、論点を吟味してまとめようとしている。	8		
自己PR型小論文	経験や実績などを具体例として挙げながら、自分の長所や思いを述べる。	身近なものから学ぶ	【知・技】伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを使い分けている。 【思・判・表】読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置している。 【主】自分の長所を表すエピソードを吟味し、構成を工夫して書こうとしている。	9		1
■後期 ファシリテーション／広報資料／提案						
話し合う力をつけよう（ファシリテーション）	合意形成を目的とする話し合いの展開と、ファシリテーションの概念・基本的なスキルを学ぶ。	仲間とともに学ぶ	【知・技】言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。 【思・判・表】互いの主張や論拠を吟味し、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。 【主】ファシリテーションの意義や技法を理解し、話し合いの中で積極的に実践しようとしている。	10		
情報活用力を身につけよう（広報資料）	正確な情報を見極め、その情報を目的に合わせて効果的な表現で発信する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 【思・判・表】目的や意図に応じて適切な題材を決め、伝えたいことを明確にしている。 【主】読み手に伝えたい情報を吟味し、話し合いながら協力してよりよい広報資料を作ろうとしている。	11		1
説得力のある提案をしよう（プレゼンテーション）	効果的で印象的なプレゼンテーションの仕方や、相手の心を動かす表現について理解する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深めている。 【思・判・表】場の状況に応じて資料や機器を効果的に用い、同意や共感が得られるよう工夫している。 【主】説得力のある提案をするために必要なことを理解し、今までの学習を生かして実践しようとしている。	11		
附録 語彙を広げる（同音・同訓異義語／四字熟語／類義語・慣用語・対義語）	語句の意味を理解し、実践的に使用できるようにする。	身近なものから学ぶ	【知・技】自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 【思・判・表】語句を用いて短文を作り、表現の仕方を工夫している。 【主】語彙を広げること粘り強く取り組み、実際の表現に生かそうとしている。	12	1	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全12回	法定4	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を変える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は各校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全12回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定4単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおりに	追加登校面接時数は各学習センターの登校日数に応じて上乗せする。
試験	前期試験（報告課題第1～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	
試験	後期試験（報告課題第7～12回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：国語 / 科目：古典探究 / 単位数：4 / 教科書：新編古典探究（東京書籍） / 報告課題：12回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：4 単位時間（国語＝1単位あたり1時数×4単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。価値だけでなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がりが） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～6回の範囲 / 後期＝報告課題第7～12回の範囲（試験範囲はレポート提出回数と同じ。規定回数を超える教材は「発展（試験範囲外）」）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 古文編 說話に親しむ						
宇治拾遺物語（小野篁、広オのこと）／十訓抄（大江山の歌）	展開のおもしろさを味わいながら說話を正確に読み取り、和歌を含んだ說話の構成を捉える。	身近なもののから学ぶ	【知・技】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語感を豊かにしている。 【思・判・表】文章の種類を踏まえ、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【主】古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、說話を正確に読み取ろうとしている。	1	1	
宇治拾遺物語（空を飛ぶ者）	絵巻の内容も踏まえながら說話を読み取り、内容についての理解を深める。	身近なもののから学ぶ	【知・技】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思・判・表】作品の成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、作品の価値について考察している。 【主】絵巻と本文とを関連付けて捉え、内容についての理解を深めようとしている。	1		
■前期 古文編 隨筆を読む／和歌の世界						
徒然草（丹波に出雲といふ所あり／九月二十日のころ／花は盛り）	隨筆に書かれている作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	身近なもののから学ぶ	【知・技】古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 【思・判・表】書き手の考えや意図を捉えて解釈し、構成や展開、表現の特色を評価している。 【主】各章段の構成や内容を的確に捉え、作者のものの見方・考え方を読み取ろうとしている。	2		1
『徒然草』と『玉葉園』を読み比べる	隨筆を読み比べ、作者の考え方の違いについて考察する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めている。 【思・判・表】多面的・多角的な視点から評価し、言語文化について自分の考えを深めている。 【主】隨筆を読み比べ、作者の考え方の違いについて考察しようとしている。	2		
小倉百人一首の世界	和歌を多面的・多角的な視点から評価することを通して、言語文化について自分の考えを深める。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 【思・判・表】古典を多面的・多角的な視点から評価し、言語文化について考えを広げ深めている。 【主】和歌を多面的に評価し、言語文化についての自分の考えを深めようとしている。	3		
■前期 古文編 日記を読む／隨筆を味わう／歌物語を楽しむ						
土佐日記（馬のはなむけ／帰京）	表現の特色を踏まえて、作品に込められた意図を考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思・判・表】作品の成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、作品の価値について考察している。 【主】作品の表現や形式の特徴を理解し、作者の意図を読み取ろうとしている。	4	1	
更級日記（門出）	他の作品との関係も踏まえながら日記を読み、作者の心情を的確に捉える。	身近なもののから学ぶ	【知・技】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思・判・表】内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたうえで深めたりしている。 【主】日記文字の位置づけを理解し、作者の境遇や物語への心情を読み取ろうとしている。	4		
枕草子（あかりたきもの／中納言参り給ひて）	隨筆の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を捉える。	身近なもののから学ぶ	【知・技】時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉に与えた影響を理解している。 【思・判・表】ものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間や社会に対する自分の考えを深めている。 【主】作者の観察眼や「をかし」の価値観を理解し、現代にも通ずる心情を深めようとしている。	5		
伊勢物語（初冠／東下り）	歌物語の特色に注意しながら、物語に書かれているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 【思・判・表】書き手の考えや意図を捉えて解釈し、構成や展開、表現の特色を評価している。 【主】歌物語の特徴を理解し、登場人物の心情やものの見方・考え方を読み取ろうとしている。	6		1
■後期 古文編 歴史物語を読む／作り物語を味わう						
大鏡（道具の左遷／三郎の才）	作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 【思・判・表】作品の成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、作品の価値について考察している。 【主】人物関係や時代背景を調べ、登場人物の心情や人物像の理解を深めようとしている。	7	1	
【主語活動】道具伝説を調べる	関心を持った事柄について調べ、ものの見方、感じ方、考え方を深める。	仲間とともに学ぶ	【知・技】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、語感を豊かにしている。 【思・判・表】関心をもった事柄に関連する古典を基に、自分のものの見方や考え方を深めている。 【主】調べたい事柄を選定し、さまざまな資料を調べてまとめるようとしている。	7		
源氏物語（光源氏の誕生／若衆）	他の作品や絵画との関係も踏まえながら、作り物語の内容を的確に読み取る。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉に与えた影響を理解している。 【思・判・表】多面的・多角的な視点から評価し、言語文化について自分の考えを深めている。 【主】絵画や他作品と本文を比較し、登場人物の言動と話の意味を考察しようとしている。	8		1
■後期 漢文編 故事と小話／唐詩と文						
小話—四編（蛇足／断簡／知音）	漢文の読み方を確認し、興味を持った内容を調べることで理解を深める。	身近なもののから学ぶ	【知・技】我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 【思・判・表】文章の種類を踏まえ、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【主】漢文の読み方を確認し、故事成語の成り立ちや漢文の受容について考えようとしている。	9		
唐詩—八首	漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】先人のものの見方に親しみ、自分のものの見方を豊かにする読書の意義を理解している。 【思・判・表】作品の成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、作品の価値について考察している。 【主】さまざまな唐詩を読み味わい、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。	10		
■後期 漢文編 史記を読む／中国の思想						
項羽と劉邦（鴻門之会／四面楚歌／項王自刎）	登場人物の行動や心情、起こった出来事などを捉え、感じたことを話し合う。	仲間とともに学ぶ	【知・技】古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 【思・判・表】ものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間や社会に対する自分の考えを深めている。 【主】登場人物の行動や心情、出来事捉え、感じたことを話し合おうとしている。	11		1
儒家と道家（論語—三章／性相近也／不忍人之心／人之性惡／無用之用／大道廣、有仁義）	古代中国のさまざまな思想を比較し、人間のあり方について討論を試みる。	仲間とともに学ぶ	【知・技】先人のものの見方に親しみ、自分のものの見方を豊かにする読書の意義を理解している。 【思・判・表】書き手の考えや意図を捉えて解釈し、構成や展開、表現の特色を評価している。 【主】諸思想を比較し、人間のあり方について自分の考えをもって話し合おうとしている。	12	1	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全12回	法定 4	追加 4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、週に1回が学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は各校と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につながる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的の実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全12回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定4 単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	追加登校面接時数は各学習センターの登校日数に応じて上乗せする。
試験	前期試験（報告課題第1～6回の範囲）	1 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：地理歴史 / 科目：地理総合 / 単位数：2 / 教科書：地理総合（東京書籍） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：2単位時間（地理歴史＝1単位あたり1時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にします。

体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（第1編・第2編1章前半） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（第2編後半・第3編）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告 課題回	面接指導時 数 （法定）	追加登校 面接時数
■前期 第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界／第2編 国際理解と国際協力						
第1編1章 地図と地理情報システム （私たちが暮らす世界／地図・GISの役割）	さまざまな地図と地理情報について、情報収集の方法や読み取り方、利用のしかたを学ぶ。	身近なものから学ぶ	【知・技】地図や地理情報システムを用いて、諸資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【思・判・表】位置や分布、場所に注目して、事象の意味や相互の関連を多面的・多角的に考察している。 【主】見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとしている。	1	1	1
第1編2章 資料から読み取る現代世界 第2編1章 人々の生活文化と多様な地理的環境（生活文化の多様性と国際理解）	国家間の結び付きと多極化する世界の変化を理解し、生活文化の地域性と多様性を学ぶ。	仲間とともに学ぶ	【知・技】世界の生活文化の多様性や地域・地球的課題への取り組みなどを理解している。 【思・判・表】空間的相互依存作用に着目して考察し、考えを効果的に説明している。 【主】世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについて自覚を深めている。	2		1
第2編1章 人々の生活文化と多様な地理的環境（生活文化と自然環境①地形②気候）	山地・平野・海岸の暮らしや多様な気候と人々の暮らしの関わりを学ぶ。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】人間と自然環境との相互依存関係についての理解を深めている。 【思・判・表】自然環境と生活の関係を、地域に着目して多面的・多角的に考察している。 【主】諸事象について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。	3		1
■後期 第2編 国際理解と国際協力／第3編 持続可能な地域づくり						
第2編1章 人々の生活文化と多様な地理的環境（生活文化と社会環境①産業②宗教・民族） 2章 さまざまな地球的課題と国際協力（地球環境問題・資源エネルギー問題）	産業や宗教・民族と生活文化の関わりを理解し、地球環境・資源エネルギー問題を学ぶ。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】地球的課題への国際協力の取り組みについて理解している。 【思・判・表】概念などを活用して多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けて構想している。 【主】課題を主体的に追究、解決しようとしている。	4	1	1
2章 さまざまな地球的課題と国際協力（人口問題・食料問題・居住都市問題・民族問題・持続可能な社会）	人口・食料・居住都市・民族問題などに対して、国際協力の視点から取り組みと解決策を学ぶ。	仲間とともに学ぶ	【知・技】諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【思・判・表】考察・構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論している。 【主】よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとしている。	5		1
第3編1章 自然環境と防災 2章 生活圏の調査と地域の展望	日本の自然環境の特色を理解し、自然災害発生時のリスクと防災対策について考えを深める。	身近なものから学ぶ	【知・技】防災や地域の課題への取り組みなどを理解している。 【思・判・表】地域の自然環境や市街地の構造に着目して、防災について構想している。 【主】我が国の国土に対する愛情を深め、身近な地域の課題を主体的に追究しようとしている。	6		1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定2	追加6
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時間は含まない。
これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。

区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定2単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	本校の履修条件は1単位あたり授業数2時間以上（探究科目は3時間以上）とし、法定時数を上回る。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：地理歴史 / 科目：地理探究 / 単位数：3 / 教科書：地理探究（山川出版社） / 報告課題：9回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：3単位時間（地理歴史＝1単位あたり1時数×3単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にすると。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～5回の範囲（第Ⅰ編・第Ⅱ編前半） / 後期＝報告課題第6～9回の範囲（第Ⅱ編後半・第Ⅲ編）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 第Ⅰ編 現代世界の系統地理的考察						
1 自然環境 （地形／気候と生態系／日本の自然環境と防災／地球環境問題）	諸事象の規則性・傾向性や自然災害について理解し、自然環境と生活の関係を多面的に考察する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】自然環境に関わる諸事象について、系統的に理解している。 【思・判・表】人間と自然環境との相互依存関係に着目して多面的・多角的に考察している。 【主】見通しをもって学習に取り組み、主体的に課題を追究しようとしている。	1	1	
2 資源と産業 （農林水産業／資源・エネルギー／工業／第3次産業）	資源と産業の分布や特色を系統的に捉え、その相互の関連を考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【思・判・表】位置や分布に着目して、概念を活用して考察している。 【主】粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとしている。	2		1
3 人・モノ・金のつながり （交通・通信／貿易・観光／人口／村落・都市）	人・モノ・金の移動と結びつきの特色を捉え、空間的相互依存作用を考察する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】交通・貿易・人口・都市に関わる諸事象について理解している。 【思・判・表】空間的相互依存作用に着目して、事象の相互の関連を考察している。 【主】よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。	3		1
4 文化と国家 （生活文化と言語・宗教／国家とその領域）	生活文化・言語・宗教の地域性ど、国家とその領域の成り立ちを理解する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】世界の生活文化の多様性について理解している。 【思・判・表】地域に着目して、文化と国家の関わりを多面的・多角的に考察している。 【主】世界の諸地域の多様な生活文化を尊重する大切さについて自覚を深めている。	4		1
5 地域区分／現代世界の諸地域（中国・朝鮮半島）	地域区分の考え方を理解し、中国・韓国との対外的関係などを多角的・多面的に学ぶ。	仲間とともに学ぶ	【知・技】現代世界の地域区分の意味と方法について理解している。 【思・判・表】複数の区分によって把握できる地域の特徴を考察している。 【主】他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚を深めている。	5		
■後期 第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察／第Ⅲ編 これからの日本の国土像						
6 東南アジア／南アジア／西アジア・中央アジア／アフリカ	自然・人口・文化・産業・経済連携を整理し、地域的特色を考察・理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】諸地域の地誌的特色について、項目を整理して理解している。 【思・判・表】諸項目を結びつけて地域的特色を考察している。 【主】見通しをもって学習に取り組もうとしている。	6	1	
7 ヨーロッパ／ロシア／アングロアメリカ／ラテンアメリカ	各地域の地誌的特色を考察し、今後の発展と世界に与える影響を探究する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】諸地域の自然・産業・経済連携について理解している。 【思・判・表】今後の発展や日本をはじめ世界各国に与える影響を構想している。 【主】課題を主体的に探究しようとしている。	7		1
8 オーストラリア・ニュージーランドと島嶼国	オセアニア地域の特色を捉え、日本との関わりを考察する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】オセアニア地域の地誌的特色について理解している。 【思・判・表】地域に着目して、地域的特色を多面的・多角的に考察している。 【主】他地域の文化を尊重することの大切さについて自覚を深めている。	8		1
9 現代日本に求められる国土像	自然災害・産業・人口減少・多文化共生の観点から、将来の日本の国土像を探究する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】日本がかかえる地理的な課題について理解している。 【思・判・表】課題を自ら発見し、多面的・多角的に考察、構想している。 【主】我が国の国土に対する愛情を深め、よりよい社会の実現を視野に探究しようとしている。	9	1	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全9回	法定3	追加5
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。
これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全9回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定3単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	本校の履修条件は1単位あたり授業数2時間以上（探究科目は3時間以上）とし、法定時数を上回る。
試験	前期試験（報告課題第1～5回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第6～9回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：地理歴史 / 科目：歴史総合 / 単位数：2 / 教科書：現代の歴史総合（山川出版社） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：2単位時間（地理歴史＝1単位あたり1時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なもののから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にします。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（第Ⅰ部・第Ⅱ部前半） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（第Ⅱ部後半・第Ⅲ部）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 第Ⅰ部 近代化と私たち						
1 結びつく世界と日本の開国（18世紀の東アジア／貿易／産業革命／中国の開港と日本の開国）	18世紀の東アジアの社会と経済、アジアの地域間貿易と欧米諸国との関係を相互に関連付けて学ぶ。	仲間とともに学ぶ	【知・技】世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解している。 【思・判・表】時期や推移、比較、相互の関連に着目して多面的・多角的に考察している。 【主】見通しをもって主体的に学習に取り組もうとしている。	1	1	1
2 国民国家と明治維新（市民革命／ナショナリズム／明治維新／帝国主義／日露戦争）	アジア諸国の変革、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定など、世界と日本の関係から日本の変化を考察する。	身近なもののから学ぶ	【知・技】諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【思・判・表】国民国家や立憲体制、帝国主義などの概念を活用して考察している。 【主】我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重する大切さの自覚を深めている。	2		1
■前期 第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち						
3 総力戦と社会運動（第一次世界大戦／ソ連の成立／ヴェルサイユ・ワシントン体制／大衆の政治参加と大衆文化）	世界大戦の特徴と惨禍、戦後の国際協調体制の成立と限界について考察する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 【思・判・表】歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れて構想している。 【主】よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとしている。	3		1
■後期 第Ⅱ部（続）／第Ⅲ部 グローバル化と私たち						
4 経済危機と第二次世界大戦（世界恐慌／ファシズム／日中戦争／第二次世界大戦／占領と戦後改革／冷戦の始まり）	国際協調社会の動揺や大戦下の生活、戦後の占領期や国際情勢などを多角的・多面的に考察する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】諸国・諸地域間の動向とその関係をさまざまな視点から捉えて理解している。 【思・判・表】現在とのつながりに着目して、事象の意味や意義を考察している。 【主】深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚を深めている。	4	1	1
5 冷戦と世界経済（地域紛争と脱植民地化／軍拡から緊張緩和へ／日本の高度経済成長）	冷戦期における植民地からの独立、地域紛争、東西対立などの関連について考察する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】冷戦期の国際関係と日本の動向について理解している。 【思・判・表】比較や相互の関連に着目して、多面的・多角的に考察している。 【主】他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚を深めている。	5		1
6 世界秩序の変容と日本（石油危機／グローバリゼーション／冷戦の終結／地域紛争と国際社会／現代と私たち）	地球規模でおこる新たな秩序の構築や課題について、現代に繋がるさまざまな課題を考察する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 【思・判・表】考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論している。 【主】よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとしている。	6		1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乘せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定2	追加6
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れのない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定2単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおりに	本校の履修条件は1単位あたり授業数2時間以上（探究科目は3時間以上）とし、法定時数を上回る。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：地理歴史 / 科目：日本史探究 / 単位数：3 / 教科書：高校日本史（山川出版社） / 報告課題：9回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：3単位時間（地理歴史＝1単位あたり1時数×3単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にします。

体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～5回の範囲（第Ⅰ部～第Ⅳ部） / 後期＝報告課題第6～9回の範囲（第Ⅳ部）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 第Ⅰ部 原始・古代						
1 日本文化のあけぼの／古墳とヤマト政権／律令国家の形成	水稲耕作がもたらした社会の変化を考え、東アジアにおいて古代国家日本がどのように形成されたか理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】日本史の展開に関わる諸事象を、地理的条件や世界史と関連付けて理解している。 【思・判・表】時期・推移・比較に着目して、事象の意味や意義を多面的・多角的に考察している。 【主】見通しを持って学習に取り組もうとしている。	1	1	
2 貴族政治の展開／院政と武士の進出	仏教の特色・律令体制の変容をまとめ、荘園が広がり武士が力をつけた理由を考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】諸資料から日本史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【思・判・表】相互の関連に着目して、伝統・文化の特色などを考察している。 【主】学習を振り返り、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。	2		1
■前期 第Ⅱ部 中世／第Ⅲ部 近世／第Ⅳ部 近代・現代						
3 武家政権の成立（鎌倉幕府／モンゴル襲来／鎌倉文化／室町幕府の成立）	中世の朝廷が武家政権にとってどのような存在であったかを考え、鎌倉幕府が武士の力を集められた理由を考察する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】中世の政治・社会・文化について総合的に捉えて理解している。 【思・判・表】歴史に見られる課題を掴み、解決を視野に入れて構想している。 【主】自身との関わりをふまえて学習を振り返ろうとしている。	3		1
4 武士社会の成立／近世の幕開け／幕藩体制の成立と展開	14～16世紀に都市や村に自治組織が乱立した理由を考察し、豊臣政権の支配の仕組みが江戸時代に引き継がれる過程を考える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】近世の政治・経済・文化の特色について理解している。 【思・判・表】現在とのつながりに着目して多面的・多角的に考察している。 【主】見通しを持って学習に取り組もうとしている。	4		
5 幕藩体制の動揺／近世から近代へ（開国と幕府の滅亡）	江戸時代が長期にわたり安定した要因と、開国以前に日本が受けた影響を考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】近世から近代への転換について、世界史と関連付けて理解している。 【思・判・表】考察や構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論している。 【主】よりよい社会の実現に向け、学習を振り返ろうとしている。	5		1
■後期 第Ⅳ部 近代・現代						
6 近代国家の成立（明治維新／立憲国家の成立／大陸政策の展開）	幕末の動乱と新たな政治体制の模索が、日本の近代化においてどのような意味があったか考える。	身近なものから学ぶ	【知・技】近代国家の成立過程について、世界史と関連付けて理解している。 【思・判・表】比較や相互の関連に着目して、事象の意味・意義を考察している。 【主】見通しを持って学習に取り組もうとしている。	6	1	
7 近代国家の展開と国際関係／近代の産業と生活	日本の近代国家の成立や第一次世界大戦が国際環境に与えた影響を考察し、マス＝メディアの発達による社会の変化を捉える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】近代の産業と生活の変容について理解している。 【思・判・表】現在とのつながりに着目して多面的・多角的に考察している。 【主】自身との関わりをふまえて学習を振り返ろうとしている。	7		1
8 恐慌と第二次世界大戦（恐慌の時代／軍部の台頭／第二次世界大戦）	日本が戦争を開始し、拡大させていった理由を考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】戦争に至る過程を、世界史と関連付けて総合的に捉えて理解している。 【思・判・表】歴史に見られる課題を掴み、解決を視野に入れて構想している。 【主】よりよい社会の実現に向け、主体的に追究しようとしている。	8		1
9 現代の世界と日本（主権の回復／55年体制と高度経済成長）	戦後の日本が経済成長をとげた理由を考察する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】現代日本の形成過程について理解している。 【思・判・表】現在とのつながりに着目して考察し、議論している。 【主】次の学習へのつながりを見いだそうとしている。	9	1	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全9回	法定3	追加5
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。
これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全9回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定3単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	本校の履修条件は1年度の授業数2時間以上（探究科目は3時間以上）とし、法定時数を満たす。
試験	前期試験（報告課題第1～5回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第6～9回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：地理歴史 / 科目：世界史探究 / 単位数：3 / 教科書：新世界史（山川出版社） / 報告課題：9回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：3単位時間（地理歴史＝1単位あたり1時数×3単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～5回の範囲（第Ⅰ部～第Ⅲ部前半） / 後期＝報告課題第6～9回の範囲（第Ⅲ部後半～第Ⅴ部）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 第Ⅰ部 世界史へのまなざし／第Ⅱ部 諸地域の歴史的特質の形成						
1 人類の歴史と私たち／古代文明の特質（文明の誕生／オリエント）	人類が氷河期などの過酷な自然環境を生きのびた理由を考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】世界史の諸事象を、地理的条件や日本史と関連づけながら理解している。 【思・判・表】時期・推移に着目して、事象の意味・意義・特色を考察している。 【主】見通しを持って学習に取り組もうとしている。	1	1	
2 アジア諸地域の国家と社会／西アジアの帝国と古代ギリシア	世界各地の古代文明に共通するものや、中国王朝と周辺諸民族の関係について理解する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】諸資料から世界史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【思・判・表】比較や相互の関連に着目して多面的・多角的に考察している。 【主】課題を主体的に探究しようとしている。	2		1
3 古代ローマ／ヨーロッパの形成とイスラームの誕生	古代ギリシアの民主政と古代ローマ共和政の違いや、ローマ帝国が支配した地中海世界を整理しその理由を考える。	身近なものから学ぶ	【知・技】諸地域の歴史的特質の形成について理解している。 【思・判・表】考察したことを効果的に説明し、それらを基に議論している。 【主】国家及び社会の形成者として、主体的に探究しようとしている。	3		
■前期 第Ⅲ部 諸地域の交流・再編						
4 結びつくユーラシアの諸地域／キリスト教ヨーロッパの成熟と交流	元朝の科举に対する考えや、皇帝権と教皇権の関係の変遷についてまとめる。	仲間とともに学ぶ	【知・技】諸地域の交流・再編について、地理的条件と関連づけて理解している。 【思・判・表】相互の関連に着目して、事象の意味・意義・特色を考察している。 【主】見通しを持って学習に取り組もうとしている。	4		1
5 交易の進展と東アジア・東南アジア／アジア諸地域の再編	明代の経済発展を支えたものを、国内産業・海外貿易の両面から考える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】交易の進展とアジア諸地域の再編について理解している。 【思・判・表】歴史に見られる課題を構想し、議論している。 【主】よりよい社会の実現を目指し、主体的に探究しようとしている。	5		1
■後期 第Ⅲ部（続）／第Ⅳ部 諸地域の結合・変容／第Ⅴ部 地球世界の課題						
6 ヨーロッパの成長と世界の一体化（海洋進出／宗教改革／主権国家体制の成立）	18世紀初め頃のヨーロッパ諸国における国王権力のあり方の違いについて探究する。	身近なものから学ぶ	【知・技】主権国家体制の成立について理解している。 【思・判・表】比較に着目して、多面的・多角的に考察している。 【主】課題を主体的に探究しようとしている。	6	1	
7 国民国家と近代民主主義社会の形成／新国家の建設と世界市場の形成／アジア諸地域の動揺	イギリスの産業革命が他国・他地域に与えたインパクトを考え、日本の明治維新以降の近代化と清の国政改革を比較する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】諸地域の結合・変容について、日本史と関連づけながら理解している。 【思・判・表】現代世界とのつながりに着目して考察し、議論している。 【主】見通しを持って学習に取り組もうとしている。	7		1
8 帝国主義と世界／第一次世界大戦／第二次世界大戦と諸地域の变容	列強によるアフリカ植民地化の過程や、民族自決原則が適用された地域・されなかった地域をまとめる。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】帝国主義と二度の世界大戦について総合的に捉えて理解している。 【思・判・表】歴史に見られる課題を構想し、効果的に説明している。 【主】よりよい社会の実現を目指し、課題を主体的に探究しようとしている。	8		1
9 第三世界の形成と世界経済の動揺／今日の世界（経済のグローバル化と格差の是正）	開発独裁体制があらわれた理由を考え、中国の発展・変化が世界に与えている影響を考察する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】地球世界の課題について、現代世界とのつながりから理解している。 【思・判・表】多面的・多角的に考察し、それらを基に議論している。 【主】国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を目指そうとしている。	9	1	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全9回	法定3	追加5
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全9回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定3単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	学習センターでの面接指導は1単位時間以上（探究科目は3時間以上）とし、法定時数を上乗せする。
試験	前期試験（報告課題第1～5回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第6～9回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：公民 / 科目：公共 / 単位数：2 / 教科書：公共（教育図書） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：2単位時間（公民＝1単位あたり1時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にします。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～4回の範囲（第一章・第二章前半） / 後期＝報告課題第5～6回の範囲（第二章後半・第三章）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 第一章 公共の扉						
1 公共と人／公共と倫理 （人はどのようにつながるのか／対話から生まれる公共／功利主義と義務論／水保病／地球温暖化問題）	私的な欲望を保留し広く全体を見渡すという「公共」の意味を、先人の思想や具体的事例から考える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解している。 【思・判・表】事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察している。 【主】よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	1	1	
2 公共の基本原則 （意見がわかれたときにどう決めるか／民主政治と人権の歴史／日本国憲法の三つの原理／多様性と人権）	民主政治と人権の歴史を理解し、日本国憲法の三つの原理と基本的人権について学ぶ。	仲間とともに学ぶ	【知・技】倫理・政治・経済に関わる現代の諸課題について理解している。 【思・判・表】解決に向けて公正に判断し、合意形成を視野に入れて議論している。 【主】国家及び社会の形成者として、主体的に課題を解決しようとしている。	2		1
■前期 第二章 現代社会の諸課題（法・政治）						
3 法 （法と社会／多様な契約・消費者の権利と責任）	現代社会を構成している法の機能について学び、契約と消費者の権利・責任を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】法に関わる現代の諸課題について理解している。 【思・判・表】諸資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【主】身近な生活と法との関わりを、主体的に追究しようとしている。	3		1
4 法／政治 （日本の司法制度と国民の司法参加／選挙と政治参加／国会と内閣／安全保障／国際連合と日本）	政治のしくみを学び、国民主権・安全保障・国際社会と日本の関わりについて考えを深める。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】政治に関わる現代の諸課題について理解している。 【思・判・表】社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。 【主】よりよい社会の実現を視野に、主体的に解決しようとしている。	4		1
■後期 第二章（経済）／第三章 持続可能な社会へ						
5 経済 （職業選択・現代の企業／雇用と労働・労働者の権利／市場経済の役割と限界／経済成長と景気変動）	経済のシステムを学び、職業選択・労働者の権利・市場経済の役割と限界について理解を深める。	身近なものから学ぶ	【知・技】経済に関わる現代の諸課題について理解している。 【思・判・表】事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察している。 【主】自らの職業選択と関連づけて、主体的に学ぼうとしている。	5	1	1
6 経済／社会研究の方法 （金融と財政／少子化と社会保障／グローバル化と経済統合／外国人労働者とケアの現場／地域の課題に参画する）	身近な生活からヒントを得て、社会をよりよくしていくための改善方法を提案する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【思・判・表】社会の課題を見つけると同時に、改善していく方法を構想し議論している。 【主】国家及び社会の形成者として、地域の課題に参画しようとしている。	6		2
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定2	追加6
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定2単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	本校の履修条件は1単位あたり授業数2時間以上とし、法定時数を上回る。
試験	前期試験（報告課題第1～4回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第5～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：公民 / 科目：倫理 / 単位数：2 / 教科書：倫理（第一学習社） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：2単位時間（公民＝1単位あたり1時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にします。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（第1編第1～3章） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（第1編第4～5章・第2編）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方						
第1章 人間の心と自己形成（青年期の課題と自己形成）	人間らしく生きるとはどのようなことかを問い、青年期の課題と自己形成について考える。	身近なものから学ぶ	【知・技】選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解している。 【思・判・表】事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察している。 【主】自己の在り方生き方について、主体的に追究しようとしている。	1	1	1
第2章 人間の存在や価値と宗教（ギリシアの思想／ユダヤ教とキリスト教／イスラーム／仏教／中国の思想／宗教や芸術）	諸宗教・諸思想の人間観と価値観を理解し、多様な世界のとらえ方に触れる。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】人間の存在や価値に関わる思想について理解している。 【思・判・表】諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【主】人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念をもって学ぼうとしている。	2		1
第3章 人間の在り方と社会（人間の尊厳／科学革命の時代と自然観／自由で平等な社会の実現／人間性の回復と主体性の確立）	「哲学」がどのように確立されたのかを理解し、自由で平等な社会の実現について考察する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】倫理に関わる現代の諸課題について理解している。 【思・判・表】解決に向けて公正に判断し、構想したことを議論している。 【主】よりよい社会の実現を視野に、主体的に解決しようとしている。	3		1
■後期 第1編（続）／第2編 現代の諸課題と倫理						
第4章 現代の人間と社会をとらえる思想（現代の思想と人間像／生命への畏敬と社会参加）	現代の思想と人間像を学び、生命への畏敬と社会参加について考えを深める。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】現代の思想と人間像について理解している。 【思・判・表】社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。 【主】生命に対する畏敬の念に基づいて、主体的に学ぼうとしている。	4	1	1
第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚（日本固有の思想／外来思想の受容／町人意識と庶民思想／西洋思想との出会い）	日本人のものの見方・考え方のルーツを学習し、仏教の伝来・展開やその影響を考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】日本の伝統的な思想と文化について理解している。 【思・判・表】事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察している。 【主】国際社会に生きる日本人としての自覚を深めようとしている。	5		1
第2編 現代の諸課題と倫理（生命／地球環境／科学技術／福祉／文化と宗教／国際平和と倫理的課題）	自然・科学技術・社会と文化にかかわる諸課題を、倫理的な観点から考察する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】現代の諸課題に関わる倫理的課題について理解している。 【思・判・表】解決に向けて公正に判断し、合意形成を視野に議論している。 【主】よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	6		1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定2	追加6
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れのない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定2単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	本校の履修条件は1単位あたり授業数2時間以上とし、法定時数を上回る。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科: 公民 / 科目: 政治・経済 / 単位数: 2 / 教科書: 政治・経済（第一学習社） / 報告課題: 6回 / 定期試験: 前期・後期各1回 / 面接指導: 2単位時間（公民＝1単位あたり1時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なもののから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にします。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（第1編第1・3節） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（第1編第6節・第2編）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回数	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 第1編 現代日本の政治・経済の諸問題						
第1節 日本国憲法と現代政治のあり方①（政治と法の意義と機能／法の支配と立憲主義／基本的人権の保障／新しい人権）	民主政治の本質とともに、日本国憲法と現代政治のあり方を学ぶ。	仲間とともに学ぶ	【知・技】選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解している。 【思・判・表】事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察している。 【主】よりよい社会の実現を視野に、主体的に解決しようとしている。	1	1	1
第1節 日本国憲法と現代政治のあり方②（権利と義務／議会制民主主義と世界政治体制／国会・内閣・裁判所）	国会の運営・役割を学び、自分たちが住んでいる日本という国について理解を深める。	仲間とともに学ぶ	【知・技】政治に関わる現代の諸課題について理解している。 【思・判・表】解決に向けて公正に判断し、構想したことを議論している。 【主】社会へ目を向け、政治的関心を持ちながら学ぼうとしている。	2		1
第3節 市場経済の機能と限界（経済活動と市場／経済主体と経済循環／国民経済と経済成長／物価と景気変動／市場の失敗）	市場経済の機能と限界を理解し、公害・消費者問題について考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】経済に関わる現代の諸課題について理解している。 【思・判・表】諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【主】私たちの生活に直結する話題から、経済に関心を持とうとしている。	3		1
■後期 第1編（続）／第2編 現代の経済						
第6節 経済活動と福祉の向上（日本経済の変化と中小企業・農業問題／労使関係と労働問題／社会保障制度と福祉の在り方）	日本経済の変化と労働問題を学び、社会保障制度と福祉の在り方について考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】福祉に関わる現代の諸課題について理解している。 【思・判・表】合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。 【主】よりよい社会の実現を視野に、主体的に解決しようとしている。	4	1	1
第1節 国際法の果たす役割（国際社会の変遷／国際法の意義／国際機構の役割／国際紛争と軍縮）	国際法と国際機構の役割を理解し、紛争解決と軍縮への取り組みについて考察する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】国際社会に関わる現代の諸課題について理解している。 【思・判・表】事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察している。 【主】今後日本を担う立場としての自覚をもって学ぼうとしている。	5		1
第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質（貿易の現状と意義／国民経済と国際収支／為替相場の変動／国際協調と国際経済機関の役割）	グローバル化した経済の働きを学び、格差や紛争等の解決に向けた思考力・判断力を養う。	仲間とともに学ぶ	【知・技】国際経済に関わる現代の諸課題について理解している。 【思・判・表】解決に向けて公正に判断し、社会参画を視野に議論している。 【主】国家及び社会の形成者として、主体的に課題を解決しようとしている。	6		1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定2	追加6
記入欄	学習センター名: / 登校形態（週5・週3・週1等）: / 合計面接指導時数:					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定2単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	本校の履修条件は1単位あたり授業数2時間以上とし、法定時数を上回る。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：数学 / 科目：数学Ⅰ / 単位数：3 / 教科書：改訂版 新数学Ⅰ（東京書籍） / 報告課題：9回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：3単位時間（数学＝1単位あたり1時数×3単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なもののから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にします。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～5回の範囲（数と式・2次関数） / 後期＝報告課題第6～9回の範囲（三角比・データの分析・集合と論証）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 数と式						
1 文字と式	単項式・多項式などの用語を理解し、展開と因数分解ができるようにする。	身近なものから学ぶ	【知・技】数と式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思・判・表】数や式を多面的にみたり、目的に応じて適切に変形したりしている。 【主】数学のよさを認識し、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	1	1	
2 実数	平方根と根号を含む式の計算、有理数・無理数の区別と有限小数・循環小数を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】実数についての概念を理解し、数を拡張することに興味をもっている。 【思・判・表】数の範囲に着目して、数や式を多面的にみている。 【主】問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。	2		1
3 方程式と不等式	1次方程式・1次不等式・2次方程式を解き、身近な問題の解決に活用する。	身近なものから学ぶ	【知・技】事象を数式化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 【思・判・表】条件や結論に着目し、論理的に考察し表現している。 【主】数学を活用しようとする態度を身に付けている。	3		1
■前期 2次関数						
4 2次関数とそのグラフ	関数の概念を理解し、平行移動を用いて2次関数のグラフをかくことができる。	身近なものから学ぶ	【知・技】2次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思・判・表】関数関係に着目し、表・式・グラフを相互に関連付けて考察している。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	4		1
5 2次関数の値の変化	最大値・最小値、2次方程式の解との関係、2次不等式をグラフと関連づけて理解する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】グラフを活用することのよさを認識している。 【思・判・表】事象を的確に表現してその特徴を考察している。 【主】問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	5		
■後期 図形と計量／データの分析／集合と論証						
6 鋭角の三角比	サイン・コサイン・タンジェントの意味と相互関係を理解し、その値を求める。	身近なものから学ぶ	【知・技】図形と計量についての基本的な概念を体系的に理解している。 【思・判・表】図形の構成要素間の関係に着目し、性質や計量について論理的に考察している。 【主】三角比の有用性を認識し、活用しようとしている。	6	1	
7 三角比の応用	正弦定理・余弦定理・面積公式を理解し、鈍角への拡張と空間図形の計量に活用する。	身近なものから学ぶ	【知・技】三角比を空間図形の計量に活用する技能を身に付けている。 【思・判・表】図形の性質や計量について論理的に考察し表現している。 【主】条例の基準をみたます傾斜路など、身近な事象に活用しようとしている。	7		1
8 データの分析	度数分布・代表値・四分位数・分散・相関係数を理解し、仮説検定の考え方に触れる。	仲間とともに学ぶ	【知・技】データの分析についての基本的な概念を体系的に理解している。 【思・判・表】データの散らばりや変量間の関係に着目し、適切な手法を選択して分析している。 【主】主張の妥当性について批判的に考察しようとしている。	8	1	
9 集合と論証	集合の表し方、必要条件・十分条件、逆・裏・対偶、背理法を理解する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】集合と論証に関わる用語・記号を理解し、記号を使って表している。 【思・判・表】命題の条件や結論に着目し、論理的に考察している。 【主】論理的な思考を粘り強く進めようとしている。	9		1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登録日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全9回	法定3	追加5
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れのない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全9回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定3単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	本校の履修条件は1単位あたり時間数1時間以上・添削枚数3枚とする。
試験	前期試験（報告課題第1～5回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第6～9回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：数学 / 科目：数学A / 単位数：2 / 教科書：数学A（東京書籍） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：2単位時間（数学＝1単位あたり1時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものを学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にすること。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（場合の数と確率・図形の性質①） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（図形の性質②・数学と人間の活動）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 場合の数と確率						
1 場合の数と確率① （集合／和の法則・積の法則／順列・組合せ／確率の意味）	集合の表し方を理解し、順列・組合せを用いて場合の数を効率よく求める。	身近なものから学ぶ	【知・技】場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思・判・表】事象を数値化したり、数学的に表現・処理したりしている。 【主】数学のよさを認識し、活用しようとしている。	1	1	1
2 場合の数と確率② （確率の加法定理／余事象／独立試行／反復試行）	確率の加法定理・余事象・独立試行・反復試行の確率を求めることができる。	身近なものから学ぶ	【知・技】確率の性質について理解し、確率を求める技能を身に付けている。 【思・判・表】不確実な事象に着目し、事象の起こりやすさを判断している。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	2		1
3 条件つき確率・期待値／図形の性質①（平行線と角／三角形の相似）	条件つき確率と期待値を意思決定に活用し、三角形の相似から線分の長さを求める。	仲間とともに学ぶ	【知・技】図形の性質についての基本的な概念を体系的に理解している。 【思・判・表】期待値を意思決定に活用し、事象の起こりやすさを判断している。 【主】問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。	3		1
■後期 図形の性質／数学と人間の活動						
4 図形の性質② （三角形と比／中点連結定理／重心・外心・内心）	三角形の五心の性質を利用して、線分の長さや角の大きさを求める。	身近なものから学ぶ	【知・技】図形の性質を体系的に理解している。 【思・判・表】図形の構成要素間の関係に着目し、性質を見だし論理的に考察している。 【主】数学を活用しようとする態度を身に付けている。	4	1	1
5 数学と人間の活動① （円の性質／方べきの定理／約数と倍数／ユークリッドの互除法／n進法）	円の性質と整数の性質を理解し、互除法やn進法を通して数に対する見方を豊かにする。	身近なものから学ぶ	【知・技】数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 【思・判・表】事象に数学の構造を見だし、数理的に考察している。 【主】数に対する見方を豊かにしようとしている。	5		1
6 数学と人間の活動② （魔方陣／図形の不思議／ハノイの塔／パズル／塵劫記）	パズルや和算を通して、数学と文化・人間との関わりについての認識を深める。	仲間とともに学ぶ	【知・技】数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 【思・判・表】規則性や論理的に考えることのよさを知り、数理的に考察している。 【主】創造性の基礎を養い、問題解決を楽しもうとしている。	6		1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定2	追加6
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定2単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	本校の履修条件は1単位あたり時間数1時間以上・添削枚数3枚とする。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：数学 / 科目：数学Ⅱ / 単位数：4 / 教科書：数学Ⅱ（東京書籍） / 報告課題：12回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：4単位時間（数学＝1単位あたり1時数×4単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～6回の範囲（式と証明・図形と方程式・三角関数） / 後期＝報告課題第7～12回の範囲（加法定理・指数対数・微分積分）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 いろいろな式／図形と方程式						
1 方程式・式と証明（整式・分数式の計算～2次方程式）	3次の乗法公式・因数分解、分数式の四則、解と係数の関係を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】いろいろな式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思・判・表】数の範囲や式の性質に着目し、論理的に考察している。 【主】数学のよさを認識し、活用しようとしている。	1	1	1
2 方程式・式と証明（高次方程式～式と証明）	複素数を導入し、判別式・剰余の定理・因数定理、等式と不等式の証明を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】複素数の演算や共役な複素数について理解している。 【思・判・表】等式や不等式が成り立つことについて論理的に考察している。 【主】粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	2		1
3 図形と方程式（座標と直線の方程式）	内分・外分・重心の座標、直線の方程式と2直線の位置関係を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】図形と方程式についての基本的な概念を体系的に理解している。 【思・判・表】方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現している。 【主】問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。	3		1
4 図形と方程式（円の方程式）	円の方程式を理解し、円と直線の位置関係を判別式と対応づけて考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】円の方程式の一般形から中心と半径を求めることができる。 【思・判・表】図形の性質を論理的に考察している。 【主】数学を活用しようとする態度を身に付けている。	4		
5 図形と方程式（軌跡と領域）	不等式が表す領域を図示し、連立不等式で表される領域を考察する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】領域を不等式で表す技能を身に付けている。 【思・判・表】集合の共通部分の考えを使って考察している。 【主】問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	5		
■前期 三角関数						
6 三角関数	一般角と弧度法に触れ、三角関数の相互関係とグラフの特徴を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】三角関数についての基本的な概念を体系的に理解している。 【思・判・表】公式を導く過程を論理的に考察している。 【主】回転の量としての角度の扱いに興味をもとうとしている。	6	1	
■後期 三角関数（続）／指数関数・対数関数／微分・積分						
7 三角関数（加法定理）	加法定理・2倍角の公式・三角関数の合成、弧度法を理解活用する。	身近なものから学ぶ	【知・技】加法定理の意味とその使い方について理解している。 【思・判・表】公式を導く過程を論理的に考察している。 【主】粘り強く柔軟に考えようとしている。	7	1	
8 指数関数	指数を有理数に拡張し、指数法則と指数関数のグラフの性質を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】指数関数についての基本的な概念を体系的に理解している。 【思・判・表】関数関係に着目し、その特徴を数学的に考察している。 【主】数の範囲を拡張することに興味をもとうとしている。	8		
9 対数関数	対数の意味と性質、対数関数のグラフ、常用対数の活用を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】対数の性質を指数法則に関連させて理解している。 【思・判・表】事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察している。 【主】常用対数の有用性を認識し、活用しようとしている。	9		
10 微分係数と導関数	平均変化率・極限值から微分係数を理解し、接線の方程式を求める。	身近なものから学ぶ	【知・技】微分の考えについての基本的な概念を体系的に理解している。 【思・判・表】関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察している。 【主】数学のよさを認識し、活用しようとしている。	10	1	
11 導関数の応用	導関数の符号から増減・極大極小を調べ、最大最小の問題を解く。	仲間とともに学ぶ	【知・技】関数の増減とグラフの関係を理解している。 【思・判・表】問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察している。 【主】微分的重要性を理解し、活用しようとしている。	11		
12 積分	不定積分・定積分を理解し、面積の計算を通して積分の有効性を認識する。	身近なものから学ぶ	【知・技】積分の考えについての基本的な概念を体系的に理解している。 【思・判・表】事象を数学的に考察し、統一的・発展的に考察している。 【主】積分の概念の有効性を認識しようとしている。	12		1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育課程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全12回	法定4	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育課程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全12回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定4単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	本校の履修条件は1単位あたり時間数1時間以上・添削枚数3枚とする。
試験	前期試験（報告課題第1～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第7～12回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：数学 / 科目：数学B / 単位数：2 / 教科書：数学B（啓林館） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：2単位時間（数学＝1単位あたり1時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切に。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（数列・確率分布） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（正規分布・統計的な推測・数学と社会生活）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 数列						
1 数列（等差数列・等比数列）	数列の一般項の意味を理解し、等差数列・等比数列の一般項と和を求める。	身近なものから学ぶ	【知・技】数列における基本的な概念、原理・法則、用語・記号を理解している。 【思・判・表】事象を数学的にとらえ、論理的に考えている。 【主】数学的な見方や考え方のよさを認識しようとしている。	1	1	1
2 数列（いろいろな数列／漸化式と数学的帰納法）	記号Σと階差数列を理解し、漸化式と数学的帰納法による証明を扱う。	仲間とともに学ぶ	【知・技】数列の和と漸化式について理解し、基礎的な知識を身につけている。 【思・判・表】思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えている。 【主】数学的帰納法の考え方のよさを認識しようとしている。	2		1
3 統計的な推測（確率分布）	確率変数と確率分布、平均・分散・標準偏差、二項分布を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】統計的な推測における基本的な概念、原理・法則を理解している。 【思・判・表】事象を数学的にとらえ、論理的に考えている。 【主】確率分布の考え方に興味をもとうとしている。	3		1
■後期 統計的な推測／数学と社会生活						
4 統計的な推測（正規分布）	連続な確率変数から正規分布を考察し、身長 の計測などの具体的事象に活用する。	身近なものから学ぶ	【知・技】正規分布について理解し、基礎的な知識を身につけている。 【思・判・表】事象を数学的にとらえ、論理的に考えている。 【主】具体的な事象に活用しようとしている。	4	1	1
5 統計的な推測（母平均・母比率の推定／仮説検定）	標本調査の考え方と仮説検定を用いて、日常・社会の課題について判断する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】統計的な推測の考え方を理解し、基礎的な知識を身につけている。 【思・判・表】思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えている。 【主】日常・社会の事象の課題について、主体的に判断しようとしている	5		1
6 数学と社会生活	日常や社会の事象を数学的に表現して処理し、その結果を現実の状況に戻して解釈・評価する。	身近なものから学ぶ	【知・技】事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方を身につけている。 【思・判・表】結果を現実の状況に戻して解釈し、評価している。 【主】数学的な見方や考え方を、身近な事象の考察に活用しようとしている。	6		1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定2	追加6
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通して学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定2単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	本校の履修条件は1単位あたり時間数1時間以上・添削枚数3枚とする。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：数学 / 科目：数学Ⅲ / 単位数：3 / 教科書：数学Ⅲ（啓林館） / 報告課題：9回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：3単位時間（数学＝1単位あたり1時数×3単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入り口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～5回の範囲（極限・微分法前半） / 後期＝報告課題第6～9回の範囲（導関数の応用・積分法）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技・思・判・表・主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 極限／微分法						
1 数列の極限（無限数列／無限級数）	収束・発散・振動の意味を理解し、無限等比級数の収束条件と和の公式を導く。	身近なものから学ぶ	【知・技】数列の極限における基本的な概念、原理・法則を理解している。 【思・判・表】事象を数学的にとらえ、論理的に考えている。 【主】極限の考え方に関心をもとうとしている。	1	1	1
2 関数とその極限（分数関数と無理関数）	分数関数・無理関数のグラフをかき、合成関数と逆関数を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】関数についての基礎的な知識を身につけている。 【思・判・表】グラフを利用して方程式や不等式を解いている。 【主】数学的な見方や考え方のよさを認識しようとしている。	2		1
3 関数とその極限（関数の極限と連続性）	関数の極限と連続性を理解し、中間値の定理を方程式の実数解の考察に活用する。	身近なものから学ぶ	【知・技】連続関数の性質について理解している。 【思・判・表】思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えている。 【主】粘り強く考え、判断しようとしている。	3		
4 微分法（微分と導関数）	微分可能性と連続性の関係を把握し、和・差・積・商や合成関数の微分法を習得する。	身近なものから学ぶ	【知・技】微分法における基本的な概念、原理・法則を理解している。 【思・判・表】事象を数学的にとらえ、論理的に考えている。 【主】微分の演算の習得に粘り強く取り組もうとしている。	4		1
5 微分法（いろいろな関数の導関数）	三角関数・対数関数・指数関数の微分を習得し、高次導関数の概念を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】いろいろな関数の導関数を求める技能を身につけている。 【思・判・表】自然対数の底eの導入を通して、多面的に考えている。 【主】問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。	5		
■後期 微分法の応用／積分法						
6 微分法（導関数の応用）	接線・法線、平均値の定理、第2次導関数による凹凸と変曲点を調べグラフをかく。	身近なものから学ぶ	【知・技】導関数を用いた関数の考察について理解している。 【思・判・表】思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えている。 【主】数学的な見方や考え方を事象の考察に活用しようとしている。	6	1	1
7 微分法（微分法の応用）	最大最小や方程式・不等式の証明、速度・加速度と微分法の関連を理解する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】微分法の応用について基礎的な知識を身につけている。 【思・判・表】事象を数学的にとらえ、論理的に考えている。 【主】微分の有用性を認識しようとしている。	7		
8 積分法（不定積分と定積分）	置換積分法・部分積分法を理解し、定積分と微分の関係について理解を深める。	身近なものから学ぶ	【知・技】積分法における基本的な概念、原理・法則を理解している。 【思・判・表】偶関数・奇関数の性質を利用して、簡潔に処理している。 【主】粘り強く計算に取り組もうとしている。	8	1	1
9 積分法（定積分の応用）	曲線で囲まれた図形の面積・回転体の体積・曲線の長さを求める。	身近なものから学ぶ	【知・技】定積分の応用について基礎的な知識を身につけている。 【思・判・表】思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えている。 【主】積分の有用性を理解し、活用しようとしている。	9		
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全9回	法定3	追加5
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全9回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定3単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	本校の履修条件は1単位あたり時間数1時間以上・添削枚数3枚とする。
試験	前期試験（報告課題第1～5回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第6～9回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：数学 / 科目：数学C / 単位数：2 / 教科書：新編数学C（啓林館） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：2単位時間（数学＝1単位あたり1時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものを学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切に作る。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（ベクトル・複素数平面） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（平面上の曲線・数学的な表現の工夫）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 ベクトル／複素数平面						
1 ベクトル （平面上のベクトル／平面上のベクトルと図形）	ベクトルの意味・演算・成分・内積を理解し、平面図形の性質の考察に応用する。	身近なものから学ぶ	【知・技】ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号を理解している。 【思・判・表】事象を数学的にとらえ、論理的に考えている。 【主】ベクトルの考えが有用なことを認識しようとしている。	1	1	1
2 ベクトル （空間におけるベクトル）	空間座標の概念を導入し、平面上のベクトルの考えを空間に拡張して活用する。	身近なものから学ぶ	【知・技】空間におけるベクトルについて理解し、基礎的な知識を身につけている。 【思・判・表】空間図形の具体的な問題の解決に応用している。 【主】事象を簡潔かつ明確に表現しようとしている。	2		1
3 複素数平面 （複素数平面／平面図形と複素数）	複素数平面と極形式を理解し、ド・モアブルの定理から累乗根の図形的意味をつかむ。	身近なものから学ぶ	【知・技】複素数平面における基本的な概念、原理・法則を理解している。 【思・判・表】積・商の幾何学的意味を考察し、論理的に考えている。 【主】数学的な見方や考え方のよさを認識しようとしている。	3		1
■後期 平面上の曲線／数学的な表現の工夫						
4 平面上の曲線（2次曲線）	放物線・楕円・双曲線の方程式と性質、直線との位置関係を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】平面上の曲線における基本的な概念、原理・法則を理解している。 【思・判・表】2次方程式の解の判別と関連づけて考察している。 【主】粘り強く考え、判断しようとしている。	4	1	1
5 平面上の曲線 （媒介変数と極座標）	媒介変数表示と極座標・極方程式を理解し、直交座標との関係をつかむ。	身近なものから学ぶ	【知・技】媒介変数と極座標について基礎的な知識を身につけている。 【思・判・表】事象を数学的にとらえ、論理的に考えている。 【主】事象を簡潔かつ明確に表現する能力を高めようとしている。	5		1
6 数学的な表現の工夫 （統計グラフ／離散グラフと行列／一筆がき／置換とあみだくじ）	日常・社会の事象を表・統計グラフ・行列などを用いて工夫して表現する意義を理解する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】表現の工夫について理解し、基礎的な知識を身につけている。 【思・判・表】目的に応じてどの表現を用いるとわかりやすいかを判断し考察している。 【主】数学的な見方や考え方を、身近な事象の考察に活用しようとしている。	6		1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定2	追加6
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定2単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおりに	本校の履修条件は1単位あたり時間数1時間以上・添削枚数3枚とする。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	

令和 8 年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：理科 / 科目：科学と人間生活 / 単位数：2 / 教科書：高等学校改訂科学と人間生活（第一学習社） / 報告課題：6 回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8 単位時間（理科＝1単位あたり4時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第 1～3 回の範囲（序章・物質の科学・生命の科学） / 後期＝報告課題第 4～6 回の範囲（熱や光の科学・地球や宇宙の科学・これからの科学と人間生活）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 序章 科学技術の発展／第Ⅰ章 物質の科学／第Ⅱ章 生命の科学						
序章 科学技術の発展 （情報伝達技術／エネルギー資源と交通手段／医療技術）	科学技術の発展が今日の生活を豊かで便利にし、社会の変化に影響を与えてきたことを理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】科学技術の発展の人間生活への貢献について知識を身につけている。 【思・判・表】身近な事物・現象の中に問題を見出し、科学的に思考し判断している。 【主】科学技術に対する関心を高める態度を身につけている。	1	2	
第Ⅰ章 物質の科学 【実験】材料とその利用／衣料と食品（選択）	身近な物質の素材となる材料の種類・性質・用途を、実験・観察を通して理解する。	身近なものから学ぶ	【思・判・表】観察・実験の結果について科学的に思考し、自らの考えを的確に表現している。 【主】資源の再利用の必要性について科学的に認識する態度を身につけている	2	1	1
第Ⅱ章 生命の科学 【実験】ヒトの生命現象／微生物とその利用	DNA・血糖濃度の調節・免疫のしくみ、微生物と人間生活とのかわりについて理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】生命現象と微生物の働きについての知識を身につけている。 【思・判・表】微生物と人間生活とのかわりについて論理的に思考している。 【主】身近な事物・現象に関心や探究心をもとうとしている。	3	1	1
■後期 第Ⅲ章 熱や光の科学／第Ⅳ章 地球や宇宙の科学／第Ⅴ章 これからの科学と人間生活						
第Ⅲ章 熱や光の科学 【実験】熱の性質とその利用／光の性質とその利用	熱の性質やエネルギーの変換と保存、光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】観察・実験の技能を習得し、エネルギーと光の性質について理解している。 【思・判・表】実験結果について科学的に思考し、判断している。 【主】省エネルギーや代替エネルギーの開発に関心をもとうとしている。	4	2	1
第Ⅳ章 地球や宇宙の科学 【観察】自然景観と自然災害／太陽と地球	身近な自然景観の成り立ちと自然災害、太陽・月などの天体と人間生活とのかわりを理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】自然災害と天体の運動について科学的に理解している。 【思・判・表】火山・地震・気象災害の防災について論理的に思考している。 【主】身近な自然に関心を持ち、防災を意欲的に学習しようとしている。	5	1	1
第Ⅴ章 これからの科学と人間生活	学習を踏まえ、これからの科学と人間生活とのかわり方について考察する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】これからの科学技術と人間生活のあり方について理解している。 【思・判・表】導き出した自らの考えを的確に表現している。 【主】科学的な視点・考察力を養い、探究しようとしている。	6	1	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全 6 回	法定 8	追加 4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週 5・週 3・週 1 等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れのない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全 6 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1 単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※観察・実験を含む	法定 8 単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	理科は観察・実験を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。
試験	前期試験（報告課題第 1～3 回の範囲）	1 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第 4～6 回の範囲）	1 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：理科 / 科目：物理基礎 / 単位数：2 / 教科書：高等学校改訂新物理基礎（第一学習社） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8単位時間（理科＝1単位あたり4時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（運動とエネルギー） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（熱・波動・電気）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 第1章 運動とエネルギー						
第1節 物体の運動 （速度・加速度／等加速度直線運動／自由落下・鉛直投射・水平投射）	物体の変位や速度の表し方を直線運動を中心に理解し、落下運動の特徴を式やグラフで考える。	身近なものから学ぶ	【知・技】等加速度直線運動の式を用いて、それぞれの物理量を計算できる。 【思・判・表】x-tグラフやv-tグラフから、物体の位置や速度を的確に読み取っている。 【主】身のまわりの物体の運動に関心を示し、物理的に考えようとしている。	1	2	
第2節 力と運動の法則 【実験】力の合成・分解／運動方程式／摩擦／流体から受ける力	力の合成・分解とつりあい、運動方程式の立て方、摩擦力と浮力について理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】さまざまな運動状態における物体について、運動方程式を立てられる。 【思・判・表】実験データを分析しながら、力と加速度・質量と加速度の関係を考えている。 【主】日常での経験と照らし合わせて力のはたらきを観察しようとしている。	2	1	1
第3節 仕事と力学的エネルギー 【実験】仕事と仕事率／運動エネルギー／位置エネルギー／力学的エネルギー保存の法則	仕事とエネルギーの関係を理解し、力学的エネルギー保存の成り立つ条件を実験を通して学ぶ。	仲間とともに学ぶ	【知・技】力学的エネルギーが保存されることを、式で導くことができる。 【思・判・表】種々の物体の運動について、力学的エネルギー保存の法則を適用している。 【主】振り子の速さの測定などの実験に積極的に取り組んでいる。	3	1	1
■後期 第2章 熱／第3章 波動／第4章 電気						
第2章 熱とエネルギー 【実験】温度と熱運動／熱量の保存／熱と仕事／エネルギーの変換と保存	熱と温度、熱量の保存、熱力学の第1法則、熱機関と熱効率、エネルギー保存について理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】熱と温度の関係を理解し、熱量の保存を利用して測定している。 【思・判・表】比熱と熱容量の違いを理解し、熱量の保存を利用して測定している。 【主】エネルギーの移り変わりを、日常での利用例と関連させて理解しようとする。	4	2	
第3章 波動 【実験】波の性質／音波（弦・気柱の固有振動）	波の基本的な要素と重ねあわせの原理、音の3要素と共振・共鳴、固有振動を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】弦や気柱に生じる定在波の波長や振動数を式で計算できる。 【思・判・表】縦波を横波のように表示し、反射の仕方の違いを説明している。 【主】楽器から出る音のしくみなどに興味をもち、意欲的に学習している。	5	1	1
第4章 電気 【実験】電荷と電流／電流と磁場／エネルギーとその利用（原子核と放射線・原子力）	オームの法則と電力、電流と磁場、発電と送電、放射線と原子力の利用について理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】合成抵抗・ジュール熱・電力量を計算し、電流計と電圧計を接続できる。 【思・判・表】原子力発電のメリット・デメリットを説明している。 【主】放射線や原子力の利用について、意欲的に学習しようとしている。	6	1	1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定8	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング※観察・実験を含む	法定8単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	理科は観察・実験を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和 8 年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：理科 / 科目：化学基礎 / 単位数：2 / 教科書：高等学校改訂新化学基礎（第一学習社） / 報告課題：6 回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8 単位時間（理科＝1単位あたり4時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入り口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第 1～3 回の範囲（物質の構成） / 後期＝報告課題第 4～6 回の範囲（物質の変化）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 第1章 物質の構成						
第 1 節 物質とその構成要素① 【実験】物質の分離・精製／物質を構成する元素／元素の確認	混合物から純物質を分離・精製する実験を行い、実験の基本操作と探究の方法を身につける。	身近なものから学ぶ	【知・技】物質が混合物と純物質、単体と化合物に分けられることを理解している。 【思・判・表】観察・実験の結果を分析して解釈し、表現している。 【主】物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとしている。	1	2	
第 1 節 物質とその構成要素② （物質の三態／原子のなりたち／同位体／電子配置／周期律と周期表）	粒子の熱運動と粒子間に働く力の関係、原子の構造、元素の周期律と電子配置を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解している。 【思・判・表】周期性が現れる理由を的確に表現することができる。 【主】物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に探究しようとしている。	2	1	1
第 2 節 化学結合 【実験】イオン結合／共有結合／分子の極性／金属結合と金属結晶	イオン結合・共有結合・金属結合を電子配置と関連付けて理解し、物質の性質を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】各化学結合とそれによりできた物質の性質を理解している。 【思・判・表】分子の極性を電気陰性度や分子の形をもとに総合的に判断している。 【主】物質が原子・分子・イオンから成り立っていることを理解しようとしている。	3	1	1
■後期 第2章 物質の変化						
第 1 節 物質質量と化学反応式 【実験】原子量・分子量・式量／物質質量／溶解と濃度／化学反応式	物質質量の概念を導入し、化学反応式が化学反応の量的関係を表すことを実験から見いだす。	身近なものから学ぶ	【知・技】物質質量を介して、物質の質量や気体の体積を相互に変換できる。 【思・判・表】化学反応式をもとに物質の量的関係を判断している。 【主】化学変化の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとしている。	4	2	1
第 2 節 酸と塩基の反応 【実験】酸・塩基の強弱／pHの測定／中和反応／中和滴定	酸や塩基に関する実験を行い、酸と塩基の性質および中和反応の量的関係を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】中和反応における酸と塩基の量的関係を計算によって求められる。 【思・判・表】酸・塩基の共通性を見いだし、日常生活と関連付けて考察している。 【主】酸、塩基や中和反応を日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとしている。	5	1	1
第 3 節 酸化還元反応 【実験】酸化数／酸化剤と還元剤／金属のイオン化傾向／電池／電気分解	酸化還元反応が電子の授受によることを理解し、電池や電気分解への利用を学ぶ。	身近なものから学ぶ	【知・技】半反応式をもとに酸化還元反応を組み立てることができる。 【思・判・表】事象・現象の中に共通性を見出し、酸化還元反応として論理的に考察している。 【主】燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、意欲的に探究しようとしている。	6	1	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全 6 回	法定 8	追加 4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週 5・週 3・週 1 等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は各校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全 6 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※観察・実験を含む	法定 8 単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	理科は観察・実験を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。
試験	前期試験（報告課題第 1～3 回の範囲）	1 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第 4～6 回の範囲）	1 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：理科 / 科目：化学 / 単位数：4 / 教科書：新編 化学（実教出版） / 報告課題：12回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：16単位時間（理科＝1単位あたり4時数×4単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～6回の範囲（物質の状態と平衡・物質の変化と平衡・無機物質前半） / 後期＝報告課題第7～12回の範囲（無機物質後半・有機化合物・高分子化合物）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回数	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 第1章 物質の状態と平衡						
1 状態変化／固体の構造	三態変化を粒子にはたらく引力と関連つけて考え、結晶中の粒子の配列を考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】状態変化と結晶の構造について、基本的な概念や原理・法則を理解している。 【思・判・表】浸透や圧力との関係について、科学的に探究している。 【主】化学的な事象・現象に対する探究心を高めようとしている。	1	2	
2 気体の性質 【実験】ボイル・シャルルの法則	気体の状態変化と温度・圧力の関係を考え、ボイル・シャルルの法則を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】気体の性質に関する原理・法則の理解を深めている。 【思・判・表】気体の物質質量の変化における温度・圧力との関係性を推察している。 【主】目的意識をもって観察、実験などを行おうとしている。	2	1	
3 溶液 【実験】溶解度／沸点上昇・凝固点降下	物質が液体に溶けている状態と溶解度を考え、溶液と純溶媒の性質の違いを推察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】溶液の性質について、基本的な概念や原理・法則を理解している。 【思・判・表】溶けることのできる限界量の表され方を考察している。 【主】科学的に探究する能力と態度を身につけようとしている。	3	1	1
■前期 第2章 物質の変化と平衡／第3章 無機物質（前半）						
4 化学反応と熱・光エネルギー／電池と電気分解 【実験】電池・電気分解	ヘスの法則を理解し、電池のしくみと電気分解で生成する物質を考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】エンタルピー変化と電池・電気分解のしくみを理解している。 【思・判・表】電極でどのような反応が起こるかを考察している。 【主】目的意識をもって実験を行い、探究しようとしている。	4	2	1
5 反応の速さとしきり／化学平衡 【実験】反応速度	実験を通して化学反応の速さが異なる条件を考察し、平衡移動と電離平衡を理解する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】化学反応が起こるしくみとエネルギーの変化を理解している。 【思・判・表】平衡状態における条件変化の影響を考察している。 【主】科学的な自然観を育成しようとしている。	5	1	
6 周期表／非金属元素	元素の周期性に注目して性質を理解し、非金属元素の単体や化合物の性質と利用を考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】元素の周期性と非金属元素の性質を理解している。 【思・判・表】ハロゲンの性質と電子配置との関係を考察している。 【主】身のまわりの利用例に関心をもちようとしている。	6	1	
■後期 第3章 無機物質（後半）／第4章 有機化合物／第5章 高分子化合物						
7 金属元素 【実験】金属イオンの分離と確認	アルカリ金属・アルカリ土類金属・典型元素の金属・遷移元素の性質を比較し考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】金属元素の単体や化合物の製法、性質について理解している。 【思・判・表】遷移元素と典型元素それぞれの特徴を比較し、違いを考察している。 【主】目的意識をもって観察、実験などを行おうとしている。	7	2	
8 有機化合物の特徴と分類／脂肪酸化水素	有機化合物の構造による分類を理解し、飽和・不飽和脂肪酸化水素の違いを考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】有機化合物の構造や元素の並びに注目し分類できることを理解している。 【思・判・表】結合の違いによる構造や化学式の表し方の違いを考察している。 【主】化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めようとしている。	8	1	1
9 酸素を含む脂肪酸化合物 【実験】アルコールの酸化	アルコール・アルデヒド・ケトン・カルボン酸の構造と性質を理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】酸素を含む有機化合物の構造・性質を理解している。 【思・判・表】酸化によってできる化合物の性質を考察している。 【主】科学的に探究する能力と態度を身につけようとしている。	9	1	
10 芳香族化合物 【実験】芳香族化合物の分離	ベンゼンを中心に芳香族化合物の構造・特徴を理解し、脂肪酸との性質の違いを考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】芳香族化合物の構造や特徴について理解している。 【思・判・表】脂肪酸のアルコールやカルボン酸との性質の違いを考察している。 【主】化学的な事象・現象に対する探究心を高めようとしている。	10	1	1
11 高分子化合物／天然高分子化合物	身の回りの高分子化合物の構造と性質、糖類・タンパク質の特徴を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】天然高分子化合物の構造と性質を理解している。 【思・判・表】糖類の特徴やアミノ酸とタンパク質の構造を推察している。 【主】身の回りの物質と関連づけて理解しようとしている。	11	1	
12 合成高分子化合物	合成繊維・合成樹脂・ゴムの構造や性質を理解し、他の材料との違いを考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】合成高分子化合物の構造や性質について理解している。 【思・判・表】ゴムと繊維や樹脂との性質の違いを考察している。 【主】科学的な自然観を育成しようとしている。	12	2	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全12回	法定16	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全12回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※観察・実験を含む	法定16単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	理科は観察・実験を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。
試験	前期試験（報告課題第1～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第7～12回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：理科 / 科目：生物基礎 / 単位数：2 / 教科書：高等学校改訂 新生物基礎（第一学習社） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8単位時間（理科＝1単位あたり4時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なもののから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（生物の特徴・遺伝子とその働き・ヒトの体内環境の維持①） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（免疫・生物の多様性と生態系）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 第1章 生物の特徴／第2章 遺伝子とその働き／第3章 ヒトの体内環境の維持（前半）						
第1章 生物の特徴 【観察】顕微鏡による生物の観察 【実験】カタラーゼの働き（多様性と共通性／生物とエネルギー）	生物の多様性と共通性、細胞構造、代謝とATP・酵素、光合成と呼吸を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】生物や生物現象についての理解を深め、観察・実験の技能を身につけている。 【思・判・表】観察結果から、生物が共通にもつ特徴を見だしている。 【主】生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	1	1	
第2章 遺伝子とその働き 【実験】DNAの抽出 【観察】細胞周期の観察（DNAの構造と複製／遺伝情報とタンパク質の合成）	DNAの構造と半保存的複製、細胞周期、転写・翻訳による遺伝子の発現を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】DNAの構造と遺伝子の発現のしくみを理解している。 【思・判・表】資料からDNAが相補性にもつ複製されていることに気づいている。 【主】DNA分子モデルを用いた再現などに主体的に取り組んでいる。	2	2	1
第3章 ヒトの体内環境の維持① 【実験】運動による心拍数の変化（体内での情報伝達／神経系／自律神経系／内分泌系／血糖濃度の調節）	恒常性と体液、神経系・内分泌系による調節、血糖濃度の調節と糖尿病を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】自律神経系と内分泌系による体内環境の調節を理解している。 【思・判・表】資料からインスリンの働きを考察し、理解している。 【主】自らの健康と関連づけて、主体的に学ぼうとしている。	3	1	1
■後期 第3章（後半）／第4章 生物の多様性と生態系						
第3章 免疫（自然免疫／獲得免疫のしくみ／免疫と病気／免疫と医療）	自然免疫と獲得免疫のしくみ、アレルギーや予防接種など免疫と医療の関わりを理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】獲得免疫による病原体排除の流れと抗体の特徴を理解している。 【思・判・表】資料から白血球の働きに気づき、役割について理解を深めている。 【主】身近な免疫に関する疾患に関心をもち、探究しようとしている。	4	2	1
第4章 植生と遷移 【観察】植生の観察（さまざまな植生／植生の遷移／バイオームと分布）	植生の階層構造と遷移のしくみ、日本のバイオームの水平分布・垂直分布を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】遷移のしくみとバイオームの成立要因を理解している。 【思・判・表】資料をもとに遷移の進む要因を考察している。 【主】自然環境の保全に寄与する態度を身につけようとしている。	5	1	
第4章 生態系とその保全 【観察】土壌の生態系を構成する生物の調査（生物どうしの関係／人間活動と生態系の攪乱／生態系の保全）	生態系のバランスと攪乱、人間活動が生態系に与える影響と保全の必要性を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】生態系の復元力と人間活動による影響について理解している。 【思・判・表】外来生物が生態系に与える影響について考察している。 【主】生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。	6	1	1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定8	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング※観察・実験を含む	法定8単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	理科は観察・実験を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科: 理科 / 科目: 生物 / 単位数: 4 / 教科書: 新編 生物 (実教出版) / 報告課題: 12回 / 定期試験: 前期・後期各1回 / 面接指導: 16単位時間 (理科=1単位あたり4時数×4単位)

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験 (身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ) を入り口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値 (成長)」を大切にする。
体験 (スクーリング) → 共感理解の三視点 (身近・仲間・命の繋がり) → 変化値 (成長) → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～6回の範囲 (生物の進化・生物現象と物質・遺伝情報の発現) / 後期＝報告課題第7～12回の範囲 (発生・遺伝子技術・環境応答・生態と環境)
--

■ 添削指導 (報告課題) ・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点 (知・技／思・判・表／主)	報告課題回	面接指導時数 (法定)	追加登校面接時数
■前期 第1章 生物の進化／第2章 生物現象と物質						
1 生命の起源と細胞の進化／遺伝子の変化と進化のしくみ	生命の起源と生物の進化の過程を地球環境の変化にも触れながらつかみ、突然変異を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】生命の誕生に関する仮説と進化のしくみを理解している。 【思・判・表】突然変異が生物の形質にもたらす変化を見いだして理解している。 【主】進化説の理解を深めようとしている。	1	2	
2 生物の系統と進化	生物のもつ様々な特徴の比較から系統関係が明らかになったことを具体例を通して探究する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】現在の生物分類と系統を理解している。 【思・判・表】霊長類現生種との形態比較から人類の進化を考察し、表現している。 【主】生物分類の必要性を理解し、把握しようとしている。	2	1	
3 細胞と分子 【観察】細胞小器官の観察	細胞を構成する物質を機能と関連付けて理解し、生体膜と細胞骨格の働きを理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】細胞や細胞小器官が生体膜によって独自の空間をつくることを理解している。 【思・判・表】細胞の形の維持に関わる物質を分析的に考察している。 【主】分子レベルでの生物現象の把握を目指して学ぼうとしている。	3	1	
4 生命現象とタンパク質 【実験】酵素の性質	タンパク質の立体構造と機能、酵素の触媒作用、物質輸送と情報伝達のしくみを理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】タンパク質の基本的な構造・性質について理解している。 【思・判・表】実験から酵素には最適温度や最適pHがあることを考察している。 【主】酵素に関する実験を行い、生命現象への関わりに気付こうとしている。	4	2	1
5 代謝 (光合成と呼吸／ATP)	同化と異化、ATPの役割、光合成と呼吸のしくみと意義を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】エネルギーの通貨としてのATPの働きを理解している。 【思・判・表】クエン酸回路・電子伝達系の役割を分析的に考察している。 【主】生命活動に必要なエネルギーの獲得のしくみを理解しようとしている。	5	1	1
6 遺伝情報とその発現 【実験】大腸菌の培養	DNAの複製・遺伝暗号・タンパク質合成、遺伝子発現の調節のしくみを理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】半保存的複製とRNAのタンパク質合成への関与を理解している。 【思・判・表】実験をもとに遺伝子発現の調節を見だし、自分なりの考えを出している。 【主】調節遺伝子やプロモーターを用いて一連の流れを説明しようとしている。	6	1	
■後期 第3章 発生と遺伝子技術／第4章 生物の環境応答／第5章 生態と環境						
7 発生と遺伝子発現	受精と発生の過程、器官形成、誘導現象を代表的な例について探究的に考察する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】動物の配偶子形成、受精膜の形成のしくみを理解している。 【思・判・表】ショウジョウバエの実験結果をもとに、母性因子の関与を理解している。 【主】複雑なからだのつくりができてきあがる過程を探究しようとしている。	7	2	1
8 遺伝子を扱う技術 【実験】電気泳動	遺伝子組換え・組織培養・核移植などの技術と、その医療・農業への応用を実例で把握する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】バイオテクノロジーの応用例や方法を理解している。 【思・判・表】電気泳動の原理を理解し、適切な泳動結果を得ることができる。 【主】マイナス面にも目を向け、考察し表現しようとしている。	8	2	
9 動物の反応／動物の行動 【観察】受容器の構造	刺激の受容から反応までの関連、神経の興奮と伝達、中枢神経系の働きを理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】受容器の構造と機能、興奮の発生・伝導・伝達を理解している。 【思・判・表】筋収縮に必要なエネルギーの供給について考察している。 【主】動物の行動を探究的に考察しようとしている。	9	1	1
10 植物の成長と環境応答 【実験】屈光性	植物の伸長成長・発芽・花芽形成が環境と植物ホルモンによって制御されることを理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】植物の成長と環境との関わりを理解している。 【思・判・表】現象が実験によって明らかにされてきた過程を科学的に判断している。	10	1	
11 個体群と生物群集 【実験】ウキウサの個体群の成長	個体群の成長と密度効果、個体群間の相互作用、生物群集の維持のしくみを理解する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】個体群間の関係と生物群集の構造や働きを理解している。 【思・判・表】被食者と捕食者の個体数が周期的に変動することを見いだしている。 【主】生物の生活と環境との関わりを、身近な現象から考えようとしている。	11	1	
12 生態系 (物質生産とエネルギー効率／物質循環／生物多様性)	生態系における物質生産とエネルギー効率、生物多様性に影響を与える要因を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】生態系の構造や働きと、その平衡のしくみを理解している。 【思・判・表】物質循環・エネルギーの流れの観点から考察し、表現している。 【主】自然保護・環境保全の意義を実感し、主体的に行動する意識をもとうとしている。	12	1	
合 計	「面接指導時数 (法定)」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校各が記入する。			全12回	法定16	追加4
記入欄	学習センター名: / 登校形態 (週5・週3・週1等): / 合計面接指導時数:					

■ 面接指導 (スクーリング) ～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通じた学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日 (報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日) は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題 (レポート) の提出・添削・返却	全12回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導 (1単位時間=50分) + 集中スクーリング ※観察・実験を含む	法定16単位時間 +追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	理科は観察・実験を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする (規程第4条9)。
試験	前期試験 (報告課題第1～6回の範囲)	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験 (報告課題第7～12回の範囲)	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：理科 / 科目：地学基礎 / 単位数：2 / 教科書：高等学校改訂地学基礎（第一学習社） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8単位時間（理科＝1単位あたり4時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切に する。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（地球のすがた・地球の活動・大気と海洋） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（宇宙と地球・生物の変遷・地球の環境）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技・思・判・表・主）	報告 課題回	面接指導時 数 （法定）	追加登校 面接時数
■前期 第1章 地球のすがた／第2章 地球の活動／第3章 大気と海洋						
第1章 地球のすがた 【実習】地形図の利用・地層モデル （地球の概観と内部構造／ プレートの運動／地殻変動と 地質構造／変成作用／大地形の形成）	地球の層構造とプレートテクトニクスを理解し、 地殻変動を運動と関連づけて考察する。	身近なものから学ぶ	【知・技】地球の層構造とプレートの境界の特徴を理解している。 【思・判・表】地殻変動について、プレートの運動に関連させて考察している。 【主】地球内部のなりたちを意欲的に探究しようとしている。	1	2	
第2章 地球の活動 【観察】火山灰・火成岩の観察 （地震の発生と分布／地震波／ 日本付近の地震／火山活動／ 火成岩の形成と種類）	地震と火山活動のしくみをプレートと関連させて 理解し、火成岩を観察して分類する。	身近なものから学ぶ	【知・技】地震波・大森公式、火成岩の分類について理解している。 【思・判・表】資料から地震・火山の分布とプレートとの関連を見いだしている。 【主】地震や火山のおこるしくみを意欲的に探究しようとしている。	2	1	1
第3章 大気と海洋 【実験】深層循環の再現 （大気のエネルギ－収支／ 大気の大循環／海洋の構造と大循環／ エルニーニョ現象）	大気圏の構造とエネルギー収支、大気と海水の大 循環、エルニーニョ現象を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】大気のエネルギ－収支、温室効果、海洋の大循環を理解している。 【思・判・表】再現実験を通して、深層に及ぶ循環のしくみを考察している。 【主】海水と大気の相互作用と人間生活との関わりに関心をもとうとしている。	3	1	1
■後期 第4章 宇宙と地球／第5章 生物の変遷と地球環境／第6章 地球の環境						
第4章 宇宙と地球 【観察】星団・太陽黒点・木星の衛星 （宇宙の始まり／太陽の誕生と活動／ 太陽系の構造と誕生／ 生命の惑星・地球）	宇宙と太陽系の誕生過程を理解し、地球上に生命が 存在する理由を考察する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】宇宙の始まり、太陽の活動、太陽系の構造を理解している。 【思・判・表】惑星の環境の違いから、その要因について考察している。 【主】原始地球の誕生過程や進化について意欲的に学習しようとしている。	4	1	1
第5章 生物の変遷と地球環境 【観察】堆積岩・化石の観察 （地層の形成と対比／堆積岩／ 化石と地質時代／ 地球と生物の変遷）	地層と化石から地質時代を読み取り、先カンブリ ア時代から新生代までの変遷を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】示相化石と示準化石、地質時代の区分について理解している。 【思・判・表】酸素・二酸化炭素濃度のグラフから、生物の進化・絶滅を考察している。 【主】地質時代カレンダーの作成を通して、地学的なタイムスケールを身につけている。	5	1	1
第6章 地球の環境 【実習】天気図・ハザードマップ判読 （気候変動と地球温暖化／オゾン層／ 自然の恵恩／季節の変化、 気象災害・地震災害・火山災害と防災）	地球環境の変化と人間活動の関わりを理解し、日 本の自然災害とその対策について学ぶ。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】気候変動の原因と日本の自然災害・防災について理解している。 【思・判・表】気象観測データやハザードマップから、身近な地域の災害を予測している。 【主】環境への影響や人間活動との関わりに関心もち、意欲的に学習しようとしている。	6	2	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定8	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋ 集中スクーリング ※観察・実験を含む	法定8単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	理科は観察・実験を伴うため、 面接指導時数を1単位あたり 4時数とする（規程第4条9） 。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画					
教科：保健体育		科目：体育	単位数：7（必修・第1～3学年次）	教科書：現代高等保健体育 改訂版（大修館書店）	
報告課題：9回（3回・3回・3回）		定期試験：前期または後期（年に1回）		面接指導：35単位時間（体育＝1単位あたり5時数×7単位）	
■ この科目が目指すもの					
教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共通理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏重でなく「変化値（成長）」を大切にすること。					
体験（スクーリング）		→ 共通理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり）		→ 変化値（成長）	
				→ 心豊かに生きる・生き切る	

■ 定期試験範囲	
【第1学年】 報告課題第1～3回の範囲（スポーツの発祥と発展）	
【第2学年】 報告課題第4～6回の範囲（運動・スポーツの学び方前半）	
【第3学年】 報告課題第7～9回の範囲（豊かなスポーツライフの設計）	

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共通理解の視点	評価の観点（知・技・思・判・表・主）	面接指導時数 （注定）	追加登校 面接時数	リベラルアーツに 一体育4単位ー
■第1学年 スポーツの発祥と発展						
スポーツの始まりと変遷／文化としてのスポーツ	スポーツがどのように始まり世界に広まったかを説明でき、文化としての特徴を捉える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論を理解している。 【思・判・表】多様ななかかわり方によるスポーツ文化の変容を例をあげて説明している。 【主】運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	15	2	2単位
オリンピックとパラリンピックの意義／スポーツが経済に及ぼす効果	オリンピズムとパラリンピックの価値、スポーツの経済的役割について説明できる。	身近なものから学ぶ	【知・技】スポーツと社会との関わりについて総合的に理解している。 【思・判・表】具体例をあげながら、意義について他者に伝えている。 【主】スポーツの価値を大切にし、主体的に学習に取り組もうとしている。			
スポーツの高革さとドーピング／スポーツと環境	スポーツの高革さを脅かす要因と、スポーツにおける環境問題との関係について説明できる。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】健康・安全について総合的に理解している。 【思・判・表】環境とどのように調和していけばよいかを説明している。 【主】健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。			
■第2学年 運動・スポーツの学び方						
【実技】スポーツにおける技能と体力の関係を説明でき、能力とスポーツにおける技術と戦略について理解する。	技能と体力の関係を説明でき、技術・戦略・ルールの変化について理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】目的に応じた技能を身につけている。 【思・判・表】課題に応じた運動の取り組み方を工夫し、他者に伝えている。 【主】運動の楽しさや喜びを深く味わおうとしている。	10	4	1単位
技能の上達過程と練習／効果的な動きのメカニズム	技能の上達のステップと、よい動きを支える調整力について説明できる。	身近なものから学ぶ	【知・技】合理的な動きを理解し、目的に応じた技能を身につけている。 【思・判・表】目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫している。 【主】主体的に運動に取り組もうとしている。			
【実技】体力トレーニング／運動やスポーツでの安全の確保	目的に応じたトレーニング方法と、スポーツ外傷・障害の予防方法を説明できる。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】健康・安全について総合的に理解し、技能を身につけている。 【思・判・表】事故の発生原因と予防方法を説明している。 【主】自他の健康の保持増進についての学習に主体的に取り組もうとしている。			
■第3学年 豊かなスポーツライフの設計						
生涯スポーツの見方・考え方／ライフスタイルに応じたスポーツ	ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツライフの設計のしかたを考える。	身近なものから学ぶ	【知・技】生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論を理解している。 【思・判・表】自己の課題を見出し、計画的な解決に向けて工夫し他者に伝えている。 【主】豊かなスポーツライフを創造しようとしている。	10	4	1単位
スポーツを推進する取り組み	ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツライフの設計のしかたを考える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】国や地方自治体のスポーツ推進に関わる施策を知り、それを支える仕組みを理解している。 【思・判・表】将来の自己のスポーツ設計について、計画的な解決に向けて工夫し、他者に伝えている。 【主】豊かなスポーツライフを創造しようとしている。			
豊かなスポーツライフの創造	ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツライフの設計のしかたを考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】スポーツへの多様な関わり方からうまれるメリット・デメリットを理解している。 【思・判・表】自己や自己を取り巻く環境の変化を予測し、自己や社会についての課題を発見している。 【主】豊かなスポーツライフを創造しようとしている。			
合 計	「面接指導時数（注定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登録日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。					
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「遠切のない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数はまない。これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は各校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方ににつなげる。
--

■ 3か年の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全回 （年3回/各学年）	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定35単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	体育は実技を伴うため、面接指導時数を1単位あたり50分とする（規程第4条3）。
試験	各学年範囲毎に実施	年1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

登校が困難である生徒に対しては、学習指導要領に規定する放送視聴（ラジオ・テレビ放送およびインターネット放送）による面接指導の振替（免除）を実施することができる。教務担当者が該当番組等を選定し、当該生徒は放送視聴報告課題を作成して所属学習センターに提出する。年間で計画的に行う必要があるため、申し出は年度初めの4月または10月とする。

報告課題・定期試験・面接指導を基に3観点で総合評価（配分は教科に応じ調整）。加えて、偏差値では測れない一人ひとりの「変化値（成長）」と心の育ちを、振り返りや面接指導で見取る。他者と比べない。		
添削指導	所定の報告課題（レポート）をすべて提出し、添削指導を受けていること。	
面接指導	所定の面接指導時数に出席していること。出席時数が授業時間数の1/2以上2/3未満の生徒に対しては、単位修得条件の補充を目的として補充指導を実施することができる（補充授業は教科単位で実施）。	
試験	年に一度（前期または後期）の定期試験を受験し、所定の基準を満たしていること。	
上記に加え、知識・技能・思考・判断・表現／主体的に学習に取り組む態度の3観点で総合的に評価し、校長が単位の修得を認定する。		

「主体的に学習に取り組む態度」の評価にあたっては、学習への取り組み状況（授業態度、報告課題への取り組み、発言・発表への積極性）に加えて、生徒の三つの約束が授業の中で実際に行動として表れているかを、下記ルーブリックにより評価する。
三つの約束は生徒が1人1人能力モデルのType1～3に対応する育ちの段階であり、生徒一人ひとりの歩みに応じて往還する。到達段階で他者と比べるとではなく、その生徒自身の「変化値（成長）」と心の育ちを見取る。

三つの約束（育ちの段階）	A 十分達成	B おおむね達成	C 努力を要する
Type1 人を認める～まずは人（自分）を好きになる～	成功体験の積み重ねから自分を肯定でき、その上で仲間のよさを具体的に受けとめ、言葉に伝えて伝えている。真なる考えを自分の学びに取り入れている。	自分のできたことを認められるようになり、仲間の意見を最後まで聞いている。	自分や仲間のよさに向ける場面で、受けとめる姿勢が十分でない。
Type2 人を排除しない～つぎは世界を広げる～	学年・年齢・立場を超えて多様な人と関わり、誰かのために働き、どんな時でも相手を持って参加していく仲間を学びの場に迎え入れている。	遠くに対して分け隔てなく接し、自分と異なる立場の人とも活動をともにしている。	特定の仲間との関わりになり、多様な人と関わろうとする姿勢が十分でない。
Type3 仲間とともに～ささいには協働して～	仲間とともに何かを作り上げる経験を重ね、人との適切な距離を保ちながら、「弱い絆」も含めた新たな関わりを生み出している。	グループでの活動に参加し、仲間と協力しながら自分の役割を果たそうとしている。	協働する場面での参加や役割の遂行が十分でない。

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：保健体育 / 科目：保健 / 単位数：2（必修・第1～2学年次） / 教科書：現代高等保健体育 改訂版（大修館書店） /
報告課題：6回（3回～3回） / 定期試験：前期または後期（年1回） / 面接指導：2単位時間（保健＝1単位あたり1時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なもののから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。

体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

【第1学年】報告課題第1～3回の範囲（現代社会と健康）
【第2学年】報告課題第4～6回の範囲（安全な社会生活・生涯を通じる健康・健康を支える環境づくり）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技・思・判・表・主）	報告 課題回目	面接指導時 数 (法定)	追加登校 面接時数
■第1学年 現代社会と健康						
現代社会と健康① （健康の考え方と成り立ち／ 私たちの健康のすがた／ 生活習慣病の予防と回復）	健康を成り立たせている要因と、生活習慣病の種類・ ・要因・一次予防と二次予防を説明できる。	命の繋がりを 学ぶ	【知・技】現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項 を理解している。 【思・判・表】科学的に思考し、選択すべき行動を適切に判断している。 【主】自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に取り組もうとし ている。	1	1	2
現代社会と健康② （運動と健康／食事と健康／ 休養・睡眠と健康）	運動・食事・休養と健康の関係を理解し、健康的な 生活習慣のとり方を説明できる。	身近なものから 学ぶ	【知・技】健康・安全の意義を理解し、知識を身につけている。 【思・判・表】個人生活における健康の課題を総合的に捉えている。 【主】自らの生活を振り返り、意欲的に取り組もうとしている。	2		
現代社会と健康③ （喫煙と健康／飲酒と健康／ 薬物乱用と健康）	喫煙・飲酒・薬物乱用の健康影響と依存性、開始要 因と対策について説明できる。	命の繋がりを 学ぶ	【知・技】健康被害を防ぐさまざまな対策について理解している。 【思・判・表】課題の解決を目指して科学的に思考し、適切に判断して いる。 【主】自他の健康を大切にしようとしている。	3		
■第2学年 安全な社会生活／生涯を通じる健康／健康を支える環境づくり						
安全な社会生活① 【実技】応急手当・心肺蘇生法 （事故の現状と発生要因／ 安全な社会の形成／交通における安全）	事故の人的要因と環境要因を理解し、応急手当と心 肺蘇生法を実際におこなうことができる。	仲間とともに 学ぶ	【知・技】応急手当の意義を理解し、心肺蘇生法の技能を身につけてい る。 【思・判・表】安全確保に必要な個人の行動と環境整備を例をあげて説明 している。 【主】他者の健康被害についても理解し、活用しようとしている。	4	1	2
生涯を通じる健康① （ライフステージと健康／ 思春期と健康／性意識と性行動の選択／ 妊娠・出産と健康／家族計画）	各ライフステージの健康課題と、思春期・妊娠・出 産の健康について理解する。	命の繋がりを 学ぶ	【知・技】生涯を通じる健康について、基礎的な事項を理解している。 【思・判・表】活用できる社会からの支援について例をあげて説明して いる。 【主】自らの健康を適切に管理し、改善していこうとしている。	5		
健康を支える環境づくり① （大気汚染／水質汚濁・土壌汚染／ 環境と健康にかかわる対策／ ごみの処理と上下水道／食品の安全性／ 保健・医療サービスとその活用）	環境汚染と健康の関係を学び、社会全体の健康を高 める環境づくりへの参加意義を考える。	命の繋がりを 学ぶ	【知・技】社会生活と健康について、基礎的な事項を理解している。 【思・判・表】環境と健康の課題を総合的に捉え、適切に判断している。 【主】環境づくりに積極的に参加しようとしている。	6		
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登録日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定2	追加4
記入欄	学習センター名：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。
これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につながる。

■ 2カ年の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回 （年3回/各学年）	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定2単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	保健は1単位あたり1時数（規程第4条9）。応急手当・心肺蘇生法の実習を含む。
試験	各学年範囲毎に実施	年1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
－	－	－	－	－

登校が困難である生徒に対しては、学習指導要領に規定する放送視聴（ラジオ・テレビ放送およびインターネット放送）による面接指導の振替（免除）を実施することができる。教務担当者が該当番組等を選定し、当該生徒は放送視聴報告課題を作成して所属学習センターに提出する。
年間で計画的に行う必要があるため、申し出は年度初めの4月または10月とする。

報告課題・定期試験・面接指導を基に3観点で総合評価（配分は教科に応じ調整）。加えて、偏差値では測れない一人ひとりの「変化値（成長）」と心の育ちを、振り返りや面接指導で見取る。他者と比べない。	
添削指導	所定の報告課題（レポート）をすべて提出し、添削指導を受けていること。
面接指導	所定の面接指導時数に出席していること。出席時数が授業時間数の1/2以上2/3未満の生徒に対しては、単位修得条件の補充を目的として補充指導を実施することができる（補充授業は教科単位で実施）。
試験	年に一度（前期または後期）の定期試験を受験し、所定の基準を満たしていること。
評定	上記に加え、知識・技能／思考・判断・表現／主体的に学習に取り組む態度の3観点で総合的に評価し、校長が単位の修得を認定する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価にあたっては、学習への取り組み状況（授業態度、報告課題への取り組み、発言・発表への積極性）に加えて、星槎の三つの約束が授業の中で実際に行動として表れているかを、下記ルーブリックにより評価する。
三つの約束は星槎ETM拡充モデルのType1～3に対応する育ちの段階であり、生徒一人ひとりの歩みに応じて往還する。到達段階で他者と比べるのではなく、その生徒自身の「変化値（成長）」と心の育ちを見取る。

	A 十分達成	B おおむね達成	C 努力を要する
Type1 人を認める ～まずは人（自分）を好きになる～	成功体験の積み重ねから自分を肯定でき、その上で仲間のよさを具体的に受けとめ、言葉にして伝えている。異なる考えを自分の学びに取り入れている。	自分のできたことを認められるようになり、仲間の意見を最後まで聞いて受けとめようとしている。	自分や仲間のよさに目を向ける場面で、受けとめる姿勢が十分でない。
Type2 人を排除しない ～つづきは世界を広げる～	学年・年齢・立場を超えて多様な人と関わり、誰かのために働き、どんな時も相手を想って参加しにくい仲間を学びの場に入れ入れている。	誰に対しても分け隔てなく接し、自分と異なる立場の人とも活動をともにしている。	特定の仲間との関わりに偏り、多様な人と関わりとうとする姿勢が十分でない。
Type3 仲間をつくる ～さいごは協働してみる～	仲間とともに何かを作り上げる経験を重ね、人との適切な距離感を保ちながら、「弱い絆」も含めた新たな関わりを生み出している。	グループでの活動に参加し、仲間と協力しながら自分の役割を果たそうとしている。	協働する場面での参加や役割の遂行が十分でない。

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：学校設定教科 / 科目：健康科学（学校設定科目） / 単位数：3（自由選択・分割可） / 履修学科：普通科（リベラルアーツコース） / 履修学年：第1～3学年次 / 教科書・副教材：なし / 報告課題：3回 / 面接指導：15単位時間(健康科学＝1単位あたり5時数×3単位)

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がりが） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1回の範囲（健康を考える・健康をコントロールする） / 後期＝報告課題第2～3回の範囲（豊かで健康な日常を維持するために・健康と日常） ※教科書を用いず、実践・活動を中心とする科目のため、定期試験に代えてレポート及び活動記録により評価する。

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 健康を科学的にとらえる						
1. 健康を考える （グローバルヘルス／星槎の健康科学の捉え方／現代における感染症の課題／現代社会と健康・アジアの健康・世界の健康）	健康を個人の問題にとどめず、公衆衛生・国際保健の視点から捉え直し、現代社会の健康課題を知る。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】グローバルヘルスの考え方と現代の健康課題について理解している。 【思・判・表】昔と今、日本と世界を比較して健康課題を多面的に考察し、表現している。 【主】自分の健康と世界の健康とのつながりに関心をもとうとしている。	1	5	1
2. 健康をコントロールする 【実践】食生活・運動・睡眠の記録（感染症の予防・コントロール／食生活について／運動について／睡眠について）	適切な栄養・運動・休養のとり方を科学的に理解し、自分の生活習慣を記録して見直す。	身近なものから学ぶ	【知・技】栄養・運動・休養が健康に及ぼす影響について科学的に理解している。 【思・判・表】自分の生活習慣を記録・分析し、改善の方法を判断している。 【主】学んだことを日常生活に安全に取り入れ、実践しようとしている。			1
■後期 健康を日常につなげる						
3. 豊かで健康な日常を維持するために 【実践】マインドフルネス／発声・歌唱（環境が健康にもたらす影響／「生きがい」とIKIGAI／芸術と健康／世界の儀式／マインドセット／ルーティーンとゲン担ぎ）	心と体のつながりを、環境・生きがい・芸術・文化の視点から捉え、豊かな健康観を育てる。	仲間とともに学ぶ	【知・技】心身の健康に影響を与える環境的・文化的要因について理解している。 【思・判・表】「生きがい」やマインドセットが健康に果たす役割を考察し、表現している。 【主】仲間とともに実践に取り組み、感じたことを伝え合おうとしている。	2	5	1
4. 健康と日常 【実践】星槎体操／スポーツリズムトレーニング（STAR）／マインドフルネスの実践（自分にあったルーティーン／健康寿命について考える）	病気の治療から健康の維持増進へと視点を移し、自分に合ったルーティーンをつくって続ける。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】健康寿命の考え方と、健康維持増進の価値について理解している。 【思・判・表】自分に合ったルーティーンを構想し、実践結果を振り返って改善している。 【主】食う・寝る・遊ぶを大切にする星槎マインドを、生涯にわたる健康づくりに生かそうとしている。	3	5	1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全3回	法定15	追加4
記入欄	学習センター名： ／ 登校形態（週5・週3・週1等）： ／ 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全3回	別掲「年間行事予定表」のとおりに	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※実践・活動を含む	法定3単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおりに	本校の履修条件は1単位あたり時間数4時間・添削枚数2枚以上とし、法定時数（学校設定科目＝1単位あたり2時数）をよめる
評価	レポート及び活動記録（自己評価・相互評価）による評価	通年	別掲「年間行事予定表」のとおりに	教科書を用いない実践科目のため、定期試験に代えて活動記録により評価する。

■ 本科目における評価の特例

本科目はルーブリック評価を基本とし、レポート及び活動記録（自己評価・相互評価）により評価する。教科書を用いない実践科目のため、定期試験に代えて活動記録を用いる。単位修得には活動記録の提出を要する。
--

令和 8 年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：情報 / 科目：情報Ⅰ / 単位数：2 / 教科書：新編 情報Ⅰ（東京書籍） / 報告課題：4回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：4単位時間（情報＝1単位あたり2時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なもののから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にす。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～2回の範囲（情報で問題を解決する・情報を伝える） / 後期＝報告課題第3～4回の範囲（コンピュータを活用する・データを活用する・活動して提案する）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技・思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 1章 情報で問題を解決する／2章 情報を伝える						
1章 情報で問題を解決する （情報とメディアの特性／問題の発見・解決／情報モラル／個人情報とSNS／知的財産権／新しい情報技術と社会の変化）	問題を発見・解決する一連の流れを理解し、情報社会で生活するための情報モラルを身につける。	仲間とともに学ぶ	【知・技】 情報社会と人との関わりについて理解している。 【思・判・表】 事象を情報とその結び付きの視点から捉えている。 【主】 情報社会との関わりについて考えながら、主体的に活用しようとしている。	1	1	1
2章 情報を伝える 【実習】 情報デザインによる文書作成（メディアとコミュニケーション／デジタル化のしくみ／情報デザイン／ユニバーサルデザイン）	デジタルデータのしくみを理解し、情報デザインの方法を使って分かりやすい文書を作成する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】 効果的なコミュニケーションの実現について理解し、技能を身につけている。 【思・判・表】 事象を情報とその結び付きの視点から捉えている。 【主】 自ら評価し改善しようとしている。	2	1	1
■後期 3章 コンピュータを活用する／4章 データを活用する／5章 活動して提案する						
3章 コンピュータを活用する 【実習】 プログラミング・シミュレーション（五大装置／論理回路／アルゴリズムとプログラム）	コンピュータのしくみとアルゴリズムを理解し、プログラムの基本構造を活用する。	身近なもののから学ぶ	【知・技】 コンピュータの活用について理解し、技能を身につけている。 【思・判・表】 問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に用いている。 【主】 主体的に情報技術を活用しようとしている。	3	1	1
4章 データを活用する／5章 活動して提案する 【実習】 データ分析・提案活動（ネットワークとセキュリティ／データベース／データ分析）	情報通信ネットワークとデータ分析の手法を理解し、学習内容を日々の生活・活動に生かす。	仲間とともに学ぶ	【知・技】 データの活用について理解し、技能を身につけている。 【思・判・表】 2つのデータ間の関係を調べる方法を理解し、活用している。 【主】 問題の発見・解決に向けて主体的に取り組む、自ら評価し改善しようとしている。	4	1	1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全4回	法定4	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。					
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考	
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全4回	別掲「年間行事予定表」のとおり		
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定4単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	情報は実習を伴うため、面接指導時数を1単位あたり2時数とする（規程第4条9）。	
試験	前期試験（報告課題第1～2回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり		
試験	後期試験（報告課題第3～4回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり		

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：情報 / 科目：情報Ⅱ / 単位数：2 / 教科書：情報Ⅱ（東京書籍） / 報告課題：4回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：4単位時間（情報＝1単位あたり2時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～2回の範囲（実習編・理論編1～2章） / 後期＝報告課題第3～4回の範囲（理論編3～4章・活用編）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回数	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 実習編／理論編（情報社会・コンテンツ）						
実習編 【実習】コンテンツ制作・データ分析・情報システム構築 (情報社会／コンテンツ／データサイエンス／情報システム)	デジタルコンテンツの制作・発信、データの可視化と分析、簡単な情報システムの設計・構築を行う。	仲間とともに学ぶ	【知・技】情報技術を活用するための知識と技能を身につけている。 【思・判・表】適切なデータ分析の手法を用いて表現している。 【主】生産・制作をする立場への理解を深めようとしている。	1	2	1
理論編1章 情報社会／ 理論編2章 コンテンツ (コミュニケーションの形態／表現メディアの特性／情報発信と広告の効果)	情報社会の進展が人間の活動や社会に与える影響を理解し、適切な情報発信のあり方を考える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】情報化の進展する社会の特質と人間との関わりを理解している。 【思・判・表】事象を情報とその結び付きの視点から捉えている。 【主】情報社会との関わりについて考えながら学ぼうとしている。	2		1
■後期 理論編（データサイエンス・情報システム）／活用編						
理論編3章 データサイエンス／ 理論編4章 情報システム (データの種類と特性／回帰分析・クラスター分析・機械学習／情報セキュリティと暗号化／システム開発とRASIS)	代表的なデータ分析手法と情報セキュリティ・システム開発の流れについて理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】情報セキュリティの3原則と暗号化技術について理解している。 【思・判・表】問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用している。 【主】主体的に情報及び情報技術を活用しようとしている。	3	2	1
活用編 【実習】協働学習によるプロジェクト (発想法／調査手法／プレゼンテーション／知的財産権と情報倫理)	グループで課題に取り組み、収集・分析したデータを効果的に伝えて相互評価する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】調査手法とプレゼンテーション技法を理解し、実践している。 【思・判・表】収集・分析したデータを効果的に伝えている。 【主】情報社会の倫理に則って成果物を発信・相互評価しようとしている。	4		1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全4回	法定4	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全4回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング	法定4単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	情報は実習を伴うため、面接指導時数を1単位あたり2時数とする（規程第4条9）。
試験	前期試験（報告課題第1～2回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第3～4回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和 8 年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：外国語 / 科目：英語コミュニケーションⅠ / 単位数：3 / 教科書：All Aboard! English CommunicationⅠ Revised（東京書籍） / 報告課題：9回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：12単位時間（外国語＝1単位あたり4時数×3単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なもののから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～5回の範囲（Lesson 1～5） / 後期＝報告課題第6～9回の範囲（Lesson 6～10）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 Lesson 1～5						
Lesson 1 Breakfast around the World ／Lesson 2 Australia's Cute Quokkas ／文法のまとめ1 【言語材料】過去形／進行形	世界の朝食と野生動物についてのスピーチを通して、好きな食べ物や動物を英語で伝える。	身近なものから学ぶ	【知・技】過去形・進行形を用いた文の形・意味・用法を理解し、概要や要点を捉える技能を身につけている。 【思・判・表】聞いたり読んだりしたことを活用し、自分の考えや理由を話したり書いたりして伝え合っている。 【主】自分の考えや好きな理由などを伝え合おうとしている。	1	2	
Lesson 3 Life with Spade ／Communication 2 道案内 ／Let's Listen 1 友達との約束 【言語材料】助動詞 can, will	人と動物のきずなについて学び、出かける予定や自分ができることを英語で伝える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】助動詞 can・will を用いた文の形・意味・用法を理解している。 【思・判・表】地図を見ながら、相手が理解しやすいような案内をしている。 【主】必要な情報を聞き取って整理しようとしている。	2	1	1
Lesson 4 A Miracle Mirror ／英文Eメールの書き方 ／Extra Target 1 人物当てクイズ 【言語材料】to不定詞／接続詞	海外の観光地について読み、日本のおすすめの場所ややりたいことを英語で伝える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】to不定詞・接続詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 【思・判・表】情報を整理し、人物のプロフィールを的確に伝えている。 【主】情報や考え、気持ちなどを伝え合おうとしている。	3	1	1
Lesson 5 A Dream Engine ／Let's Listen 2 機内アナウンス 【言語材料】動名詞／主語＋動詞＋目的語＋目的語	題材文の概要・要点を捉え、将来の夢について、英語で伝えることができる。	身近なものから学ぶ	【知・技】動名詞や英文のしくみを理解し、概要や要点を捉える技能を身につけている。 【思・判・表】情報や考え、気持ちなどを話したり書いたりして伝え合っている。 【主】支援を活用しながら、伝え合おうとしている。	4	1	
前期のまとめ／文法のまとめ2 / Short Stories in English 【言語活動】知覚動詞	前期に学んだ言語材料を用いて、相手とコミュニケーションをとることができる。	仲間とともに学ぶ	【知・技】知覚動詞を用いて、相手とコミュニケーションする技能を身につけている。 【思・判・表】論理性に注意して話して伝え合っている。 【主】相手とコミュニケーションをしようとしている。	5	1	2
■後期 Lesson 6～10						
Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period ／Lesson 7 A Diary of Hope 【言語材料】受け身／比較表現	題材文の概要・要点を捉え、学んだ表現を用いて情報や考えを伝え合う。	仲間とともに学ぶ	【知・技】受け身や比較表現を用いた文の形・意味・用法を理解している。 【思・判・表】必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握している。 【主】自分の考えをまとめて伝え合おうとしている。	6	2	1
Lesson 8 A Door to a New Life / Lesson 9 Ghosts in the Oceans ／文法のまとめ3 【言語材料】現在完了形／主語＋動詞＋目的語＋補語	ロボットに対する意見や地域の環境問題に対する取り組みについて、自分の意見を英語で述べる。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】現在完了形や英文のしくみの用法を理解し、要点を捉える技能を身につけている。 【思・判・表】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えている。 【主】社会的な話題について、主体的に考えを述べようとしている。	7	1	1
Lesson 10 Pigs from across the Sea / Reading 2 【言語活動】関係代名詞 / 仮定法過去	興味のある海外の国や地域について、英語で伝えたりポスタープレゼンテーションを行う。	仲間とともに学ぶ	【知・技】関係代名詞仮定法過去を用いた文の形・意味・用法を身につけている。 【思・判・表】情報を整理して相手に伝わりやすいようにしている。 【主】人や物について説明を加えようとしている。	8	1	1
後期のまとめ／文法のまとめ4 【言語活動】Tool Box Plus / Hit the Target	1年間に学んだ言語材料を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合う。	仲間とともに学ぶ	【知・技】既習の言語材料を用いて、相手とコミュニケーションする技能を身につけている。 【思・判・表】基本的な語句や文を用いて、論理性に注意して文章を書いて伝えている。 【主】やり取りを続けようとしている。	9	2	1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全9回	法定12	追加8
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通じた学びを行う。実施内容は各校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につながる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全9回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※言語活動（発表・やり取り）を含む	法定12単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	外国語は言語活動を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。
試験	前期試験（報告課題第1～5回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第6～9回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：外国語 / 科目：英語コミュニケーションⅡ / 単位数：4 / 教科書：All Aboard! English CommunicationⅡ（東京書籍） / 報告課題：12回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：16単位時間（外国語＝1単位あたり4時数×4単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切に する。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～6回の範囲（Pre-Lesson～Lesson 6） / 後期＝報告課題第7～12回の範囲（Lesson 7～10・Reading）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告 課題回	面接指導時 数 (法定)	追加登校 面接時数
■前期 Pre-Lesson～Lesson 6						
Pre-Lesson My Plans for This Year 【言語材料】 to不定詞／助動詞 will	新学期にあたり今年の計画について考え、クラスメートと対話・インタビューする。	仲間とともに学ぶ	【知・技】 to不定詞や助動詞willを用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 今年やってみたいことなどを整理して、相手が理解しやすいように伝えている。 【主】 相手が理解しやすいように伝えようとしている。	1	1	
Lesson 1 A Colorful Island 【言語材料】 関係代名詞 what	イタリアのプラーノ島の特色を学び、海外で行ってみたい場所を英語で述べる。	仲間とともに学ぶ	【知・技】 関係代名詞whatを用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために伝え合っている。 【主】 情報や考え、気持ちなどを伝え合おうとしている。	2	1	1
Let's Listen 1 ホテルにチェックイン ／Communication 1 病院で診察 ／Lesson 2 With the Beatles ／Word Box 1 Feelings and Emotions 【言語材料】 比較表現 more, the most	実際の場面で使われる表現を学び、世代を超えて人気のある人物について述べる。	仲間とともに学ぶ	【知・技】 比較表現を用いた文の形・意味を理解し、症状や気分を説明できる。 【思・判・表】 必要な情報を聞き取って整理し、相手が理解しやすいように説明している。 【主】 好きな理由などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。	3	1	1
Lesson 3 Wild Men ／文法のまとめ1 【言語材料】 itの用法	ヨーロッパの祭りに登場する「ワイルドマン」を通して、人間社会と自然について考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】 itを用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 身近な行事について、情報や考えなどを伝え合っている。 【主】 自分の考えをまとめるために伝え合おうとしている。	4	1	
Lesson 4 Little Hero ／Let's Listen 2 世界自然遺産 ／Extra Target 1／Word Box 2 【言語材料】 間接疑問文／現在完了進行形	ハチドリの物語を通して不断の努力と不屈の心について考え、好きな物語を紹介する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】 間接疑問文・現在完了進行形の形・意味を理解している。 【思・判・表】 考えや理由などを話したり書いたりして伝え合っている。 【主】 好きな物語について、主体的に紹介しようとしている。	5	2	
Lesson 5 Special Makeup in Kabuki ／Word Box 3／Reading 1 Mujina ／文法のまとめ2／Lesson 6 Seeds for Future Generations 【言語材料】 to不定詞を含む表現／動詞の目的語になるif節	日本の伝統文化と伝統野菜について学び、地元で有名な場所やものを英語で説明する。	身近なものから学ぶ	【知・技】 to不定詞を含む表現・動詞の目的語になるif節の形・意味を理解している。 【思・判・表】 情景や登場人物の心情が伝わりやすいように読む要点を捉えている。 【主】 地元の有名な場所やものについて、考えや情報などを伝え合おうとしている。	6	2	
■後期 Lesson 7～10・Reading						
Lesson 7 Over the Wall ／Communication 2 入国審査 ／ロンドンの地下鉄 【言語材料】 関係副詞 where, when	世界中で壁画を描く活動を通して、世界の人々と交流する方法について述べる。	仲間とともに学ぶ	【知・技】 関係副詞where・whenを用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 路線図を見ながら、相手が理解しやすいような案内をしている。 【主】 外国の人々と交流する方法について、情報や考えを伝え合おうとしている。	7	1	1
Lesson 8 Inspiration from Nature ／文法のまとめ3 【言語材料】 知覚動詞	生物模倣について学び、自然界のデザインをヒントにした製品について発表する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】 知覚動詞を用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 紹介記事を作成し、情報などを話したり書いたりして伝え合っている。 【主】 自分の考えをまとめるために伝え合おうとしている。	8	1	
Word Box 4 Various Jobs 【言語活動】 将来つきたい職業とその理由	仕事や職業を表す語句や表現を用いて、将来つきたい職業とその理由を述べる。	身近なものから学ぶ	【知・技】 仕事や職業を表す語句や表現を用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 将来つきたい職業とその理由について、的確に書いて伝えている。 【主】 自らの進路と関連づけて、主体的に表現しようとしている。	9	1	1
Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate ／エッセイライティング ／Extra Target 2 【言語材料】 使役動詞／仮定法過去	カカオ農園の実態と児童労働の解決策を学び、社会的な問題について英語で意見を述べる。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】 使役動詞・仮定法過去を用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 必要な情報や感想・意見を構成して、読む者が理解しやすいエッセイを書いている。 【主】 社会問題について、情報や考えなどを伝え合おうとしている。	10	1	
Lesson 10 Fighting Angel ／文法のまとめ4 【言語材料】 分詞構文	ナイチンゲールの生涯について学び、人を助ける職業について英語で説明する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】 分詞構文を用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 人を助ける職業について、情報や考えなどを伝え合っている。 【主】 自分の考えをまとめるために伝え合おうとしている。	11	2	
Reading 2 Bear's Pie ／Word Box 5 【言語活動】 朗読劇の発表	物語の結末を考えて配役を決め、登場人物の気持ちが変わるように朗読劇を演じる。	仲間とともに学ぶ	【知・技】 内容を読み取り、朗読劇を演じる技能を身につけている。 【思・判・表】 登場人物の気持ちが伝わりやすいように、朗読する要点を捉えている。 【主】 仲間と協議して発表しようとしている。	12	2	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全12回	法定16	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全12回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※言語活動（発表・やり取り）を含む	法定16単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	外国語は言語活動を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。
試験	前期試験（報告課題第1～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第7～12回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：外国語 / 科目：英語コミュニケーションⅢ / 単位数：4 / 教科書：All Aboard! English Communication Ⅲ（東京書籍） / 報告課題：12回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：16単位時間（外国語＝1単位あたり4時数×4単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共通理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共通理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～6回の範囲（Lesson 1～6・Reading 1） / 後期＝報告課題第7～12回の範囲（Lesson 7～10・Extra Target・Reading 2）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共通理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回数	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 Lesson 1～6・Reading 1						
Lesson 1 Gifts to Barcelona 【言語材料】 to不定詞／動名詞 【言語活動】 建築物の英語紹介	ガウディが設計した建築物の概念や特徴と、バルセロナにおけるその意味について学習する。	身近なものから学ぶ	【知・技】 to不定詞・動名詞を用いた文の形・意味を理解し、調べた事柄を整理している。 【思・判・表】 建築物を紹介するレポート番組を作るにあたり、情報や考えを伝え合っている。 【主】 相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために伝え合おうとしている。	1	2	
Lesson 2 Akkumui 【言語材料】 現在完了形 【言語活動】 生き物の特徴の説明	北海道の野生動物観察ツアーガイドの説明を通して、エゾモモンガやアイヌの人々について学習する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】 現在完了形を用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 写真を示しながら情報や感想などを話したり書いたりして伝え合っている。 【主】 生き物について、自分の考えをまとめるために伝え合おうとしている。	2	2	
Lesson 3 Your True Colors 【言語材料】 使役動詞 【言語活動】 英語インタビュー	衣服の働きと自己表現としてのファッションについて学習する。	身近なものから学ぶ	【知・技】 使役動詞を用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 インタビュー原稿を書いてインタビューをしたり、答えたりしている。 【主】 ファッションやスタイルについて、情報や気持ちを伝え合おうとしている。	3	1	
Lesson 4 Our Future Food? 【言語材料】 受け身 【言語活動】 ミニディベート	コオロギを使用する昆虫食についての対話を通して、食糧問題について学習する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】 受け身を用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 論議についての意見を書き、意見や情報を話してミニディベートを行っている。 【主】 食糧問題について、相手の意見を知り自分の考えをまとめようとしている。	4	1	1
Lesson 5 Madagascar 【言語材料】 関係代名詞 【言語活動】 プレゼンテーション	マダガスカル の自然と人々の生活を通して、地球環境や生態系について考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】 関係代名詞who, which, thatを用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 地域の自然の特徴について、原稿を書いてプレゼンテーションを行っている。 【主】 情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。	5	1	1
Reading 1 The Fun They Had ／Lesson 6 The Mystery of the Terracotta Warriors 【言語材料】 関係代名詞の非制限用法	未来の学校を描いた物語を音読し、秦の始皇帝の業績と兵马俑について学習する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】 関係代名詞の非制限用法と物語の内容を理解している。 【思・判・表】 訪れてみたい史跡について、まとまりのあるパラグラフを書いて発表している。 【主】 各場面の状況や登場人物の心情が伝わりやすいように読む要点を捉えようとしている。	6	1	
■後期 Lesson 7～10・Extra Target・Reading 2						
Lesson 7 Green Challenges 【言語材料】 比較表現 【言語活動】 プレゼンテーション	地球温暖化と再生可能エネルギーについての発表を通して、エネルギー問題と解決策を学習する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】 比較表現を用いた文の形・意味を理解し、グラフから読み取った事柄を整理している。 【思・判・表】 再生可能エネルギーについて、国や地域を比較してプレゼンテーションを行っている。 【主】 相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために伝え合おうとしている。	7	1	1
Lesson 8 Witnesses of War 【言語材料】 名詞を後ろから説明する分詞 【言語活動】 まとまりのある文章	被爆した広島路面電車とその運転士だった女子生徒の経験を通して、平和の大切さについて考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】 名詞を後ろから説明する分詞を用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 経験したことなどについて、まとまりのあるパラグラフを書いて発表している。 【主】 平和の大切さについて、情報や考えなどを伝え合おうとしている。	8	1	
Lesson 9 The Wonders of Lightning 【言語材料】 仮定法過去 【言語活動】 ミニディベート	雷の発生のしくみや避難方法、地球温暖化との関係などについて学習する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】 仮定法過去を用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 電気自動車への切り替えについて、意見や情報を話してミニディベートを行っている。 【主】 相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために伝え合おうとしている。	9	1	
Extra Target 1・2 【言語材料】 過去完了形／過去完了進行形／無生物主語	過去のある時点までの完了・経験・継続、および無生物主語を用いた表現を的確に伝える。	身近なものから学ぶ	【知・技】 過去完了形・過去完了進行形・無生物主語の形・意味を理解している。 【思・判・表】 原因や理由、条件や手段、時間などを的確に伝える。 【主】 英語らしい表現を用いて的確に伝えるようとしている。	10	1	1
Lesson 10 Katherine's Long Journey 【言語材料】 関係代名詞 whose 【言語活動】 英語エッセイ	人種差別の壁を越えて米国の宇宙開発に貢献した数学者と、差別の問題について学習する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】 関係代名詞whoseを用いた文の形・意味を理解している。 【思・判・表】 社会に影響を与えた人物について、まとまりのあるエッセイを書いて発表している。 【主】 差別の問題について、自分の考えをまとめて伝えようとしている。	11	2	
Reading 2 Table for Two 【言語活動】 音読	若い男女の2度の巡り合いの物語を読み、各場面の状況や登場人物の心情を読み取る。	仲間とともに学ぶ	【知・技】 Table for Twoの内容を読み取る技能を身につけている。 【思・判・表】 各場面の状況や心情が聞き手に伝わりやすいように読む要点を捉えている。 【主】 内容に関する問いに答えようとしている。	12	2	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登録日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全12回	法定16	追加4
記入欄	学習センター名:	／ 登校形態（週5・週3・週1等）:	／ 合計面接指導時数:			

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全12回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※言語活動（発表・やり取り）を含む	法定16単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	外国語は言語活動を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。
試験	前期試験（報告課題第1～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第7～12回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：外国語 / 科目：論理・表現Ⅰ / 単位数：2 / 教科書：NEW FAVORITE English Logic and Expression I Revised（東京書籍） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8単位
時間（外国語＝1単位あたり4時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入り口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切に する。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（Unit 1 Lesson 1～9） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（Unit 1 Lesson 10～12・Unit 2 Lesson 1～8）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告 課題回	面接指導時 数 (法定)	追加登校 面接時数
■前期 Unit 1 場面に応じたやり取り						
Unit 1 Lesson 1 初めての食事／ Lesson 2 道に迷う／ Lesson 3 人物紹介 【言語の働き】褒める・勧める・断る／ 提案する・依頼する・道順を説明する／人を紹介する	留学先での食事・道案内・スピーチの場面で、褒める・提 案する・紹介する表現を使い分ける。	仲間とともに学ぶ	【知・技】褒める、勧める、断る、提案する、依頼するときの表現の形・意味・用法を理解 している。 【思・判・表】場面や状況を理解し、適切な表現を用いて自分の考えや気持ちを表現してい る。 【主】自身の活動を振り返りながら、繰り返し活動に取り組もうとしている。	1	2	
Unit 1 Lesson 4 体調が悪い／ Lesson 5 買い物／ Lesson 6 行ってみたい場所 【言語の働き】体調を伝える／描写する／ 希望と理由を述べる	体調・買い物・行ってみたい場所希望の場面で、描写や理 由づけを伴う表現を用いて伝え合う。	身近なものから学ぶ	【知・技】体調を伝える、描写する、希望や理由を述べる表現の形・意味・用法を理解して いる。 【思・判・表】相手が納得できるよう論理を一貫させて理由を述べている。 【主】自分の言葉で考えや気持ちを表現しようとしている。	2	1	1
Unit 1 Lesson 7 イベントに誘われる／ Lesson 8 スクールカウンセラーに相談／ Lesson 9 お気に入りを紹介 【言語の働き】誘う・断る／相談する／ あらすじを要約する・感想を述べる	誘い・相談・紹介の場面で、相手に配慮した表現を用いて 自分の考えを伝える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】誘う、状況を説明する、あらすじを要約する・感想や批評を述べる表現を理解し ている。 【思・判・表】相手に配慮した形で理由を述べたり、順序だてて要約したりしている。 【主】聞き手や読み手にわかりやすく表現しようとしている。	3	1	1
■後期 Unit 1（続）／Unit 2 論理的な発信						
Unit 1 Lesson 10 待ち合わせに遅刻／ Lesson 11 家庭でのディスカッション／ Lesson 12 英字新聞に投稿 【文法】使役動詞／仮定法	謝罪・共感・主張の場面で、仮定法などを用いて要望や主 張とその理由を述べる。	仲間とともに学ぶ	【知・技】謝る、共感を述べる、要望や主張を述べる表現の形・意味・用法を理解している 。 【思・判・表】相手の抱える問題に対する解決策を提案したりして表現している。 【主】自身の活動を振り返りながら、繰り返し活動に取り組もうとしている。	4	2	
Unit 2 Lesson 1・2 クラスでディベート ／Lesson 3 経験談のスピーチ／ Lesson 4 遊びやスポーツを紹介 【言語の働き】理由・例／反駁・引用／ 描写／手順の説明	ディベートとスピーチを通して、理由・例・反駁・手順の 説明を論理的に組み立てる。	仲間とともに学ぶ	【知・技】理由を述べる、反駁する、順序立てて説明する表現を理解している。 【思・判・表】相手を説得するために自説を補強する理由を述べたり、例を挙げたりしてい る。 【主】相手の理解に配慮して、繰り返し活動に取り組もうとしている。	5	1	1
Unit 2 Lesson 5 日本をPR／ Lesson 6 物語の両面を伝える／ Lesson 7 読み手を納得させる／ Lesson 8 読み手を説得する 【言語の働き】事実と意見の区別／ 利点と欠点／根拠の説明／引用と説得	事実と意見を区別し、利点と欠点や根拠を示しながら読み 手を説得する文章を書く。	身近なものから学ぶ	【知・技】事実と意見を区別して述べる、引用する、説得する表現を理解している。 【思・判・表】ディスコースマーカーを適切に用いて、理由・根拠を説明している。 【主】相手が納得できるように、自分の考えや気持ちを表現しようとしている。	6	1	1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全 6 回	法定 8	追加 4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週 5・週 3・週 1 等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わり の中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせ ず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れて教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全 6 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中ス クーリング ※言語活動（発表・やり取り）を含む	法定 8 単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	外国語は言語活動を伴うため 、面接指導時数を1単位あたり 4時数とする（規程第4条9） 。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和 8 年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科: 外国語 / 科目: 論理・表現Ⅱ / 単位数: 2 / 教科書: NEW FAVORITE English Logic and Expression (東京書籍) / 報告課題: 6 回 / 定期試験: 前期・後期各1回 / 面接指導: 8 単位時間 (外国語＝1単位あたり4時数×2単位)

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なもののから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第 1 ～ 3 回の範囲（Lesson 1～3） / 後期＝報告課題第 4 ～ 6 回の範囲（Lesson 4～6）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 Lesson 1～3						
Lesson 1 友達に報告する 【題材】バムが友達に日本へ留学することを報告	相手に呼びかけたり、話しかけたりするときの英語表現を正しく使う。	身近なものから学ぶ	【知・技】訂正する・心配する・感謝するの用法を理解し、時や状況に応じて正しく使っている。 【思・判・表】英語で表現するときに、相手に伝わるように工夫している。 【主】報告する内容を正しく表現しようとしている。	1	2	
Lesson 2 日本での初登校 【題材】日本の学校に初登校をして驚いたり、繰り返し聞き返したり、言い換えたりする表現	日本の学校にはアメリカの学校にない語句があり、それを英語で表現する。	身近なものから学ぶ	【知・技】出てくる単語を理解し、正しく使っている。 【思・判・表】伝えたいことに応じて、適切な表現を選んで文を作っている。 【主】使われている表現を活用している。	2	1	1
Lesson 3 経験についてのスピーチ 【題材】ボランティア活動について話す	ボランティアに関するスピーチを考え、聞き手を引き込み、活動内容、気持ちや感想を正しく表現する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】伝えたい意味に応じて正しく使っている。 【思・判・表】自分の話したい内容を英語で表現している。 【主】自分の経験を伝えようとしている。	3	1	1
■後期 Lesson 4～6						
Lesson 4 ファンレター 【題材】好きな歌手に英語でファンレターを書く。	自分が書きたいと望む内容を表現し、相手の好きなところを具体的に褒める。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】英語での褒め方について理解している。 【思・判・表】学んだことについて話したり、文章を書いたりしている。 【主】自分の想いを伝えようとしている。	4	2	
Lesson 5 イベントに誘う 【題材】友人をイベントに誘う。	友人を適切な言い回しを使ってイベントに誘い、イベントについて具体的な説明する。	身近なものから学ぶ	【知・技】さまざまな表現について理解している。 【思・判・表】伝えたい情報に応じて、チランに適切な文を作っている。 【主】誘いに来てくれるような表現を工夫する。	5	1	1
Lesson 6 図書館で資料探し 【題材】図書館で行う主な行動を英語で表現する。	図書館で資料を探す時に、図書館司書に聞き直したり、具体的な依頼をする。	仲間とともに学ぶ	【知・技】図書館で司書に相談する表現ができる。 【思・判・表】問題や調べたい内容を表現している。 【主】資料探しに必要な会話が出来る。	6	1	1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登録日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全 6 回	法定 8	追加 4
記入欄	学習センター名: / 登校形態（週 5・週 3・週 1 等）: / 合計面接指導時数:					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全 6 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング※言語活動（発表・やり取り）を含む	法定 8 単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	本校の履修条件は1単位あたり時間数2時間以上・添削枚数6枚とする。外国語の法定時数は1単位あたり4時数（規程第4条9）。
試験	前期試験（報告課題第 1 ～ 3 回の範囲）	1 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第 4 ～ 6 回の範囲）	1 回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：外国語 / 科目：論理・表現III / 単位数：2 / 教科書：NEW FAVORITE English Logic and Expression III（東京書籍） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8単位時間（外国語＝1単位あたり4時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものを学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（英語でよりよく表現するには・Lesson 1～5） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（Lesson 6～10）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 表現の基礎／Lesson 1～5						
英語でよりよく表現するには／Lesson 1 食糧問題についてディスカッションする 【言語の働き】議論する・提案する	音の脱落・連結・同化やスピーチの基本を学び、日本の食品廃棄物について議論する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】音の脱落・連結・同化や、議論する・提案する表現を理解している。 【思・判・表】適切なリズムを用いたり推敲を行ったりして、相手を説得できるよう表現している。 【主】自らの「英語の壁」を意識し、コミュニケーションを成立させようとしている。	1	2	
Lesson 2 メールで近況を伝える／Lesson 3 学校新聞でアドバイスする 【言語の働き】気持ちを伝える／助言する・行動を促す	ホストマザーへの返信と後輩へのアドバイスを、相手に共感・納得してもらえるよう書く。	仲間とともに学ぶ	【知・技】個人的なことを書く、助言する、行動を促す表現を理解している。 【思・判・表】相手の立場や状況を理解し、詳しく表現している。 【主】主体的に助言したり行動を促したりして、自分の言葉で表現しようとしている。	2	1	1
Lesson 4 宇宙についてスピーチする／Lesson 5 イベントなどを説明する 【言語の働き】主張する・仮定する／基本情報と詳細を伝える	火星移住プロジェクトへの反対意見を述べ、イベントの基本情報と詳細を誤解なく伝える。	身近なものから学ぶ	【知・技】主張する、仮定する、基本情報や詳細を伝える表現を理解している。 【思・判・表】相手の知識や状況を理解し、自分の考えや仮定・推測を詳しく表現している。 【主】主体的に主張したり仮定したりして、自分の言葉で表現しようとしている。	3	1	1
■後期 Lesson 6～10						
Lesson 6 理想の場所や時間を描写する／Lesson 7 日本の観光をプレゼンテーションする 【言語の働き】描写する／説得する	理想の家を描写し、観光旅行先として日本をアピールするプレゼンテーションを行う。	身近なものから学ぶ	【知・技】見た目を描写する、特長を説明する、説得する表現を理解している。 【思・判・表】相手に理解してもらうことができるよう、詳しく表現している。 【主】主体的に特長を説明したり説得したりしようとしている。	4	2	
Lesson 8 趣味について書く／Lesson 9 物語を分析して評論する 【言語の働き】物語る・読み手をひきつける／分析する・評論する	自分の趣味について物語り、テレビコマーシャルを分析して評論する。	身近なものから学ぶ	【知・技】できごとについて物語る、分析する、評論する表現を理解している。 【思・判・表】相手に同意してもらうことができるよう、分析や評論を詳しく表現している。 【主】主体的に分析・評論し、自分の言葉で表現しようとしている。	5	1	1
Lesson 10 学習環境についてディベートする 【言語の働き】立論する・反駁する・意見をまとめて再主張する	オンライン授業についてのディベートを通して、建設的な議論の進め方を身につける。	仲間とともに学ぶ	【知・技】立論する、反駁する、意見をまとめて再主張する表現を理解している。 【思・判・表】相手側の主張や反駁を理解し、建設的な議論ができるよう詳しく表現している。 【主】主体的に立論・反駁し、自分の考えや主張を自分の言葉で表現しようとしている。	6	1	1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登録日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定8	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れのない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。
これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※言語活動（発表・やり取り）を含む	法定8単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	外国語は言語活動を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：芸術 / 科目：音楽Ⅰ / 単位数：2 / 教科書：音楽Ⅰ Tutti＋改訂版（教育出版） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8単位時間（芸術＝1単位あたり4時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なもののから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（歌唱・器楽・鑑賞①） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（鑑賞②・舞台芸術・楽典）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 表現（歌唱・器楽）／鑑賞①						
1 歌唱 【実技】独唱・斉唱・合唱	多様な表現形態を通して日本語や外国語の歌詞を味わい、歌唱形態に応じた発声に気をつけて表現する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】創意工夫を活かした音楽表現に必要な技能を身につけ、歌唱で表している。 【思・判・表】要素同士の関連を知覚し、どのように表現するかを考えている。 【主】主体的・協働的に表現の学習活動に取り組もうとしている。	1	2	
2 器楽 【実技】和楽器・リコーダー・ギター	和楽器やリコーダー、ギターなどの基礎的な奏法を身につけ、独奏・重奏・合奏・身体表現を体験する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】楽器の音色や奏法の特徴を活かした技能を身につけ、器楽で表している。 【思・判・表】曲想にあった音楽表現を工夫し、イメージをもって演奏している。 【主】主体的・協働的に表現の学習活動に取り組もうとしている。	2	2	
3 鑑賞① 日本の音・世界の音 【鑑賞】我が国及び郷土の伝統音楽／世界各地の諸民族の音楽	伝統音楽や諸民族の音楽の特徴を知り、音楽のよさや美しさについて理解を深める。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】文化的・歴史的背景との関わり及び音楽の多様性について理解している。 【思・判・表】旋律や声の音色の特徴を知覚し、音楽のよさや美しさを味わっている。 【主】「日本の音・世界の音」に関心をもち、主体的に鑑賞しようとしている。	3	1	
■後期 鑑賞②／舞台芸術／楽典						
4 鑑賞② 音楽史 【鑑賞】各時代の音楽の特徴	音楽史に沿って各時代の特徴を学び、楽曲や演奏を解釈してそれらの価値について理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【思・判・表】音楽の特徴と表現との関わりを感じ取り、価値について考えている。 【主】音楽の多様性や他芸術との関連に気づこうとしている。	4	1	
5 舞台芸術 【鑑賞】オペラ・ミュージカル・歌舞伎	舞台芸術の特徴と文化的・歴史的背景に関心をもち、そのよさや価値について考え味わう。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】舞台芸術の特徴と文化的・歴史的背景について理解している。 【思・判・表】作品の時代背景やあらすじ、特徴などを踏まえて価値を考えている。 【主】舞台芸術への関心・理解を深めようとしている。	5	1	4
6 楽典 （音階の種類／音楽を構成する諸要素）	音階の種類を含めた楽典を理解し、音楽をより良くしている諸要素を知覚する。	身近なものから学ぶ	【知・技】音楽に関する基礎的な知識及び法則を理解している。 【思・判・表】音楽を構成する諸要素を正しくとらえ、音楽性豊かな表現をしている。 【主】表現するための基礎的能力を養おうとしている。	6	1	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定8	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※表現活動（実技・制作）を含む	法定8単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。 本校の履修条件は1単位あたり4時間以上・添削枚数3枚以上
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

■ 本科目における評価の特例

※学習への取り組み状況および活動記録（自己評価・相互評価）も合わせて総合的に評価する。

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：芸術 / 科目：音楽Ⅱ / 単位数：2 / 教科書：音楽Ⅱ Tutti+（教育出版） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8単位時間（芸術＝1単位あたり4時間×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入りに、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にします。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（Voice・Instruments・日本と世界の音楽） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（西洋音楽史・Drama & Music・楽典）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導回数（法定）	追加登校面接回数
■前期 Voice／Instruments／Appreciation①						
1 Voice 【実技】独唱・斉唱・合唱	歌詞の意味や曲の背景を理解し、曲に合った発声や表現を工夫して自分らしい歌い方で表現する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】形式による表現の違いや、歌詞の内容と楽曲背景との関わりを理解している。 【思・判・表】イメージを持って歌い、音楽のよさや美しさを味わっている。 【主】主体的・協働的に表現の学習活動に取り組もうとしている。	1	2	
2 Instruments 【実技】箏・リコーダー・ギター	基本的な演奏のしかたを身に付け、独奏・合奏・声と楽器の組み合わせ・身体表現で音楽を学ぶ。	仲間とともに学ぶ	【知・技】音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりを理解している。 【思・判・表】曲想に合った音楽表現を工夫して、イメージをもって演奏している。 【主】個性豊かな表現ができるよう、主体的に取り組もうとしている。	2	2	
3 Appreciation① 世界の音楽 【鑑賞】民謡・郷土音楽	日本や世界の地域の音楽の特徴を知り、共通点とそれぞれの違いに気づく。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】文化的・歴史的背景との関わり及び音楽の多様性について理解している。 【思・判・表】声・楽器の音色の特徴を知覚し、よさや美しさを感じ取っている。 【主】音楽に対する理解を深め、主体的に歌唱・鑑賞しようとしている。	3	1	
■後期 Appreciation②／Drama & Music／楽典						
4 Appreciation② 西洋音楽史 【鑑賞・発表】作曲家と時代背景の調査	西洋音楽の歴史や作曲家について調べ、曲が生まれた背景や意味を理解し、価値について発表する。	身近なものから学ぶ	【知・技】西洋音楽の歴史や楽曲、作曲家について知覚している。 【思・判・表】曲が生まれた背景や意味を理解し、そのよさや価値を発表している。 【主】幅広い音楽の魅力に気づこうとしている。	4	1	
5 Drama & Music 【鑑賞】オペラ・ミュージカル	舞台作品の鑑賞や表現活動を通して、それを生み出した文化や他の芸術との関わりを考えながら味わう。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】オペラやミュージカルの特徴と表現上の効果との関わりを理解している。 【思・判・表】作品のよさや面白さ、価値について考えている。 【主】文化的・歴史的背景や作曲家への理解を深め、自分から進んで味わおうとしている。	5	1	4
6 楽典 （音楽を形づくっている要素と構成）	音楽を形づくっている要素の働きや構成を理解し、音階の効果を知覚する。	身近なものから学ぶ	【知・技】要素の働きや構成を理解している。 【思・判・表】特質や雰囲気を感じながら、楽曲の特徴づけに気づき思考・判断している。 【主】創造的な表現・鑑賞を行おうとしている。	6	1	
合 計	「面接指導回数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接回数」は各学習センターの登録日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定8	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導回数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時間は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通して学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※表現活動（実技・制作）を含む	法定8単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。 本校の履修条件は1単位あたり4時間以上・添削枚数3枚以上
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

■ 本科目における評価の特例

※学習への取り組み状況および活動記録（自己評価・相互評価）も合わせて総合的に評価する。

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：芸術 / 科目：美術Ⅰ / 単位数：2 / 教科書：高校生の美術1（日本文教出版） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8単位時間（芸術＝1単位あたり4時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（単元1～3） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（単元4～6）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 絵画表現と日本美術						
1 身近なものを描く、大切なものを描く 【実技】デッサン・描画材料の基礎	愛着のある身近なものを観察して、形や素材感、色から主題を見つけ、存在感や雰囲気をつ捉えて描く。	身近なものから学ぶ	【知・技】描画材料や絵の具の基礎的な知識を理解し、創造的な表現に必要な技能を身につけている。 【思・判・表】明暗の調子や形、量感などを表現し、創造的に表現を工夫している。 【主】新たな視点で身近なものを見つめ直そうとしている。	1	2	
2 人物を描く・光を捉える・想像を形に 【実技】鉛筆デッサン・さまざまな描画材料	自分の顔を見つめながら自己の内面や気持ちを表現し、造形の秩序や色の仕組みを学ぶ。	身近なものから学ぶ	【知・技】造形の秩序や色の仕組み、見え方など基本的な知識を理解している。 【思・判・表】表情、顔の角度、配色などを工夫して、豊かに発想し表現している。 【主】描くことを通して自分を見つめ直そうとしている。	2	1	1
3 日本美術・日本画を描く・浮世絵版画の魅力 【鑑賞・実技】日本の美術	日本美術の独自の美意識や自然観、創作の知恵を鑑賞を通して味わい、日本の文化に親しむ。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】基本的な日本美術の知識や代表的な作品について理解している。 【思・判・表】感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取っている。 【主】日本の文化に親しみ、主体的に鑑賞しようとしている。	3	1	1
■後期 版・デザイン・写真						
4 版で表す・版画の種類・文字の基本・生活を彩る模様・西洋の美術 【実技】さまざまな表現技法	版画の種類と表現の特性を理解し、主題に合わせて工夫して作品を制作する。書体の特徴も学ぶ。	身近なものから学ぶ	【知・技】印刷方法や材料の違いによる表現の特性を理解している。 【思・判・表】主題に合わせて工夫し、創造的に表現している。 【主】自分の意図に沿って書体を選び使いこなそうとしている。	4	2	
5 ポスターで伝える・サインのデザイン・文字の基本・美の秩序・色彩 【実技】アクリル絵の具の可能性	ポスターやビクトグラムを学び、目的や使われる場面を考えて自らデザインする。	仲間とともに学ぶ	【知・技】創造的な表現をするために必要な技能を身につけている。 【思・判・表】目的や使われる場面を考えて、豊かに発想しデザインしている。 【主】言語に依存せず情報を伝える工夫に主体的に取り組もうとしている。	5	1	1
6 キャラクターのデザイン・暮らしの中の使うデザイン・美術館に行こう 【鑑賞】著作権と肖像権・近代デザイン史	日本の伝統文様を参考に使う場面を想定した作品を制作し、写真表現と近現代デザイン史を学ぶ。	身近なものから学ぶ	【知・技】著作権と肖像権、近代デザイン史について理解している。 【思・判・表】構図を工夫し、効果を考えて表現する力を身につけている。 【主】デザインについて主体的に考えようとしている。	6	1	1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定8	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れて教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※表現活動（実技・制作）を含む	法定8単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	芸術は表現活動を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。本校の履修条件は1単位あたり4時間以上・添削枚数3枚以上
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

■ 本科目における評価の特例

※学習への取り組み状況および活動記録（自己評価・相互評価）も合わせて総合的に評価する。

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：芸術 / 科目：美術Ⅱ / 単位数：2 / 教科書：高校生の美術2（日本文教出版） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8単位時間（芸術＝1単位あたり4時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にします。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（単元1～3） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（単元4～6）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 絵画表現の探究						
1 絵画の役割と写真の発明、奥行きや空間を捉える、ものの質感を生かして、人物のイメージや心情を捉える 【実技】風景・人物表現	大気の描き方で奥行きや季節・時刻・雰囲気を与え、動きや表情、構図を工夫して心情を表現する。	身近なものから学ぶ	【知・技】創造的な表現をするために必要な技能を身につけている。 【思・判・表】対象から感じ取ったイメージをより効果的に表現している。 【主】主体的に表現の工夫に取り組もうとしている。	1	1	
2 テーマを追求する、感覚の冒険、線と明暗の表現、琳派 【鑑賞】作者の意図と表現の工夫	形や色彩、構図の効果や作風・様式を捉え、作者の意図と表現の工夫について考える。琳派を学ぶ。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】琳派の「継承、創造、装飾」という特徴について理解している。 【思・判・表】作者の意図や構想の独自性と表現の工夫について考えている。 【主】芸術を幅広く理解し、よさや美しさを味わおうとしている。	2	1	2
3 版の表現、生物を空想して、身近なもので生み出す 【実技】銅版画・シルクスクリーン	版画の種類や特性を学び、版の効果を生かした表現を工夫する。架空の生物を具体的に設定して表現する。	身近なものから学ぶ	【知・技】凹版画の特性や複合技法による制作方法を理解している。 【思・判・表】版の効果を生かした表現を工夫し、豊かに発想している。 【主】主体的に制作に取り組もうとしている。	3	2	
■後期 鑑賞とデザイン・映像表現						
4 現代につながる美術、日本の前衛、美術の起源、アジアの美術、石のもつ素材の可能性 【鑑賞】現代芸術の動向	美術の起源やアジアの美術に触れ、世界や日本の現代芸術の在り方・考え方を学ぶ。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】美術の起源やアジアの美術、現代芸術の動向について理解している。 【思・判・表】作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えている。 【主】美意識を磨き、主体的に鑑賞しようとしている。	4	1	2
5 情報を伝えるデザイン、行為を誘うデザイン、感覚に訴えるデザイン 【実技】「ヒロシマの心」ポスター／部活動紹介チラシ	使う人を意識したデザインを考え表現し、テーマを生かしたポスターデザインを行う。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】カラー印刷の仕組みや色の見え方を学び、色彩についての知識を深めている。 【思・判・表】「誰が」「何のために」使うかを考え、創造的に表現を工夫している。 【主】言葉を超えてメッセージを伝えようとしている。	5	1	
6 アニメーションで伝える、複数の写真で表す 【実技】コマ撮りアニメーションの技法	アニメーションの演出の工夫や、複数の写真を組み合わせることで生まれる効果を体験し表現の幅を深める。	仲間とともに学ぶ	【知・技】コマ撮りアニメーションの技法について理解している。 【思・判・表】作者の創造的な工夫に着目し、伝達表現の特性やよさについて考えている。 【主】仲間と話し合いながら、主体的に表現しようとしている。	6	2	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定8	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通じた学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング※表現活動（実技・制作）を含む	法定8単位時間＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	芸術は表現活動を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。本校の履修条件は1単位あたり4時間以上・添削枚数3枚以上。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

■ 本科目における評価の特例

※学習への取り組み状況および活動記録（自己評価・相互評価）も合わせて総合的に評価する。

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：芸術 / 科目：書道Ⅰ / 単位数：2 / 教科書：書Ⅰ（光村図書） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8単位時間（芸術＝1単位あたり4時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（書写から書道へ・漢字の書・仮名の書） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（漢字仮名交じりの書・篆刻/刻字・生活の中の書）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 書道の基礎と臨書						
1 書写から書道へ 【実技】筆使い・字形・配列の確認	小・中学校の国語科書写で学習した内容を確認し、芸術科書道との学習目的の違いを理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】筆使い、字形、文字の大きさと配列などについて理解している。 【思・判・表】書写と書道の学習目的の違いを捉えている。 【主】芸術科書道の学習に関心をもとうとしている。	1	2	
2 漢字の書 【実技】五書体の臨書（篆書・隸書・草書・行書・楷書）	五書体の成立過程と歴史的背景、字形や線質の特徴を理解し、書風に即した用筆・運筆を構想する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思・判・表】古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わっている。 【主】主体的に古典の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	2	1	1
3 仮名の書 【実技】古筆の臨書	漢字の伝来から仮名の成立に至る過程を理解し、線質や字形を生かした表現の技能を身につける。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】万葉仮名から草仮名を経て女手に至る推移とそれぞれの性質を理解している。 【思・判・表】仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆を捉えている。 【主】伝統的な文字文化に親しもうとしている。	3	1	1
■後期 創作と生活の中の書						
4 漢字仮名交じりの書 【実技】紙面構成と創作	漢字と仮名の調和した字形・大きさ・全体の構成を、目的や用途に即した表現形式で構想する。	身近なものから学ぶ	【知・技】漢字仮名交じりの書の特徴を理解している。 【思・判・表】名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想している。 【主】自由な紙面構成に主体的に取り組もうとしている。	4	1	1
5 篆刻・刻字 【実技】選文・検字から押印・補刀まで	印の種類や篆刻に必要な用具とその使い方を理解し、制作手順に沿って作品を仕上げる。	身近なものから学ぶ	【知・技】用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 【思・判・表】「さまざまな姓名印」「落款と落款印」を鑑賞し、構想や表現を生かしている。 【主】制作手順を理解し、主体的に取り組もうとしている。	5	2	
6 生活の中の書 【実技】手紙・表書き・のし袋	基本的な手紙の書式や表書きなど、生活や社会における書の効用について考える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】生活の中の書の書き方について理解している。 【思・判・表】意図に基づいた表現について構想し工夫している。 【主】書のよさや美しさを味わって、生活に生かそうとしている。	6	1	1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定8	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※表現活動（実技・制作）を含む	法定8単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	芸術は表現活動を伴うため、面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。本校の履修条件は1単位あたり4時間以上・添削枚数3枚以上。
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

■ 本科目における評価の特例

※学習への取り組み状況および活動記録（自己評価・相互評価）も合わせて総合的に評価する。

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：芸術 / 科目：書道Ⅱ / 単位数：2 / 教科書：書Ⅱ（光村図書） / 報告課題：6回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8単位時間（芸術＝1単位あたり4時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なもののから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期＝報告課題第1～3回の範囲（漢字の書・仮名の書） / 後期＝報告課題第4～6回の範囲（漢字仮名交じりの書・篆刻/刻字・書道史）

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 臨書の深化						
1 漢字の書① 【実技】楷書の用筆と字の確認／五書体の成立過程	「書道Ⅰ」の学習を振り返り、漢字の五書体の成立過程と歴史的背景を理解して個性を感じ取る。	身近なものから学ぶ	【知・技】書体の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりを理解している。 【思・判・表】それぞれの書体の豊かな個性を感じ取っている。 【主】主体的に古典の鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	1	2	
2 漢字の書② 【実技】書風に即した臨書	日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書の美と時代・風土・筆者との関わりについて理解を深める。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】漢字の書の特質とその歴史について理解を深めている。 【思・判・表】書風に即した用筆・運筆を意識して臨書している。 【主】文字と書の伝統と文化を尊重しようとしている。	2	1	1
3 仮名の書 【実技】墨継ぎ・連綿・短冊の書式	墨継ぎや連綿による表現の美を感じ取り、平仮名と変体仮名の書き方を習得する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】仮名の古筆に基づく効果的な表現の技能、全体の構成の技能を身につけている。 【思・判・表】散らし書き等による全体の構成を工夫している。 【主】短冊の伝統的な書式に主体的に取り組もうとしている。	3	1	1
■後期 創作と書道史						
4 漢字仮名交じりの書 【実技】紙面構成・用具用材を生かした創作	想像した風景がどのような表現の工夫によるものかを確認し、参考古典との関係を意識して創作する。	身近なものから学ぶ	【知・技】目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能を身につけている。 【思・判・表】著作権について確認し、表現効果と参考古典の関係を意識して構想を練っている。 【主】漢字と仮名の調和による全体の構成に主体的に取り組もうとしている。	4	2	
5 篆刻・刻字 【実技】朱文印の制作	朱文印の制作手順を理解し、書体や書風、配字による表現の効果を考えて構想を練る。	身近なものから学ぶ	【知・技】篆刻や刻字を構成するさまざまな要素、表現の効果を理解している。 【思・判・表】仕上がりイメージして、表現や構成を工夫している。 【主】感興や意図に応じて主体的に構想を練ろうとしている。	5	1	2
6 書道史 【鑑賞】書体・古典の成立と文化的背景	学習した書体や古典が成立した時代や文化的背景、成立に至る流れを確認する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解を深めている。 【思・判・表】書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて考えている。 【主】古典の価値とその根拠について主体的に考えようとしている。	6	1	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育課程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定8	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育課程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れて教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※表現活動（実技・制作）を含む	法定8単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	面接指導時数を1単位あたり4時数とする（規程第4条9）。 本校の履修条件は1単位あたり4時間以上・添削枚数3枚以上
試験	前期試験（報告課題第1～3回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（報告課題第4～6回の範囲）	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

■ 本科目における評価の特例

※学習への取り組み状況および活動記録（自己評価・相互評価）も合わせて総合的に評価する。

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：家庭 / 科目：家庭基礎 / 単位数：2 / 教科書：家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍） / 報告課題：4回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：4単位時間（家庭＝1単位あたり2時数×2単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期試験＝レポート第1～2回の範囲（第1～4章） / 後期試験＝レポート第3～4回の範囲（第5～7章）（試験範囲はレポート提出回数と同じ。第8章以降は発展・試験範囲外）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■前期 第1～4章						
第1章 生涯を見通す	生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	身近なものから学ぶ	【知・技】人の一生について様々な生き方があることを理解し、生涯を見通して意思決定していくことの重要性を理解している。 【思・判・表】自己の生活について主体的に考え課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善している。 【主】生涯の生活設計について、自分や家庭の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	1	1	
第2章 人生をつくる	さまざまな生き方を理解し、家族・家庭と生活の結び付き、社会制度としての家族や法律を理解する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】家族・家庭の機能と家族関係、取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。 【思・判・表】自己の意思決定に基づき責任をもって行動することについて課題を設定し、解決している。 【主】様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとしている。	1		1
第3章 子どもと共に育つ 【実習】保育の手芸（布絵本等）	性と生殖に関する健康、子どもの心身の発達と生活習慣、子育て環境の変化と課題を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】乳幼児期の心身の発達と生活、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解している。 【思・判・表】親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について課題を設定し、解決している。 【主】子どもの生活と保育について、地域社会に参画しようとしている。	2	1	
第4章 超高齢社会を共に生きる	加齢に伴う心身の変化や高齢者の尊厳を理解し、自立を支える適切な支援の方法や関わり方を考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】高齢期の心身の特徴、尊厳と自立生活の支援や介護について理解し、生活支援の技能を身に付けている。 【思・判・表】家庭や地域及び社会の果たす役割の重要性について課題を設定し、解決している。 【主】高齢期の生活と福祉について、地域社会に参画しようとしている。	2		1
■後期 第5～7章						
第5章 共に生き、共に支える	家族・家庭生活を支える福祉と、国・地方公共団体の支援体制、支え合いの構造を理解する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】家族・家庭の機能と家族関係、取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。 【思・判・表】自己の意思決定に基づき責任をもって行動することについて課題を設定し、解決している。 【主】様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとしている。	3	1	
第6章 食生活をつくる 【実習】調理実習	食事の意義と栄養素の機能、食品の選び方・保存・衛生、日本と世界の食文化を科学的に理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】栄養の特徴・食品の調理上の性質・食品衛生を理解し、目的に応じた調理の技能を身に付けている。 【思・判・表】食の安全や食文化の継承を考慮した献立作成・調理計画について課題を設定し、解決している。 【主】食生活と健康について、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	3		1
第7章 衣生活をつくる 【実習】被服製作・古布アップサイクル・伝統工芸	被服の機能と着装、材料や性能、洗濯や保管方法を科学的に理解し、資源の視点で衣生活を見直す。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、被服材料、被服衛生について理解している。 【思・判・表】被服の機能や快適性、安全で安心な生活と消費について課題を設定し、解決している。 【主】衣生活と健康について、地域社会に参画しようとしている。	4	1	
■発展（試験範囲外）						
第8章 住生活をつくる／ 第9章 経済生活を営む／ 第10章 持続可能な生活を営む／ 第11章 これからの生活を創造する	住居の機能と防災、消費者の権利と責任、持続可能な消費、生涯の生活設計について理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】住生活・消費生活・持続可能な消費・生活設計について理解している。 【思・判・表】安全で安心な生活と消費について課題を設定し、解決策を構想している。 【主】持続可能なライフスタイルと環境について、地域社会に参画しようとしている。	—		1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全4回	法定4	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、調理実習や手づくり系（被服製作、古布のアップサイクル小物、地域の伝統工芸、保育向けの手芸など）の体験を行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・食文化・衣文化を踏まえた題材が望ましい。体験を単発で終わらせず、該当章の学習のめあて・評価の観点に結びつけ、別紙「スクーリング評価シート」により評価する。「作って終わり」にせず、体験を教科の学びに接続する。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全4回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※調理実習・被服製作等の実習を含む	法定4単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	家庭は1単位につき2～8単位時間（規程第4条9は1単位あたり2時数）。実習の内容に応じて上乗せする。
試験	前期試験（レポート第1～2回の範囲（第1～4章））	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（レポート第3～4回の範囲（第5～7章））	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

教科：家庭 / 科目：家庭総合 / 単位数：4 / 教科書：家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍） / 報告課題：8回 / 定期試験：前期・後期各1回 / 面接指導：8単位時間（家庭＝1単位あた
り2時数×4単位）

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切にする。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

前期試験＝レポート第1～4回の範囲（第1～4章） / 後期試験＝レポート第5～8回の範囲（第5～8章）（試験範囲はレポート提出回数と同じ。第9章以降は発展・試験範囲外）
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技・思・判・表／主）	報告 課題回	面接指導時 数 （法定）	追加登校 面接時数
■前期 第1～4章						
第1章 生涯を見通す	生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解し、生活資源を活用した生活設計を考える。	身近なものから学ぶ	【知・技】生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解し、情報の収集・整理ができる。 【思・判・表】生活資源を活用した生活設計について課題を設定し、解決策を構想している。 【主】生活文化を継承し、自分や家庭の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	1	1	1
第2章 人生をつくる	家族・家庭の機能と法律、仕事と家庭の両立、家庭生活と地域の結びつきを理解する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】各ライフステージの特徴と課題、家族・家庭と法律、社会環境の変化について理解を深めている。 【思・判・表】自己の意思決定に基づき責任をもって行動することについて課題を設定し、解決している。 【主】青年期の自立と家族・家庭について、地域社会に参画しようとしている。	2	1	1
第3章 子どもと共に育つ 【実習】保育の手芸（布絵本等）	性と生殖に関する健康、子どもの心身の発達と生活、子育て環境の変化と課題を理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】親の役割と保育、乳幼児期の心身の発達を理解し、子どもに適切に関わる技能を身に付けている。 【思・判・表】親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について課題を設定し、解決している。 【主】子どもの関わりと保育・福祉について、地域社会に参画しようとしている。	3	1	
第4章 超高齢社会を共に生きる	加齢に伴う心身の変化と高齢者の尊厳を理解し、高齢者を支える社会の仕組みや課題を考える。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】高齢期の心身の特徴、尊厳と自立生活の支援や介護、高齢者福祉について理解を深めている。 【思・判・表】心身の状況に応じた適切な支援や関わりについて課題を設定し、解決している。 【主】高齢者との関わり、福祉について、地域社会に参画しようとしている。	4	1	
■後期 第5～8章						
第5章 共に生き、共に支える	家族・家庭生活を支える福祉と支援体制を理解し、多様性を発揮して共に暮らす社会を考える。	仲間とともに学ぶ	【知・技】家庭と地域との関わり、様々な人々が共に支え合って生きることの意義を理解している。 【思・判・表】家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもち、関わり方について課題を設定し、解決している。 【主】共生社会と福祉について、地域社会に参画しようとしている。	5	1	
第6章 食生活をつくる 【実習】調理実習	食生活の課題と食事の意義、栄養素と調理性、食品衛生、日本と世界の食文化を科学的に理解する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】食と人との関わり、栄養的特質、調理上の性質、食品衛生を科学的に理解し、調理の技能を身に付けている。 【思・判・表】健康と環境に配慮した食事、日本の食文化の継承・創造について課題を設定し、解決している。 【主】食生活の科学と文化について、地域社会に参画しようとしている。	6	1	2
第7章 衣生活をつくる 【実習】被服製作・古布アップサイクル・伝統工芸	被服の機能と着装、材料・性能・加工、洗濯や保管方法を科学的に理解し、衣生活を見直す。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】被服と人との関わり、身体的特性と被服の機能、被服材料・衛生・管理を科学的に理解している。 【思・判・表】健康で快適な着装、日本の衣文化の継承・創造について課題を設定し、解決している。 【主】衣生活の科学と文化について、地域社会に参画しようとしている。	7	1	
第8章 住生活をつくる	住居の機能とライフステージごとの住要求、防災・環境性能、地域コミュニティづくりを理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】住まいと人との関わり、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能を科学的に理解している。 【思・判・表】住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくりについて課題を設定し、解決している。 【主】住生活の科学と文化について、地域社会に参画しようとしている。	8	1	
■発展（試験範囲外）						
第9章 経済生活を営む／ 第10章 持続可能な生活を営む／ 第11章 これからの生活を創造する	消費者の権利と責任、家計と経済のつながり、持続可能な消費、生涯の生活設計について理解する。	身近なものから学ぶ	【知・技】消費生活の現状と課題、契約の重要性、消費者保護の仕組み、家計の構造について理解を深めている。 【思・判・表】責任ある消費、生活における経済の管理や計画について課題を設定し、解決している。 【主】持続可能なライフスタイルと環境について、地域社会に参画しようとしている。	—		
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登録日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全8回	法定8	追加4
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時間は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、調理実習や手づくり系（被服製作、古布のアップサイクル小物、地域の伝統工芸、保育向けの手芸など）の体験を行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・食文化・衣文化を踏まえた題材が望ましい。体験を単発で終わらせず、該当章の学習のめあて・評価の観点に結びつけ、別紙「スクーリング評価シート」により評価する。「作って終わり」にせず、体験を教科の学びに接続する。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）の提出・添削・返却	全8回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※調理実習・被服製作等の実習を含む	法定8単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	家庭は1単位につき2～8単位時間（規程第4条9は1単位あたり2時数）。実習の内容に応じて上乗せする。
試験	前期試験（レポート第1～4回の範囲（第1～4章））	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
試験	後期試験（レポート第5～8回の範囲（第5～8章））	1回	別掲「年間行事予定表」のとおり	

令和 8 年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

領域：特別活動 ／ 単位数：単位を認定しない（卒業までに30単位時間以上） ／ 教科書：なし ／ 実施：ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事 ／ ※卒業までに30単位時間以上の履修が必要（学習指導要領）

■ この活動が目指すもの

星槎の三つの約束を目標に、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育て、共生社会の実現を目指す。					
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る					
■ 定期試験範囲					
定期試験は実施しない。活動への参加状況および振り返り（自己評価・相互評価）により評価する。					

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技・思・判・表／主）	報告 課題回	面接指導時 数 (法定)	追加登校 面接回数
■ホームルーム活動						
ホームルーム活動 （学級づくり／進路・キャリア／ 人間関係づくり／健康と安全／ 合理的配慮に関する対話）	自主的・実践的な集団活動を通して、よりよい人間関係を形成し、 自己の生き方を考え主体的に判断する。	仲間とともに学ぶ	【知・技】集団や社会の形成者としての役割と、合意形成の方法について理解している。 【思・判・表】ホームルームや学校生活の課題を見いだし、解決に向けて話し合い合意形成を図っている。 【主】三つの約束（人を認める・人を排除しない・仲間をつくる）を行動として表そうとしている。	－	適宜	
■生徒会活動						
生徒会活動 （生徒会役員／委員会活動／ ボランティア活動／地域との連携）	全校の生徒をもって組織する集団活動を通して、学校生活の充実 と向上のために協力して取り組む。	仲間とともに学ぶ	【知・技】生徒会の意義と、学校生活の向上に果たす役割について理解している。 【思・判・表】学校生活の課題を見だし、他者と協働して解決に取り組んでいる。 【主】仲間とともに学校をつくる一員として、主体的に参画しようとしている。	－	適宜	
■学校行事						
儀式的行事 （入学式・卒業式・始業式・終業式）	厳粛で清らかな気分を味わい、新しい生活への動機づけとし、学校 生活に有意義な変化と折り目をつける。	身近なものから学ぶ	【知・技】儀式的行事の意義と、集団における適切な行動の仕方について理解している。 【思・判・表】場に応じた行動を判断し、実践している。 【主】節目を大切にし、新たな生活へ主体的に向かおうとしている。	－	適宜	
文化的行事 （文化祭・作品展示・発表会／ 芸術鑑賞）	日頃の学習成果を発表し、その向上の意欲を高め、文化や芸術に 親しむ。	仲間とともに学ぶ	【知・技】文化や芸術に親しむ意義について理解している。 【思・判・表】仲間と協働して企画・準備・運営し、成果を発表している。 【主】互いのよさを認め合い、主体的に取り組もうとしている。	－	適宜	
健康安全・体育的行事 （体育祭・スポーツ大会／ 健康診断／避難訓練・防災）	心身の健全な発達と健康の保持増進を図り、安全な行動や規律ある 集団行動の体得に努める。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】健康の保持増進と、事故や災害から身を守る行動の仕方について理解している。 【思・判・表】自他の安全に配慮した行動を判断し、実践している。 【主】自他の生命を尊重し、健康・安全に主体的に取り組もうとしている。	－	適宜	
旅行・集団宿泊的行事 （集中スクーリング／校外学習／ 宿泊研修）	平素と異なる生活環境で、見聞を広め、自然や文化に親しみ、集 団生活の在り方や公衆道徳を体験する。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】集団生活の在り方や公衆道徳について理解している。 【思・判・表】人間関係を深め、体験したことを自己の生き方と結び付けて考えている。 【主】自然や文化に親しみ、仲間との関わりを深めようとしている。	－	適宜	
勤労生産・奉仕的行事 （職場体験／ボランティア活動／ 地域清掃・地域貢献）	勤労の尊さや生産の喜びを体得し、社会奉仕の精神を養う体験が 得られるようにする。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】勤労の意義と、社会奉仕の精神について理解している。 【思・判・表】地域や社会に貢献する活動を計画し、実践している。 【主】社会の一員としての自覚をもち、主体的に取り組もうとしている。	－	適宜	
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接回数」は各学習センターの登校日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			－	10時間以上	
記入欄	学習センター名： ／ 登校形態（週5・週3・週1等）： ／ 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。
--

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
特別活動	ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事	卒業までに 30単位時間以上	別掲「年間行事予定表」のとおり	学習指導要領に基づき、卒業までに30単位時間以上の履修を必要とする。単位は認定しない。
評価	活動への参加状況および振り返り（自己評価・相互評価）による評価	通年	別掲「年間行事予定表」のとおり	定期試験は実施しない。

■ 本科目における評価の特例

特別活動は単位認定を行わないが、卒業までに30単位時間以上の履修を必要とする。活動への参加状況および振り返り（自己評価・相互評価）により3観点で評価する。履修時数・参加記録・振り返りの提出をもって履修と認め、卒業要件の一部とする。

令和8年度 星槎国際高等学校 通信教育実施計画

領域：総合的な探究の時間 / 単位数：3～6単位 / 教科書：なし / 星槎ETM拡充モデル（Type1「得意なこと」を探究→Type2共に「得意」を極める→Type3社会とつなげる）に基づき、共感理解教育の三視点を軸に探究を進める

■ この科目が目指すもの

教科書の習得を最終目的とせず、スクーリングでの体験（身近なものから学ぶ・仲間とともに学ぶ）を入口に、共感理解教育の視点で学びを深め、一人ひとりが「心豊かに生きる・生き切る」力を育てる。偏差値でなく「変化値（成長）」を大切に する。
体験（スクーリング） → 共感理解の三視点（身近・仲間・命の繋がり） → 変化値（成長） → 心豊かに生きる・生き切る

■ 定期試験範囲

定期試験は実施しない。探究の過程（課題の設定・情報の収集・整理分析・まとめ表現）と成果物・ポートフォリオにより評価する。
--

■ 添削指導（報告課題）・面接指導 一覧

学習範囲	単元のめあて	共感理解の視点	評価の観点（知・技／思・判・表／主）	報告課題回数	面接指導時数（法定）	追加登校面接時数
■Type1【一般的探究の活動】まずは「得意なこと」を探究						
1 自分の「得意」に出会う 【活動】選択授業「ゼミ」／部活動・同好会／普段の何気ない「関わり合い」	日々の活動や仲間との関わりの中から、自分が夢中になれること・得意なことの手がかりを見つける。	身近なものから学ぶ	【知・技】探究の意義と進め方、身近な活動が学びにつながることを理解している。 【思・判・表】自分の経験や関心から、探究したい事柄を見い出している。 【主】自己の在り方生き方を考えながら、身近なことから主体的に取り組もうとしている。	1	1	1
2 仲間の中で「得意」を確かめる 【活動】星槎オリンピック／文化祭ほか学校イベント	学校行事や集団活動に参加し、仲間からの反応を通して自分の得意や役割を確かめる。	仲間とともに学ぶ	【知・技】集団の中での自分の役割と、他者との関わり方について理解している。 【思・判・表】活動を振り返り、自分の強みや課題を言葉にしている。 【主】仲間の得意を認め、互いのよさを生かそうとしている。	2	1	1
■Type2【集団適応の活動】つぎは共に「得意」を極める						
3 学びを外に広げる 【活動】星槎大学科目等履修生／高大・高专連携授業	高校の枠を越えた学びに触れ、自分の関心を専門的な領域へと深める。	身近なものから学ぶ	【知・技】専門的な学びの内容と、進路との接続について理解している。 【思・判・表】課題の解決に必要な情報を、適切な方法で収集・整理している。 【主】粘り強く学びを深め、探究を進めようとしている。	3	1	1
4 挑戦の場に立つ 【活動】ヤングチャレンジプロジェクト／高体連・高文連大会出場／ソーシャルスキルトレーニング	仲間とともに目標に向かって挑戦し、その過程で必要な力を身につける。	仲間とともに学ぶ	【知・技】目標達成に必要な計画づくりと、他者と協働する技能を身につけている。 【思・判・表】収集した情報や経験を関係付け、根拠に基づいて考察している。 【主】結果を振り返り、探究の過程を評価・改善しようとしている。	4	1	1
■Type3【現実課題の探究】さいごは社会とつなげる						
5 社会の中で実践する 【活動】校内／外インターンシップ／「授業の事業化」／生徒スタッフ／ピア・サポーター	実社会の現場に身を置き、学んできたことを他者や社会のために生かす。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】勤労の意義と、社会の中で果たす役割について理解している。 【思・判・表】実社会・実生活と自己との関わりから課題を設定し、解決に取り組んでいる。 【主】社会の一員としての自覚をもち、主体的に参画しようとしている。	5	1	1
6 地域とつながり、次へつなぐ 【活動】地域イベント企画運営・参加／ポートフォリオの振り返り・成果発表	地域と協働して活動を企画・運営し、探究の過程全体を振り返って自己の変化と進路に結びつける。	命の繋がりを学ぶ	【知・技】地域社会との協働の在り方と、探究が自己の成長にもつ意味を理解している。 【思・判・表】探究の成果を、根拠を示しながら効果的に表現している。 【主】学んだことをこれからの生活や進路に生かし、心豊かに生きようとしている。	6	1	1
合 計	「面接指導時数（法定）」は高等学校通信教育規程に基づく最低基準。「追加登校面接時数」は各学習センターの登録日数に応じた上乗せ分を各校舎が記入する。			全6回	法定6	追加6
記入欄	学習センター名： / 登校形態（週5・週3・週1等）： / 合計面接指導時数：					

■ 面接指導（スクーリング）～学びの入り口として～

面接指導は、各学習センターへの日常的な登校を基本とし、生徒一人ひとりの状況に応じて「途切れない関わり」の中で行う。本校は高等学校通信教育規程に定める法定時数を上回る学習機会を確保し、通いながら学べる通信制として、日々の関わりの中で学びと生き方を支える。1単位時間は50分とし、定期試験の時数は含まない。 これに加えて、北海道・沖縄で実施する集中スクーリングでは、体験を通した学びを行う。実施内容は校舎と集中スクーリング担当が相談して決定し、開催地の地域性・文化を踏まえた題材が望ましい。いずれの面接指導も体験や活動を単発で終わらせず、事前学習→体験・活動→事後学習・振り返りの流れで教科の学びと生き方につなげる。

■ 一年間の通信教育の計画 ～添削指導・面接指導・試験の実施予定～

具体的な実施日（報告課題の提出期限日・面接指導の実施日・試験の実施日）は、学習センターごとに別掲の「年間行事予定表」に定める。本表と併せて参照すること。				
区分	実施内容	回数・時数	実施予定日	備考
添削指導	報告課題（レポート）・探究記録（ポートフォリオ）の提出・添削・返却	全6回	別掲「年間行事予定表」のとおり	
面接指導	学習センターでの面接指導（1単位時間＝50分）＋集中スクーリング ※Type1～3の探究活動・発表を含む	法定6単位時間 ＋追加登校分	別掲「年間行事予定表」のとおり	総合的な探究の時間は「その他」に準じ、1単位あたり2時数（規程第4条9）。単位数に応じて算定する。
成果発表	探究の成果発表（校内・センター内・地域）	年1回以上	別掲「年間行事予定表」のとおり	定期試験は実施しない。

■ 本科目における評価の特例

定期試験は実施せず、探究の過程（課題の設定・情報の収集・整理分析・まとめ表現）と成果物・ポートフォリオにより3観点で総合評価する。成果発表を行うことを単位修得の要件とする。
--